

マインからマインドへ

八十八か所

めぐりめぐり  
ふれあふれあ  
あいあい

ガイドブック

別子銅山 近代化産業遺産







べっしどうざんぜんたいず

# 別子銅山全体図



大島

黒島海浜公園

マリンパーク新居浜  
新居浜東港

多喜浜駅

国額川緑地  
(河川敷公園)

市営球場

一宮神社

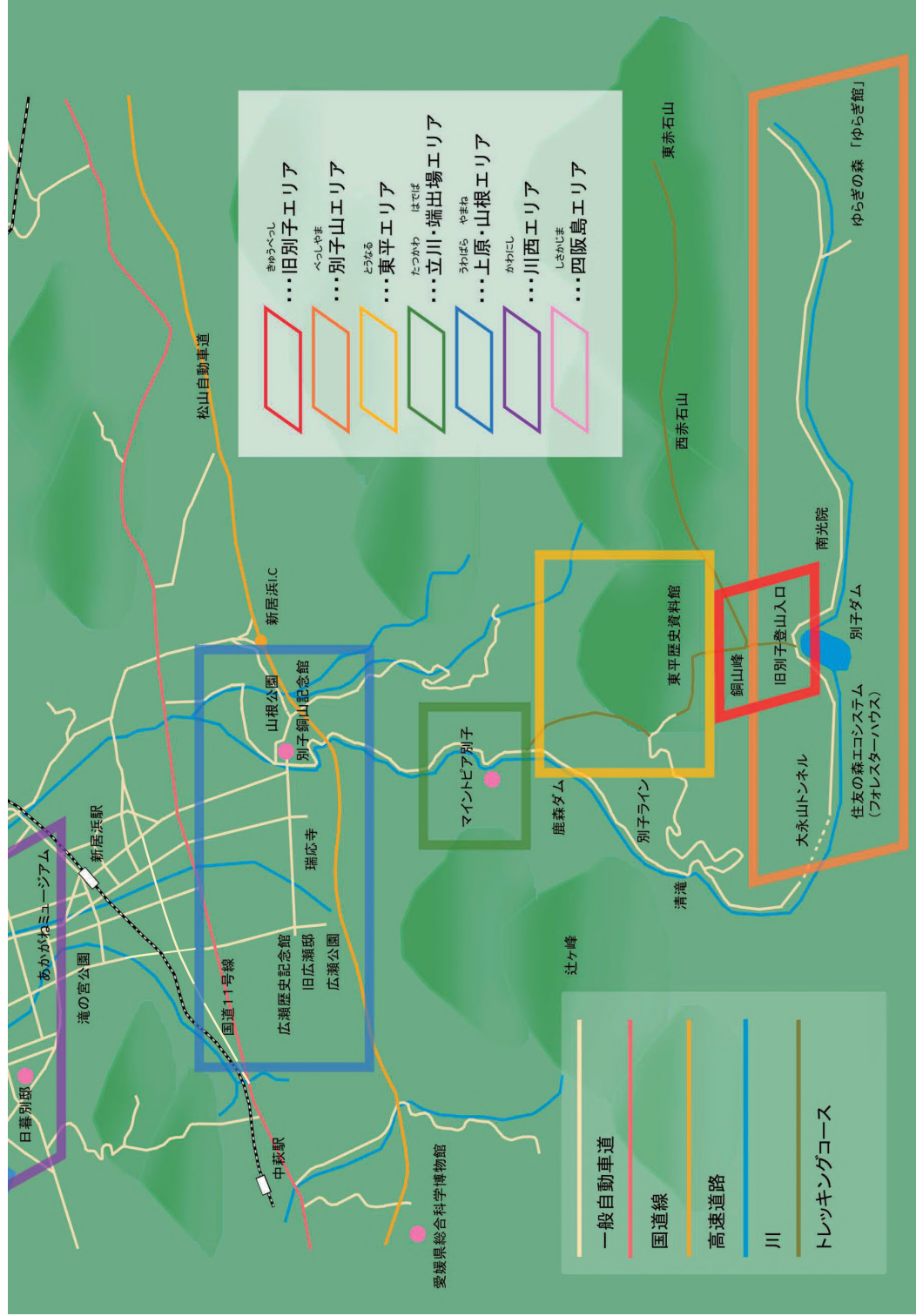
新居浜市役所

新居浜港

住友化学歴史資料館

別子銅山  
記念図書館





- …旧別子エリア  
きゅうべっし
- …別子山エリア  
べっしやま
- …東平エリア  
とうなる
- …立川・端出場エリア  
たつかわ ほどば
- …上原・山根エリア  
うわばら やまね
- …川西エリア  
かわにし
- …四阪島エリア  
しまじま

- 一般自動車道
- 国道線
- 高速道路
- 川
- トレッキングコース

松山自動車道

新居浜IC

国道11号線

山根公園  
別子銅山記念館  
瑞応寺  
広瀬歴史記念館  
旧広瀬邸  
広瀬公園

マウントピア別子

愛媛県総合科学博物館

辻ヶ峰

東平歴史資料館

別子ライン

清滝

鹿森ダム

大永山トンネル

住友の森エコシステム  
(フォレストアーハウス)

南光院

別子ダム

旧別子登山入口

鯛山峰

西赤石山

東赤石山

ゆらぎの森「ゆらぎ館」

あかがねミュージアム

滝の宮公園

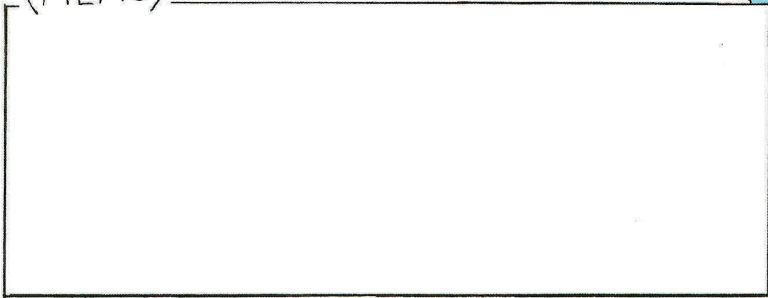
新居浜駅

日暮別邸

中秋駅

# BESSHI MAP

<MEMO>





LET'S START ADVENTURES!



きりべし 旧別子



愛媛県立新居浜南高等学校 エネスコ部

# 別子銅山断面図

べっしどうざんだんめんず

新居浜側  
にいしまがわ

銅山峰 (標高1,310m)  
どうざんみね ひょうこう

東延 (標高1,145m)  
とうえん ひょうこう

角石原 (標高1,100m)  
かどいしはら ひょうこう

第一通洞 (1,021m)  
だいいちのうどう

上部立坑 (356m)  
じょうぶたてこう

第三通洞 (1,795m)  
だいさんのものうどう

東延斜坑 (526m)  
とうえんしやこう

日浦通洞 (2,020m)  
ひうらつうどう

大立坑 (582m)  
おおたてこう

探鉱通洞 (5,100m)  
たんこうつうどう

第四通洞 (4,596m)  
だいよんのものうどう

大斜坑口 (標高210m)  
だいにしやこうぐち ひょうこう

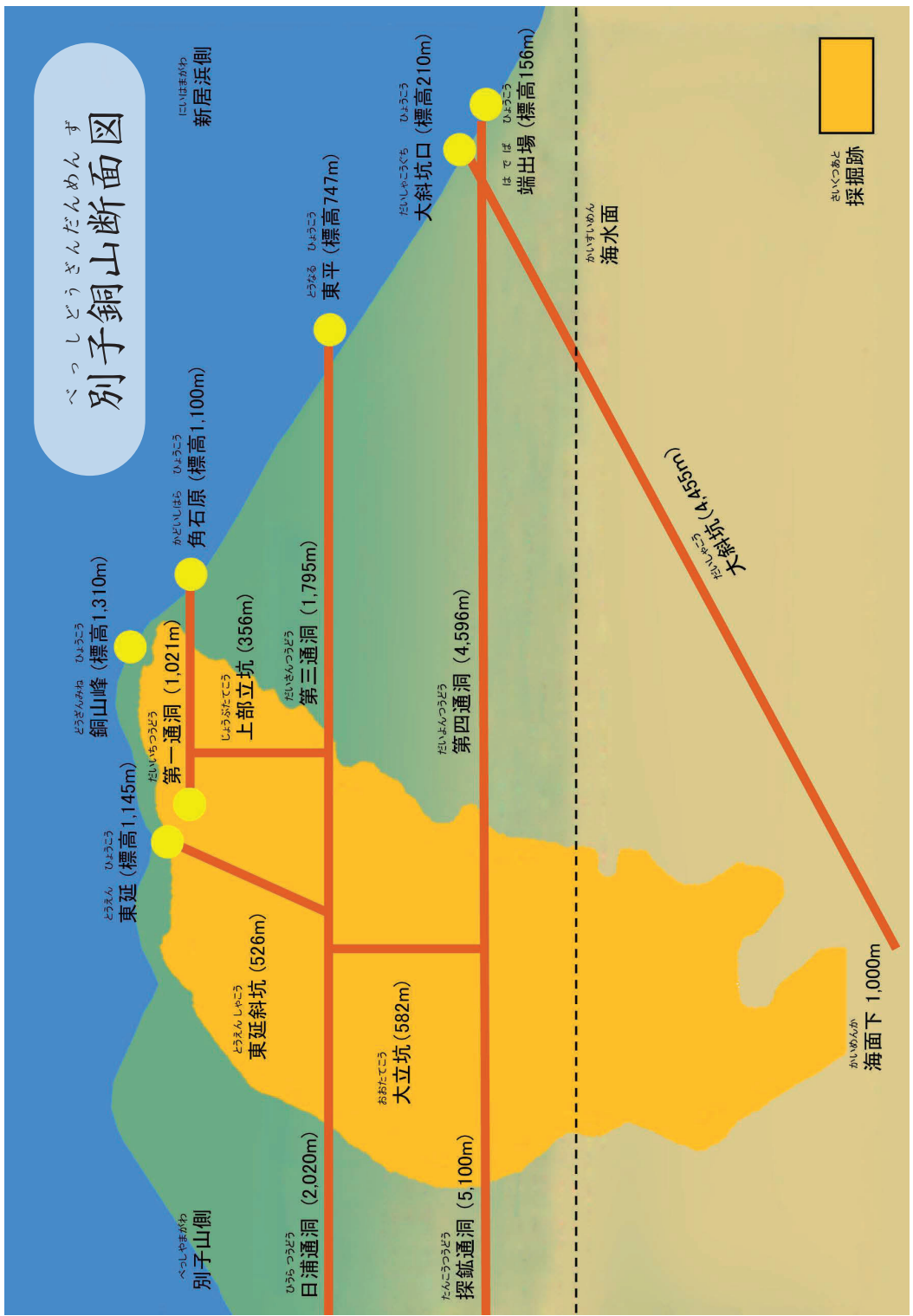
端出場 (標高156m)  
はでば ひょうこう

海水面  
かいすいめん

大斜坑 (4,455m)  
だいにしやこう

海面下 1,000m  
かいめんか

探掘跡  
さいくつあと





# ま え が き

えひめけんにはいまし せとないかい しこくさんち かこ し ぜんゆた しこくくつ  
愛媛県新居浜市は、瀬戸内海と四国山地に囲まれた自然豊かなまちで、四国屈  
し こうぎょう と し ちい のうぎょそん にいま こうぎょう と し はつ  
指の工業都市です。もともとは小さな農漁村であった新居浜を工業都市に発  
てん べっしどうざん  
展させたのが別子銅山です。

べっしどうざん げんろく ねん かいこう かいこう ねんご さんどうりょう せ  
別子銅山は元禄4年(1691)に開坑しました。開坑からわずか7年後に産銅量世  
かいいち ぼこ え じだいたい ながさきほうえき けつさい りょう ごようどう わり すみとも  
界一を誇りました。江戸時代、長崎貿易の決済に利用された御用銅の4割が住友  
せいさん おお べっしどうざん さんしゆつ べっし  
による生産で、その多くが別子銅山から産出されたものでした。まさに別子の  
どう せかいじゆう ひろ い しょうわん へいざん ねんかん  
銅は世界中に広がって行ったのです。昭和48年(1973)に閉山するまで、283年間  
なが れきし も さんしゆつ どう まん あしおどうざん まん  
もの長い歴史を持っています。産出された銅は65万tで、足尾銅山の82万tに  
つ にほんだいいい ぼこ  
次ぐ日本第2位を誇りました。

べっしどうざん せいよう ねんおく きんだいか ねん な と はや  
別子銅山では、西洋から100年遅れた近代化を20~30年で成し遂げ、いち早  
かんきょうもんだい と く どうざんすいたいご みす としけいかく おこな  
く環境問題について取り組み、銅山衰退後を見据えた都市計画を行いました。

そのおかげで、新居浜市は持続可能なまちとして発展しています。せんじん ちえ  
どりよく けつしやう きんだいかさんぎょういさん いぎやう ゆうべん かた  
と努力の結晶である近代化産業遺産は、その偉業を雄弁に語りかけています。

しかし、別子銅山が閉山し、長い年月が経つにつれ、当時の別子銅山の姿を  
し ひと へ れきし ぶんか うしな  
知る人たちが減り、このままではふるさとの歴史や文化が失われてしまうので  
はないかと、ユネスコ部の前身である情報科学部が危機感を持ちました。そし  
ねん へいせい ねん べっしどうざん きんだいかさんぎょういさん しょうかい  
て、4年をかけて平成18年(2006)に別子銅山の近代化産業遺産を紹介するガイ  
だいいごう せいさく  
ドブック第1号を制作しました。

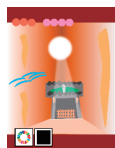
へいせい ねん べっしどうざんがくしゅう せい か みと  
平成22年、これまでの別子銅山学習の成果が認められ、フランス・パリにあ  
るユネスコ本部より、えひめけんりつにはまみなみこうとうがっこう しこくはつ  
ほんぶ えひめけんりつにはまみなみこうとうがっこう しこくはつ  
に認定されました。これを機に、情報科学部はユネスコ部と発展的に改称し、  
べっしどうざん みりよく せかい む はつしん  
別子銅山の魅力向世界に向けて発信してきました。

げんざい しょう ちゅうがっこう がくしゅう さか べっしどうざん まな  
現在、小・中学校ではふるさと学習が盛んになり、別子銅山について学ぶ  
きかい おお べっしどうざん きんだいかさんぎょういさん ぶんかざい してい  
機会も多くなってきました。また、別子銅山の近代化産業遺産は文化財の指定・  
とうろく すず  
登録が進んでいます。

たび せんばい おも ひ つ しんか  
この度、先輩たちの想いを引き継ぎ、さらにガイドブックを進化させました。  
このガイドブックを手にも、おお ひと と て あ  
『マインからマインド』  
たいけん ちいき たい あいちやく ぼこ  
を体験することで、シビックプライド(地域に対する愛着や誇り)がますます  
たか  
高まるはずです。

わたし ゆめ わかもの しゆたい べっしどうざん せかいぶんかいざん  
私たちの夢は、若者が主体となり別子銅山を世界文化遺産にすることです。

# ガイドブックの使い方



## 〇〇まいん

きんだいかさんぎょういさん ほんごう  
近代化産業遺産1つ1つに番号  
をつけて探しやすくしています。  
また、「まいん」は英語で「鉱山」  
 という意味です。

## SDGs

べっしどうざん おこな  
別子銅山で行われてき  
 た取り組みをSDGsにつな  
 いでいます。

## キャッチコピー

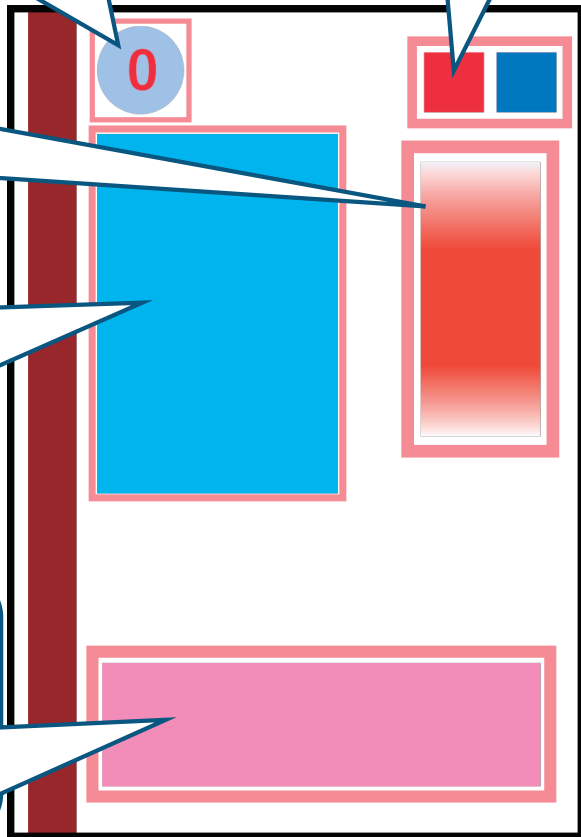
きんだいかさんぎょういさん  
近代化産業遺産  
 への想いを詠んで  
 います。

## 写真・図

しん きゅう しゃしん  
新、旧の写真や  
えず ちず  
絵図、地図、イラスト  
 など、幅広く載  
 せています。

## 高校生からの一言

きんだいかさんぎょういさん ひとこと  
近代化産業遺産  
 を楽しむためのヒン  
 トやクイズを載せて  
 います。



# ガイドブックを読む前に

このガイドブックは、誰もが使いやすいように全ての漢字にふりがなをつけています。さらに様々な工夫をしているので、ぜひこのページを見て、別子銅山の勉強や、観光、ガイドのお供など、ガイドブックをより自由に楽しく使ってください。

## 学習の記録

学んだことや発見を自由に書き込んでみましょう。また、インターネットを活用した詳しい情報もQRコードからアクセスできます。

## エリア

エリアごとに色付けをすることで分かりやすく分類しています。

SDGs (持続可能な開発目標 : Sustainable Development Goals) とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17の目標・169の達成基準から構成され、地球上の誰一人として取り残さない (leave no one behind) ことを誓っています。SDGs は発展途上国だけではなく、先進国も含めた全ての国が取り組むもので、日本でも積極的に取り組まれています。

このガイドブックでは、その17の目標に当てはまるページにそれぞれアイコンを付けています。別子銅山で行われた、今にも繋がる持続可能な取組を知っていただき、みなさんが身近なことに行動を起こすきっかけになってほしいと願っています。



1. 貧困をなくそう  
あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ。



2. 飢餓をゼロに  
飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する。



3. すべての人に健康と福祉を  
あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する。



4. 質の高い教育をみんなに  
すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。



5. ジェンダー平等を実現しよう  
ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る。



6. 安全な水とトイレを世界中に  
すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する。



7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに  
すべての人に手ごろで信頼でき、持続可能なかつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する。
8. 働きがいも経済成長も  
すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセントワークを推進する。
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう  
強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る。
10. 人や国の不平等をなくそう  
国内および国家間の格差を是正する。
11. 住み続けられるまちづくりを  
都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする。
12. つくる責任、つかう責任  
持続可能な消費と生産のパターンを確保する。
13. 気候変動に具体的な対策を  
気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る。
14. 海の豊かさを守ろう  
海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する。
15. 陸の豊かさも守ろう  
陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る。
16. 平和と公正をすべての人に  
持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する。
17. パートナースHIPで目標を達成しよう  
持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。



# しょうかい エリア紹介

べっしどうざん きんだいかさんぎょういさん おお わ  
別子銅山の近代化産業遺産は、大きく7つのエリアに分けられ、エ  
リアごとに違った魅力が詰まっています。ここではそれぞれのエリア  
を簡単に紹介します。

## きゅうべっし 旧別子エリア

きゅうべっし べっしどうざんはっしょう ち げんろく ねん かいこう たいしやう ねん  
旧別子エリアは別子銅山発祥の地です。元禄4年(1691)の開坑から、大正5年  
(1916)に東平へ採鉱本部が移るまでの226年間、別子銅山の中心地でした。明治30年代  
には、1万人以上の人々が暮らしており、当時、愛媛県下第4位の人口を誇っていました  
た。このエリアには、すべての始まりである「歓喜坑」、施設や住居跡の石垣、接待館  
のレンガ塀や城跡を思わせる劇場跡など、江戸から明治にかけての人々の息吹や暮ら  
しを感じることができる近代化産業遺産がひっそりと緑の中にたたずんでいます。

## べっしやま 別子山エリア

べっしやま べっしどうざん さか ちいさき もと べっしやまむら どりつ  
別子山エリアは、別子銅山により栄えた地域です。元は別子山村として独立してい  
ましたが、平成15年(2003)に新居浜市と合併しました。山林が面積の97%を占めるほ  
ど自然豊かな地域ですが、一度は煙害問題などにより荒廃していました。しかし、住友  
による植林事業によって青々とした姿に回復しています。「別子山ふるさと館」では、  
別子銅山や人々の生活の様子、多様な自然などについて学ぶことができます。別子山  
の観光施設である「森林公園ゆらぎの森」では、さまざまなイベントが開催され、に  
ぎわいを見せています。歴史や文化だけでなく、自然の大切さや人々の温かさを感じ  
られる地域です。

## とうなる 東平エリア

とうなる たいしやう ねん しょうわ ねん さいこうほんぶ ぼしよ  
東平エリアは、大正5年(1916)から昭和5年(1930)まで採鉱本部があった場所です。  
平成6年(1994)には、「マイントピア別子・東平ゾーン」として整備されました。「東洋  
のマチュピチュ」と呼ばれ、インカの遺跡を彷彿とさせる壮大なスケールの鉱山遺構  
をはじめとするさまざまな近代化産業遺産を見ることができます。ドラマ、映画や旅  
番組、ミュージック・ビデオなどのロケ地としても使われる人気のスポットです。

## たつかわ は で ば 立川・端出場エリア

たつかわ ベッシドウザン ぶっしゆそう ちゆうけいち さか は で ば しょうわ ねん  
立川は、別子銅山の物資輸送の中継地として栄えました。端出場は、昭和5年(1930)  
とうなる さいこうほんぶ うつ しょうわ ねん へいざん ベッシドウザン きよてん お  
に東平から採鉱本部が移され、昭和48年(1973)の閉山まで別子銅山の拠点が置かれた  
さいご ち きゆうば で ばすいりよくはつでんしょ は で ばてつきょう ききょう いさん かずお  
最後の地です。旧端出場水力発電所や端出場鉄橋などの貴重な遺産が数多くあり  
ます。平成3年(1991)には、別子銅山について遊びながら学べる観光施設「マイントピア  
ベッシ は で ば かぞくづ に いはましさいたい かんこう  
別子・端出場ゾーン」がオープンし、家族連れなど、新居浜市最大の観光スポットと  
して、幅広い世代の多くの人たちの来訪で賑わっています。

## うわばら やまね 上原・山根エリア

さんかんぶ へいやぶ きょうかい やまね うわばら ベッシドウザンきねんかん きゆうひるせてい  
山間部と平野部の境界となる山根・上原エリアには、別子銅山記念館や旧広瀬邸、  
ひろ せれまき きねんかん やまねせいれんしよあつ やまねしゆうどうしよ やまね ベッシドウザン まな  
広瀬歴史記念館、山根製錬所跡、山根 収銅所、山根グラウンドなど別子銅山を学ぶ  
しせつ きんだいかさんぎよういさん しゆうちゆう ぼしよ ベッシドウザン ほとら ひと  
ための施設や近代化産業遺産が集中している場所です。別子銅山で働いていた人  
たちや偉人の足跡を見学し、当時から今日に続く先人たちの思いを感じることができ  
ます。

## かわにし 川西エリア

かわにし ベッシドウザン はせい すみともきぎょう ちゅうしん こうじょうぐん みなと  
川西エリアには、別子銅山から派生した住友企業を中心とする工場群、港、さら  
に いはま しがいの なか しやたくぐん こうざんてつどうえきしや こうざんせつびあと ききょう いさん  
には新居浜の市街地の中に社宅群や鉱山鉄道駅舎、鉱山設備跡などの貴重な遺産が  
てんざい  
点在しています。サイクリングロードに姿を変え、人々に愛されている鉱山鉄道跡や、  
とうじ すがた か ひとと あい かい こうざんてつどうあと  
当時の姿そのままの昭和通りなど、現在も生き続けている遺産もあります。先人た  
つく あ に いはま し じぞくはつてんかのう か こら げんざい げんざい  
ちが創り上げてきた新居浜市が持続発展可能なまちとして、過去から現在へ、現在から  
みらい む しょうちようてき  
未来へ向かう象徴的なエリアです。

## し さかじま 四阪島エリア

にい はま おきやく う し さかじま ベッシドウザン えんがいもんたい かいけつ めいじ ねん  
新居浜沖約20kmに浮かぶ四阪島は、別子銅山の煙害問題を解決するため、明治38年  
(1905)に製錬所が移された島です。先人たちの血のにじむような努力により、世界で  
はじ めんが いもんたい こくふく にほん こうがいもんたいかいけつ げんてん ち さいせいき やく  
初めて煙害問題を克服した日本の公害問題解決の原点の地です。また、最盛期には約  
にん ひと す せかいさいたいき ぼ じんこうみつど ぼこ しま ひと  
5,000人もの人が住み、世界最大規模の人口密度を誇っていました。島の人たちは、「ひ  
しま かぞく へいわ あたたく くとり ねん  
とつの島ひとつの家族」として、平和で温かく暮らしていました。昭和51年(1976)に  
せいれんしよ に いはま し さいじょうし いそうら うつ しょうわ ねん  
製錬所は新居浜市と西条市にまたがる磯浦へ移されましたが、現在のはりサイクルの島  
として 蘇り、私たちに自然との共生を語り続けています。



別子べっしの世界せかいへ  
あなたも時間旅行タイムトラベル

きゅうべっしのぼぐち  
◀ 旧別子登り口

きゅうべっしのぼぐち べっしやま べっしどうざん とざんぐち べっしどうざんかいこう  
旧別子登り口は、別子山から別子銅山への登山口で、別子銅山開坑の  
げんろくねん たいしやうねん ねんかん さんちゆう さいこうじぎやう  
元禄4年(1691)から大正5年(1916)までの226年間、山中での採鉱事業  
えんえん いとな きゅうべっし つづ いぐち かいこうとうしよ  
が延々と営まれた旧別子へと続く入り口ともなります。開坑当初は、  
てんまうら しこくちゆうおうしど いちやう くだ  
ここから天満浦(四国 中央市土居町)へ下っていました。

のぼぐち すす め まえ せんじん ちえ どりよく けっしやう べっしどう  
登り口を進むと、目の前には先人の知恵と努力の結晶である別子銅  
ざん きんだい かさんぎやう いさん つぎつぎ すがた あらわ べっし せかい であ  
山の近代化産業遺産が次々と姿を現し、別子の世界に出逢うことが  
できます。

べっしどうざんきんだいかさんぎやういさん みりよく すば  
別子銅山近代化産業遺産には、たくさんの魅力や素晴らしい  
れきし ひび やま れきし ひもと  
歴史が秘められています。ここから銅山の歴史を紐解きながら、  
わたし いっしょ じぶん ものがたり つむ  
あなたも私たちと一緒に、自分の物語を紡いでいきましょう！





えんつうじ こあしたにしゅつちやうしよあと くようとう  
▲ 円通寺小足谷出張所跡の供養塔



みちぞ くようとう  
▲ 道沿いの供養塔

えんつうじ こあしたにしゅつちやうしよ えんぼう ねん べつしやまむらほどのげんざい べつし  
円通寺小足谷出張所は、延宝6年(1678)に別子山村保土野(現在の別子小・中学校)に建立された円通寺の出張所です。住友家の要請で最初は目出度町に置かれていましたが、その後、小足谷に移されました。

えどじだいこうきから たいしやう ねん きやうべつしてつたい あいだ  
ここには、江戸時代後期から大正5年の旧別子撤退までの間、山中で亡くなった人たちの墓石が、緑の中にひっそりとたたずんでいます。

たいしやう ねん かさい しやうしつ えんつうじ みたま べつしやま なんこう  
大正8年に火災により焼失したため、円通寺の御霊は別子山の南光院の境内に移され、供養は今もなお続けられています。

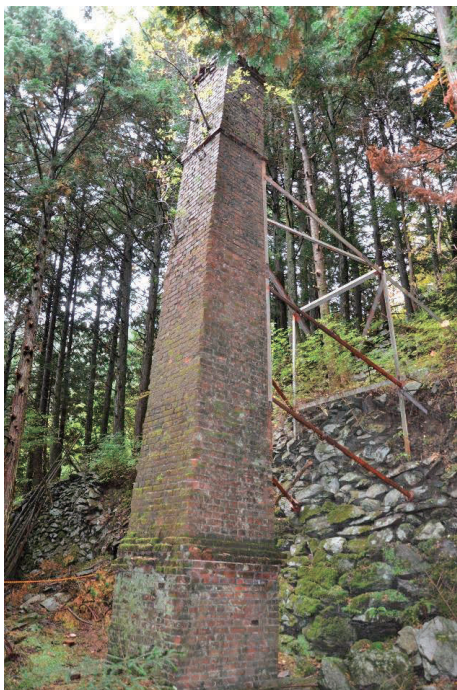
べつし どうざんかいこう ねん きねん へいせい ねん がつ すみともきんぞくこうざんかぶ  
別子銅山開坑300年を記念して、平成2年(1990)9月に、住友金属鉱山株式会社によって、出張所跡と道沿いに供養塔が建てられました。

※ここは墓所のため見学には格段のご配慮をお願いします。

がくしゅう きろく  
学習の記録







こ あしたにじょうぞうしょ  
◀ 小足谷醸造所  
えんとつ  
の煙突



列子の銅山も酔いつぶれる  
銘酒「鬼ごろし」

こ あしたにじょうぞうしょ  
小足谷醸造所は、酒や味噌、醤油を製造していた所で、明治3年  
(1870)につくられました。

とうしょ、これらのものは新居浜の西隣の西条から運んでいました。し  
かし、品質がとても悪く、その様子を見かねた広瀬率平が小足谷を開発  
し、坑夫たちに楽しみとやすらぎを提供するためにつくりました。

どうねん がつ とうじ さけ ひと ひょうごけん いたみ やと じょうぞう  
同年8月から杜氏(酒をつくる人)を兵庫県の伊丹から雇い、醸造に  
ちやくしゆ すいしつ ひょうこう ちか やま かんきょう  
着手しましたが、水質や標高1,000m近くの山の環境により、はじめは  
こうふ くち よろこ さけ じょうぞう  
坑夫の口を喜ばすような酒は醸造できませんでした。



こ あしたにじょうぞうしょふきん あか うえ さぬきれんが  
小足谷醸造所付近にある赤レンガには、上の讃岐煉瓦のマーク  
(松葉を2つ合わせたもの)が入ったレンガが落ちています。  
まつば はい  
ぜひ、探してみてください。(持って帰らないでね！)  
さが も かえ





Koashidani in Sumitomo Besshi Mining

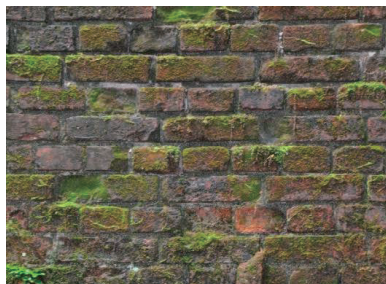
谷足小山醸子別

### ▲ 明治後期の小足谷集落(黄色で囲んでいるのが醸造所)

醸造作業を一時中止するなど苦勞が続きましたが、明治6年の暮れに岡山県の南浦から杜氏を雇い、ようやく美味しいお酒ができました。

最も繁栄したころでは、年間100KL(1升瓶 約55,500本分)のお酒を製造し、銘柄は「イゲタ正宗」、別名「鬼ごろし」と呼ばれていました。鬼は坑夫の例えで、剛健な銅山の男達もこの酒を飲むと酔いつぶれてしまったと言われています。

しかし、別子銅山の中心が東平に移る中、明治44年に製造中止となり、大正3年(1914)に廃止され、45年の歴史に幕を閉じました。



### ▲ イギリス積み

小足谷醸造所の高さ約10mの煙突のレンガは、イギリス積みで積まれています。

イギリス積みは、レンガを長手の段と小口の段を一段置きに積み積み方で、土木構造物や鉄道関連の施設でよく見られる積み方です。

がくしゅう きらく  
学習の記録





▲ さいこうちようたくあと  
採鉱課長宅跡

みどり  
緑に映える  
赤レンガの壁



▲ さいこうちようたく あか  
採鉱課長宅の赤レンガ塀の内側



さいこうちようたく せつたいかん おく はい  
採鉱課長宅は、接待館の奥に入った  
いしだん のぼ たかだい げんざい あか  
石段を登った高台にあり、現在も赤レ  
づく へい のこ さいこう  
ンガ造りの塀が残されています。採  
か せいれん か うんゆ か たすう  
課は、製錬課、運輸課とともに多数の  
しよくいん かか べっしどうざん  
職員を抱えていました。別子銅山  
けいえい ちゆうかく じゆうよう そしき  
経営の中核をなす重要な組織であ  
り、それを統括していたのが採鉱課長  
とうかつ さいこうちよう  
でした。

げんざい あか べい のこ  
現在は、赤レンガ塀のみが残されて  
おり、館跡には植林がなされていま  
す。



さいこうちようたくあと のこ  
採鉱課長宅跡に残る

ひだりうえ しゃしん なん  
左上の写真のものは、何でしょうか？





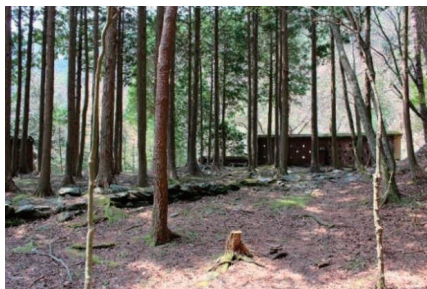
▲ こあしたにせつたいかんあと  
小足谷接待館跡

こあしたにせつたいかん 小足谷接待館は、たいせつ きやくじん 大切な客人の  
おもてなし おもてなしや しゆくはく 宿泊、しよくいん 職員の こんしんかい 懇親会  
などに使用されました。

めいじじだい 明治時代に入って はい きんだいか 近代化が きゆうそく 急速  
に進み、すず たくさんの人が ひと 別子銅山を  
おとす 訪れるようになりました。そこで、

めいじ 明治34年(1901) ねん 伊予屋が いよ や 経営していた いずみてい 「泉亭」を かいそう 改装して、べつしさんちゆう 別子山中の  
ちゆうしんがい 中心街であった め 目出度町の つたまち 住友新座敷の すみともしんざしき 後継施設として こうけいしせつ 使用をはじめ  
ました。どうねん 同年10月には、が 住友家 すみともけ 15代家長・だい 友純が だいかちよう 宿泊しています。

やま 山の中を歩いていくと、なか ある 緑の木々の中から みどり きぎ 重厚な なか 赤レンガの じゆうこう 塀が あか 姿  
あらわ を現します。この あか 赤レンガ べい 塀は、い イギリス づ 積みで つ 積まれています。かんない 館内の  
しきち 敷地には、りっぱ 立派な にほんていえん 日本庭園も い あったと言われています。



▲ せつたいかんあと 接待館跡の内側 うちがわ

がくしゆう 学習の きろく 記録





きょうど  
郷土の偉人を輩出  
さんちゆう  
山中の学び舎  
まな

▲ 小足谷小学校跡

すみともしりつ こ あしたにしょうがっこう めいじ ねん  
住友私立小足谷小学校は明治22年(1889)につくられました。明治32  
ねん がつまつ じどうすう にん きょうしよくいんすう にん  
年3月末の児童数は298人、教職員数は7人でした。

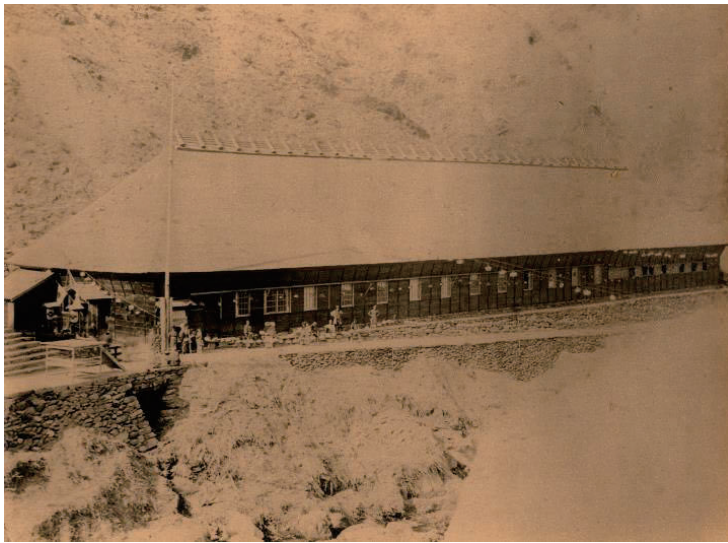
めいじせいふ めいじ ねん がくせい はつぷ う べっしどうざん  
明治政府は明治5年に学制を發布しました。これを受けて別子銅山で  
は、めいじ ねん めったまち しりつ あしたにしょうがっこう  
は、明治8年に目出度町に私立の足谷小学校をつくりました。

はや じき ひょうこう ちか さんちゆう しょうがっこう  
早い時期から、標高1,000mに近い山中に小学校がつくられたのは  
きょういく たいせつ ひろせさいへい あつ おも  
教育を大切にしていた広瀬幸平の熱い思いからでしょう。

ご めいじ ねん がつ じんこう きゆうぞう こ あしたにじょうぞうしよこ みんか  
その後、明治19年5月には人口の急増もあり、小足谷醸造所横に民家  
を借りてすみともしりつ こ あしたにじんじょうしょうがっこう  
を借りて住友私立小足谷尋常小学校がつくられました。その後、現在  
の地に移り、ち うつ こうとうしょうがっこう へいせつ めいじ ねん しりつべっしじんじょう  
高等小学校も併設されました。明治27年に私立別子尋常  
こうとうしょうがっこう  
高等小学校となりました。



こ あしたにしょうがっこう めいじ しよき つく やま なか  
小足谷小学校は、明治初期に造られました。山の中で  
にんちか ひと がくしゅう おどろ  
300人近い人が学習していたなんて驚きです。



▲ 小足谷小学校 明治23年撮影 別子銅山記念館所蔵

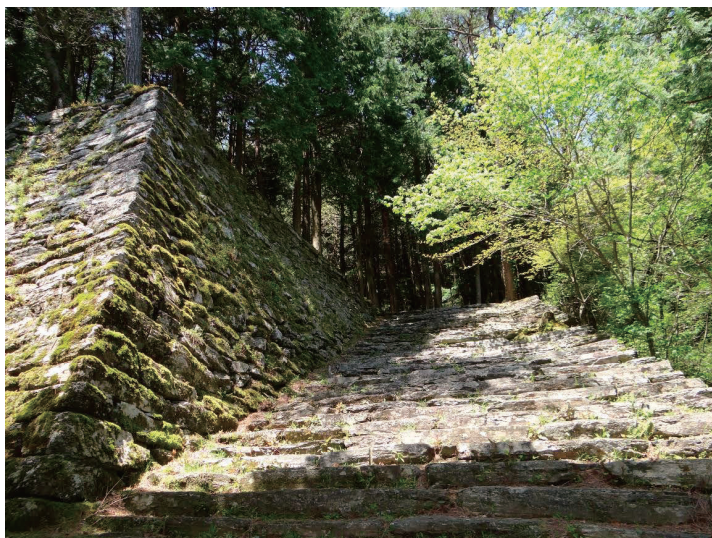
もとにはましちよう 元新居浜市長である荒井源太郎や 泉敬太郎もこの小学校で学びました。大正4年(1915)の火災によって小学校を含め周辺の建物が焼失し、東平小学校や弟地小学校へと移り、翌年の旧別子撤退によって廃校となりました。

小学校跡には植林が行われていますが、伊庭貞剛の植林事業の意思を継ぐものだと言われています。旧別子に植林されている木を見るとヒノキやカラマツなどいろいろな木が植えられています。先人たちはさまざまな試行錯誤の中、大変な努力を積み重ねながら山を緑に還そうとしました。100年以上の時を越え、山には自然がよみがえり、その取組みは、素晴らしい実を結んでいます。

## 学習の記録







銅山にこだまする  
一千人の歓喜

▲ 小足谷劇場の石垣と石段

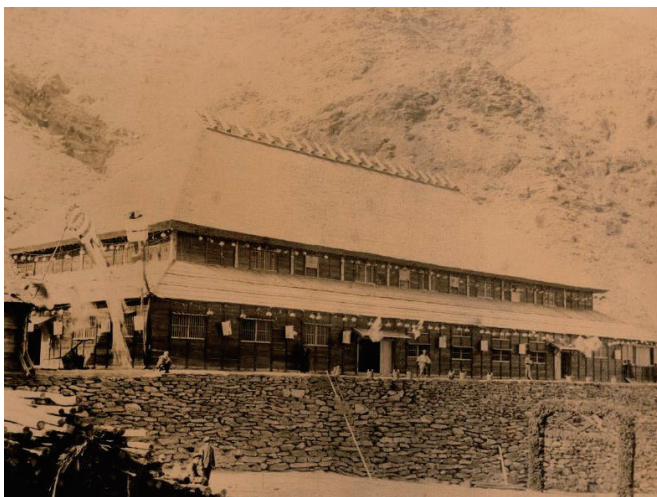
小足谷劇場は、銅山で働く人たちにやすらぎと楽しみを提供する施設です。約18m×約36mある劇場は、城跡を思わせる石垣の上に建てられ、収容人数は1,000人を超え、廻り舞台までつくられるという大規模な施設でした。

もともと、明治22年(1889)に炭倉庫として建設されましたが、明治23年5月の別子200年祭に劇場にして、京都や大阪から芸人を呼んで歌舞伎や芝居が上演されました。以来、この劇場は、毎年5月の山神祭には劇場として使われ、山の中で唯一の娯楽場となっていました。

当時、地方の街中においても劇場すら珍しい時期に、標高1,000mを越える山中に大劇場があり、都会から有名人が来ていたことは大変な驚きです。山の繁栄ぶりをうかがうことのできる施設です。



開坑200年祭の記念写真のように、劇場の石段で記念写真を撮ってみませんか？



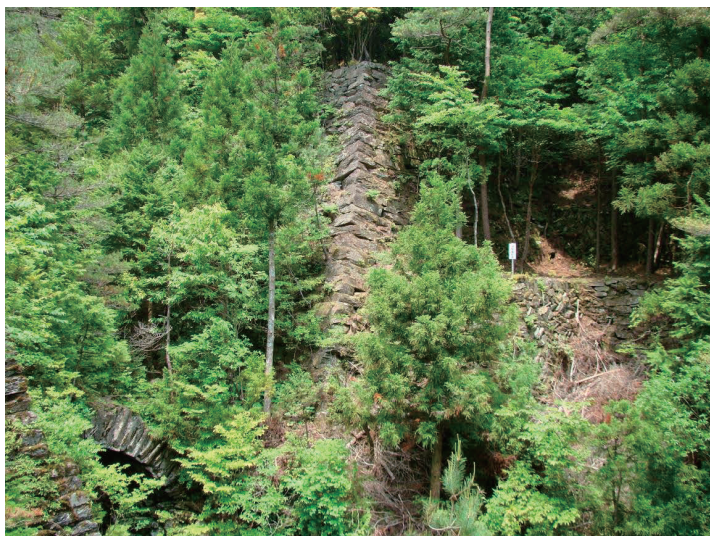
▲ 明治23年 開坑200年祭に撮影  
別子銅山記念館所蔵



▲ 明治23年 開坑200年祭に撮影 別子銅山記念館所蔵  
別子開坑200年祭記念写真 小足谷劇場の石段にて  
前列左から2番目が広瀬幸平

がくしゅう きろく  
学習の記録






▲ たかばしせいれんしよあと  
高橋製錬所跡

かいばついつせん  
海拔一千メートルの  
くうちゆうこうぎようちたい  
空中工業地帯


たかばしせいれんしよ べっしどうざん さいくつ どうこうせき どう と だ せいれん  
高橋製錬所は、別子銅山で採掘された銅鉱石から銅を取り出す製錬と  
さぎよう おこな せいせつ すい たいがんにたい  
いう作業を行う施設です。ダイヤモンド水の対岸一帯につくられました。

めいじ ねん はる べっしどうざんさいしよ ようしきせいれんしよ そうぎよう はじ  
明治13年(1880)の春に、別子銅山最初の洋式製錬所として操業を始め  
ました。

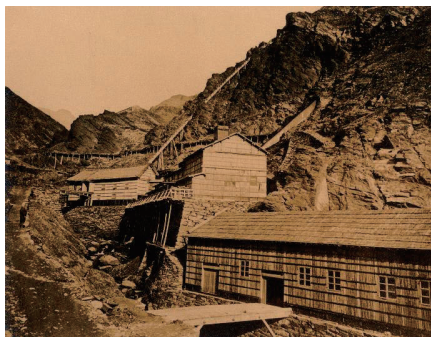
しかし、アメリカの銅価格の切り下げから世界の銅価格が下落して一  
じちゆうだん めいじ ねん さいかい せかい どうかかく げらく いち  
時中断、明治24年ごろから再開しました。このころ、別子銅山の採鉱高  
きゆうぞう こうせきしよりのうりよく ぞうだい ねん び かいぜん もくひよう どうせい  
が急増したため、鉱石処理能力の増大と燃費の改善を目標とし、銅製  
れん ぎじゆつ きんたいか ひつよう ようこうろ かいぞう ふいご そう  
錬の技術を近代化させる必要がありました。溶鉱炉の改造や鞆から送  
ふうき てんかん もくたん ねんりよう てんかん おこな  
風機への転換、木炭からコークス燃料への転換などが行われました。そ  
けっか めいじ ねん こうせきしよりのうりよく めいじ ねん ばい たつ  
の結果、明治32年の鉱石処理能力は、明治5年の50倍にも達してしまし  
た。



とざんどう  
登山道には、たくさんのカラミが落ちていて、  
べっしだいすいがい ひが い おお しぜん おそ  
別子大水害の被害の大きさや自然の恐ろしさを  
じっかん  
実感することができます。







▲ <sup>たかばし ふ きん ようこうろ</sup>高橋付近の溶鉱炉  
<sup>めいじ ねんさつえい</sup>明治14年撮影 別子銅山記念館所蔵

ここで<sup>せいれん</sup>製錬された<sup>そどう</sup>粗銅（<sup>じゆん ど</sup>純度約90%）は、<sup>ぎゆうしやみちけいゆ</sup>牛車道経由で、のちに<sup>じょうぶてつどうけいゆ</sup>は上部鉄道経由で<sup>はこ</sup>運び出され<sup>たつ</sup>川精銅所で<sup>せいどう</sup>精銅（<sup>じゆん ど やく</sup>純度約99.9%）となり、さらには<sup>にい はまそうびらきせい</sup>新居浜惣開製<sup>れんしよ</sup>錬所に<sup>はこ</sup>運ばれ<sup>かたどう</sup>型銅（<sup>せいひん</sup>製品）にされました。



▲ <sup>たかばしせいれんしよ</sup>高橋製錬所 <sup>めいじ ねんさつえい</sup>明治14年撮影  
<sup>べっしどうざんきねんかんしよどう</sup>別子銅山記念館所蔵



▲ <sup>べっし だいすいがい</sup>別子大水害で被害を受けた<sup>たかばしせいれんしよ</sup>高橋製錬所  
<sup>めいじ ねんさつえい</sup>明治32年撮影 <sup>べっしどうざんきねんかんしよどう</sup>別子銅山記念館所蔵

<sup>たかばしせいれんしよ</sup>高橋製錬所は、<sup>めいじ ねん</sup>明治32年の<sup>べっし だいすいがい</sup>別子大水害で<sup>かいてつてき</sup>壊滅的な被害を受けてしま  
<sup>ごさいけん</sup>い、その後再建されることはありませんでした。

<sup>いま</sup>今では、<sup>たてもあと</sup>建物跡の<sup>いしがき</sup>石垣のみが残っています。<sup>あんきょ</sup>暗渠の上に<sup>うえ</sup>積み上げてい  
<sup>せいれん</sup>たカラミ（製錬で銅を取った<sup>のこ</sup>残りカス）も<sup>べっし だいすいがい</sup>別子大水害で<sup>だくりゆう</sup>濁流に流され、  
<sup>とざんどう</sup>登山道に<sup>ちんでん</sup>沈殿して残されています。<sup>とうじ おもかげ</sup>当時の面影は<sup>みどり</sup>緑の中に<sup>ねむ</sup>眠っています。

<sup>がくしゅう</sup>学習の<sup>きろく</sup>記録





めいすいひやくせん  
名水百選にかえたい  
くわ  
ダイヤモンドの輝き  
かがや

▲ ダイヤモンド水

しょうわ ねん かなべこうしやう えんちやう かくにん  
昭和26年(1951)、金鍋鉱床の延長を確認しようと、400mの深さまで  
ボーリング調査を行いましたが見つからず、水が湧き出たことが、  
ダイヤモンド水の始まりです。

さい せんたん つ くさくやう さぎやう  
その際、ロッドの先端に付いていた掘削用ダイヤモンドピットが作業  
しゅうりようご かいしゆうふのう  
終了後、回収不能になりました。その後、いつしか「ダイヤモンド水」  
という愛称で親しまれるようになりました。

ばしょ きゆうけいしょ せつち とざんしゃ べっし  
この場所には休憩所が設置されており、登山者のオアシスとして別子  
どうざん めいしよ  
銅山の名所のひとつとなっています。

みず つめ つか とざんしゃ のど うるお めいすいひやくせん  
水はとても冷たく、疲れた登山者の喉を潤してくれます。名水百選  
くわ  
に加えたいほどの美味しい水です。ぜひ、現地に行き行って飲んで実感して  
ください。



た 絶えることなく湧き続けるダイヤモンド水は、山を登ってでも飲  
の  
みたくなる美味しさです。  
おい  
リピーターになること間違いなし！  
まちが





▲ かなりの冷たさにびっくり！

また、ダイヤモンド水の近くには、平成27年(2015)10月22日に「登山者用トイレ」が設置されました。「エコバイオトイレ」として、とても環境にやさしい設備となっています。



▲ ダイヤモンド水の近くに設置されたエコバイオトイレ

がくしゅう きろく  
学習の記録





だいいちつうどうみなみぐち ベッシやまがわ  
▲ 第一通洞 南口 (別子山側)



めいじ ねんさつえい  
◀ 明治14年撮影  
ベッシ どうざん きねんかんしよざう  
別子銅山記念館所蔵

だいいちつうどう  
第一通洞は、めいじ ねん  
19年(1886)につくられた輸送用のトンネルで、なが  
さは、1,021mです。ベッシ どうざん  
別子銅山で初めてつくられたことから第一通洞と名付  
けられました。つうどう  
通洞とは、こうせき  
鉱石の搬出 や坑夫の入坑などを用途とする  
主要運搬坑道のことをいいます。

ひろ せきいへい  
広瀬幸平は、日本の鉱山として、初めてダイナマイトを使用して、こ  
の通洞をつくりました。工期は4年でした。

きんだいか  
近代化への号砲が  
はっぱ  
銅山にとどろく



この場所は明治の近代化の息吹を感じることができる、  
オススメの場所です。



だいいちつうどうみなみぐち ベっし やまがわ  
 ◀ 第一通洞南口(別子山側)

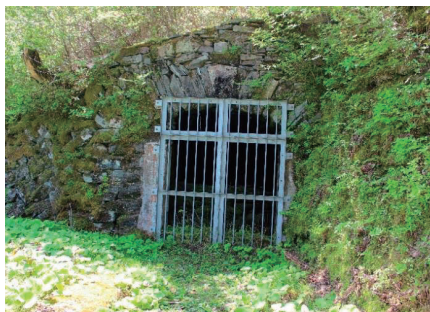
めいじ ねんさつえい  
 明治23年撮影

ベっし どうざん きねんかんしよぞう  
 別子銅山記念館所蔵

つうどうえ かおく さいこうか そくりようじむしよ  
 通洞上の家屋は探鉱課測量事務所

さんちゆう  
 山中にとどろくダイナマイト

ベっし どうざん きんだいか む おお  
 は、別子銅山が近代化に向けて大  
 きく踏み出す号砲でした。



だいいちつうどう かいつう ぶっし  
 第一通洞の開通により、物資の  
 ゆそう どうざん ご こ ひつよう  
 輸送は銅山越えを越える必要がな  
 くなり、画期的な物資輸送路とし  
 かっきてき ぶっし ゆそうろ  
 て別子銅山の近代化を進める  
 ベっし どうざん きんだいか すず  
 げんどうりよく たかばしせいれんしよ  
 原動力となりました。高橋製錬所  
 で製錬された粗銅を新居浜側に送  
 せいれん そどう にいはまがわ おく  
 り、新居浜側からは、銅山で使う  
 にいはまがわ やま つか  
 生活物資を送っていました。

だいいちつうどうきたぐち かどいしはらがわ  
 ▲ 第一通洞北口(角石原側)

めいじ ねん かんせい じょうぶてつどう かぶてつどう めいじ ねん かんせい  
 明治26年に完成する上部鉄道および下部鉄道と明治24年に完成する  
 いしがさんじょう はでば さくどう くうちゆう は ぶっし こうせき ゆそう  
 石ヶ山丈～端出場の索道(空中にワイヤーを張って物資や鉱石の輸送  
 をする設備)と並んで、物資輸送の大動脈として活躍しました。

がくしゆう きろく  
 学習の記録







◀ とうえん  
東延

別子銅山近代化の象徴  
東延斜坑

東延斜坑は、坑内から鉱石を運び出すための施設で、別子銅山近代化の象徴です。広瀬幸平はフランスから鉱山技師ルイ・ラロックを雇い入れ、明治7年(1874)から約2年間で別子銅山の近代化計画である「別子銅山目論見書」を作成させ、その提言によってつくられました。その際の通訳として採用されたのが、のちに四阪島製錬所を設計することとなる塩野門之助でした。

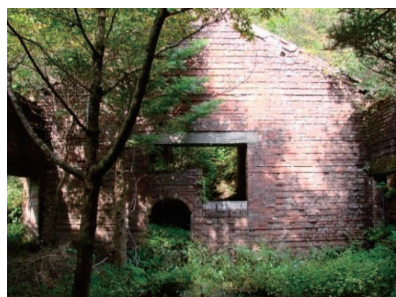
明治9年に着工、初めは手掘りで掘られていた坑道も、ダイナマイトが使用され、明治28年に19年4ヶ月という歳月をかけ、幅6m、高さ2.7m、長さ526m、傾斜49度の斜坑を完成させました。



東延斜坑の大きな坑口の跡を覗き込むと、ヨーロッパに100年遅れた産業革命を20~30年で追いついた、先人の熱を感じます。



◀ とうえんしゃこうぐち  
東延斜坑口



▲ とうえんきかいじょうあと  
東延機械場跡

とうしょ うま こうせきだいしゃ ひ あ  
当初は馬により鉱石台車を引き上  
げていましたが、その後、蒸気機関  
の巻揚げ機を採用し、別子銅山の採  
掘量は飛躍的に増大しました。

めいじじだいこうき たいしょうだいしよき  
明治時代後期から大正時代初期  
にかけて、近代化の東延時代を築き、  
まさに別子銅山の中心地となりました。



▲ しないのポケットパーク「犬の見た夢・別子」制作者 佐々木 実  
（東延斜坑がデザインされている）

さいこうばしよ ふか  
しかし、採鉱場所が深くなってい  
ったことにより、採鉱本部は大正5  
ねん (1915) とうなる うつ きかいじょう も  
年(1915)に東平に移り、機械場も  
しょうわ ねん はいし  
昭和7年(1932)に廃止されました。

がくしゅう きろく  
学習の記録







別子銅山といふ  
一万人の小宇宙

▲ みどり 緑のよみがえった山と谷



▲ めつ た まちこうざんが い 目出度町鉦山街

めいじ ねんさつえい  
明治20年撮影

べっしどうざんきねんかんしよぞう  
別子銅山記念館所蔵

えんぎ はな べっしだいかさい あと  
延喜の端は、別子大火災の後に、  
おおやまづみじんじや まつ ばしよ  
大山積神社がお祀りされた場所  
す。この場所から、銅山一帯を見渡  
すことができます。360度のパノ  
マとして小宇宙を眺望できる  
めいしよ  
名所です。

め つ た まちこうざんが い べっしきんちゆう  
目出度町鉦山街は、別子山中で  
ゆいいつ 唯一「まち」と名が付き、またの  
な べっしほんじき じま こうどう  
名を別子本舗（舗とは坑道のひと  
くぎ 区切りのこと）とも言われ、別子  
どうざん ちゆうしん べっし  
銅山の中心でした。明治初期は、  
どうざんじむしよ せつたいかん どうざん  
銅山事務所や接待館など銅山の  
ちゆうすう あつ  
中枢が集まっていました。



み けしき ぜっけい  
ここから見る景色は絶景です！フオトスポットにどうぞ！



めったまち ようすめいじ ねんさつえい べっし どうざん きねんかんしよざう  
 ▲ 目出度町の様子明治31年撮影 別子銅山記念館所蔵

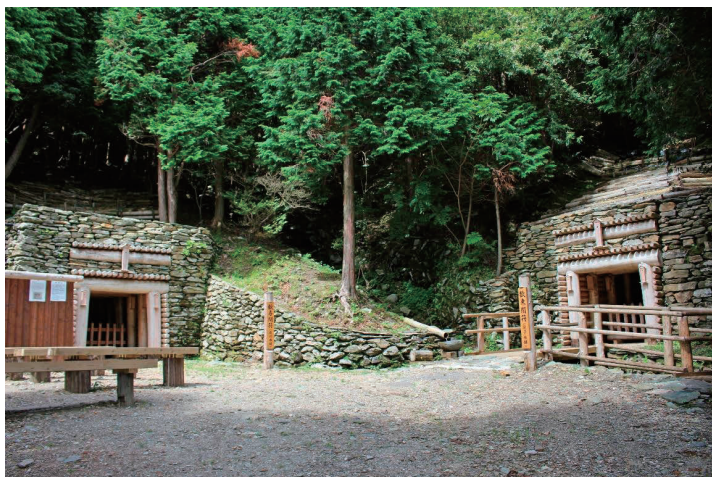
どうざんじむしょ たてもの やくら もう じこく し おお  
 銅山事務所の建物には、櫓が設けられ、時刻を知らせるために大きな  
 たいこ がつるされ、あさ ひる ばん かい しゅうかいじ う な  
 太鼓がつるされ、朝、昼、晩の3回と、集会時に打ち鳴らしていました。  
 ほか しょうがっこう びょういん ゆうびんきょく  
 その他にも小学校や病院、郵便局などもありました。

めいじ ねん 1892 ころざんじむしょ しょうしつ あとち どうねんべっしどうざん  
 明治25年(1892)に鉱山事務所が焼失し、その跡地に、同年別子銅山の  
 しゅごしん おおやまつみじんじや えんぎ はな うつ りょうてい  
 守護神である大山積神社が延喜の端から移されました。そして、料亭や  
 しょうてん た しょうにん しゅうらく りょうてい まいよしゃみせん  
 商店が建ち、商人の集落となりました。料亭からは、毎夜三味線や  
 たいこ おと うたごえ なが しょうてん とお かがわけんかんおんじ  
 太鼓の音ののってにぎやかな歌声が流れ、商店には、遠く香川県観音寺  
 あた よめい どうぐ か  
 辺りからも嫁入り道具を買いにきたそうです。

めいじこうき べっしどうざん さいせいき むか べっしやまむら じんこう さいこう  
 明治後期には別子銅山は最盛期を迎えました。別子山村の人口の最高  
 は明治38年で11,186人を記録しています。鉱山街を形成していた目出度  
 まち たいしやう ねん きゆうべっしてたい さい しせつ てつきよ  
 町も、大正5年(1916)の旧別子撤退の際、すべての施設が撤去され、  
 げんざい しょうりん やまいったい しぜん もど いちぶ いしがき おおやまつみじんじや  
 現在は、植林により山一帯は、自然に戻り、一部の石垣や大山積神社  
 の石段、狛犬の1つが残るのみとなっています。

がくしゅう きろく  
 学習の記録





ここから  
すべてがはじまった

かんきこう ひだり かんとうこう みぎ  
▲ 歓喜坑(左) 歓東坑(右)

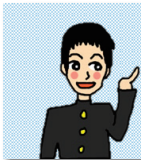
べっしかいこう しんわ いろど  
別子開坑は神話で彩られていました。

かんきこう べっしどうざんはっしょう きねん さいしょ こうどう げんろく ねん  
歓喜坑は、別子銅山発祥の記念すべき最初の坑道です。元禄3年  
(1690)、坑夫長兵衛(切上り長兵衛)により、この場所では有望な露頭  
こうしょう いちが ちじょう ろしゆつ はっけん  
(鉱床の一部が地上に露出しているところ)が発見されました。

びつちゆうこく おかやまけん よしおかどうざん すみともけいえい しばいにん たむきじゆうえもん  
備中国(岡山県)の吉岡銅山(住友経営)の支配人だった田向重右衛門  
に連絡しました。その年の秋、田向重右衛門は手代・原田ためうえもん やまどめ  
じうえもん にいはまう すみやき まつうえもん したが けわ さんちゆう  
治右衛門、新居浜生まれの炭焼・松右衛門を従え、険しくつらい山中  
くしん ちようき げんざい かんきこう かんとうこうふきん ろとう はっけん  
を苦心して調査し、現在の歓喜坑・歓東坑付近で露頭を発見しました。  
ためしほり おこな ゆうぼう こうしょう かくにん いちどう おおよろこ  
試掘を行ったところ、有望な鉱床であることを確認し、一同が大  
喜びしたことから歓喜坑と名付けられました。

よくねん げんろく ねん がつこのか ばくふ きよか え どうなんうろう がつついたち さいこう  
翌年の元禄4年5月9日に幕府の許可を得て、同年閏8月1日から採鉱  
かいし  
を開始しました。

かんきこう まえ しきかたやくしよ さいこうじむしょ ふろば  
歓喜坑の前には舗方役所(採鉱事務所)や風呂場などがありました。



けしやうぎ の こうぐち きぐ とりい も ごふ  
化粧木が乗っている坑口の木組みは鳥居を模しています。護符  
を柱に掲げているので間符と呼ばれていました。





▲ 歓喜坑

かんとうこう かんきこう つ ふる  
**歓東坑**は、**歓喜坑**に次ぐ古い  
 こうぐち かんきこう ひがしがわ  
 坑口です。**歓喜坑**の東側にある  
 なまえ ゆらい  
 ことがこの名前の由来です。

べっしどうざん かいこうらい  
**別子銅山**は、**開坑**以来この2つ  
 こうぐち ちゅうしん べっしほんじき けいせい  
 の坑口を中心に**別子本舗**を形成  
 しました。

え どじだい こうふ  
**江戸時代**には坑夫はここから  
 にゅうこう こうせき すべ  
**入坑**し、**鉱石**もほとんど全てこ  
 こから運び出されました。

かんきこう こうぐち こころ やす  
**歓喜坑**の坑口には**心の安らぎ**  
 を求めて**お地蔵さん**がまつ  
 られ、  
 こうふ にゅうこう さい あんぜん ねが  
**坑夫**は**入坑**の際、**安全**を願  
 い  
 せんこう そな けむり  
**線香**を供えていました。その煙  
 で**お地蔵さん**は**真っ黒**になりま  
 した。



▲ 歓東坑

げんざい じぞう なんこういん べっしやまち く  
 現在、この**お地蔵さん**は、**南光院**(**別子山地区**の  
 こうやさんしんごんしゅうなんこういん あんち  
**高野山真言宗南光院**)に安置されています。

かんきこう かんとうこう へいせい ねん がつ もと  
**歓喜坑**・**歓東坑**は、**平成13年**(2001)10月に、**元の**  
 よ どめ ふくげん ろうきゆうか  
**四ツ留**に**復元**されました。また、**老朽化**にともない  
 へいせい ねん がつ しゅうふく  
**平成29年**10月に**修復**されました。

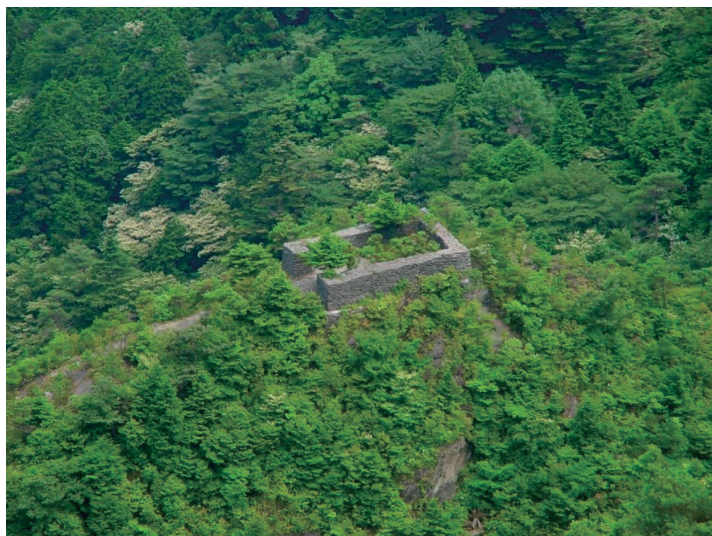


◀ **南光院**にて**安置**されている**お地蔵さん**

がくしゅう きろく  
**学習の記録**







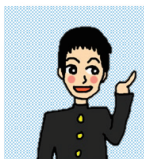
さんびやくよねん  
三百余年の  
銅山を見守る

▲ 蘭塔場

開坑3年後の元禄7年(1694)に、焼 鋳窯の飛び火が乾燥した家屋に燃え移り、別子全山を焼く大火災が発生しました。この火災により132人が亡くなりました。その内、元締の杉本助七と手代3人は歎喜・歎東坑から10m下の沢下に土葬され、当時はそこを蘭塔場と呼び、現在の蘭塔場がある小山には円通寺の観音堂が設けられました。

明治11年(1878)、広瀬幸平が4人の碑石を現在の蘭塔場に上げました。そして大正5年(1916)の採鋳本部撤退で、蘭塔場の碑石は瑞応寺の西墓地に下ろされました。

毎年8月には、元禄の大火災で亡くなった殉職者の蘭塔法会が行われています。4人の碑石を山下に移した跡地は、殉職者全員の慰霊の場と変わり、両墓制にみられる「拝み墓」と化しました。



両墓制とは、遺体を埋葬する墓地とお参りするための墓地を一つずつ作る風習のことです。



▲ 明治14年の目出度町 **①** の石垣が蘭塔場 別子銅山記念館所蔵



▲ 蘭塔場から牛車道を望む



▲ 蘭塔場内部の様子

※ここは墓所のため見学には格段のご配慮をお願いします。

がくしゅう きろく  
学習の記録





▲ ぎゅうしゃみち  
牛車道

近江牛  
運搬近代化の先駆けへ

牛車道は、運搬の近代化をするため明治13年(1880)につくられました。別子銅山では、開坑以来、仲持ちと呼ばれる人による運搬が行われていました。フランスの鉱山技師ルイ・ラロックの「別子銅山目論見書」を参考に牛車道を計画し、広瀬幸平が推進しました。

牛車道で使われた牛は、幸平の故郷である近江国(滋賀県)から連れてきました。明治14年には18頭の近江牛が働いていました。

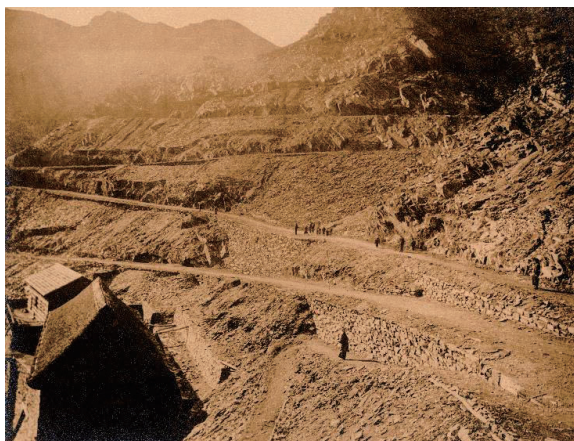
この牛車道ができたことで、運べる荷物の量が仲持ちと比べて約8.5倍にも増えました。その後牛車道の一部分には、上部鉄道が通されました。鉄道ができると、牛車の約60倍もの荷物を運ぶことができるようになり、運搬の近代化はさらに進みました。



男性の仲持ちさんが一度に運ぶ荷物の重さは何kgでしょう？  
ヒント 女性の仲持ちさんは30kgです。

45kg





風呂屋谷斜面の  
 牛車道  
 明治14年撮影  
 別子銅山記念館所蔵

明治9年7月ごろに工事を開始しましたが、明治10年に勃発した西南戦争により、労働力や火薬が不足したことで、十分な技術力がなかったことから工事は一時中断されました。しかし、翌年2月に工事を再開、明治13年に銅山越えから石ヶ山丈を経て立川中宿までの道が完成しました。総工費は当時の金額で約10万円でした。その後、明治14年4月から、別子山の目出度町から新居浜口屋まで長さ約28kmの牛車道全線が使用されるようになりました。



仲持ちを再現した人形  
 (マイントピア別子 端出場ゾーン)

## 学習の記録





▲ だいろとう  
大露頭

だいろとう  
大露頭  
あひ 緒くてそこは雪積まざ  
ゆき 山口  
やまぐち  
せいし 誓子

露頭とは、鉱床が地表に露出しているところを言います。

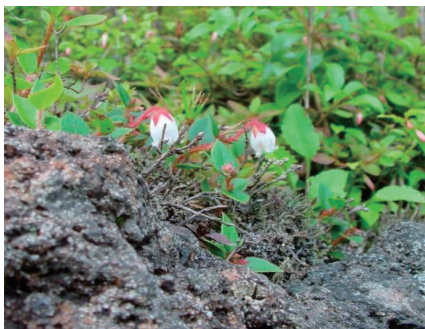
だいろとう 大露頭は「蜂の巣焼け」（銅成分が雨によって溶けて穴が開いた状態）とも呼ばれていました。

別子銅山の鉱床は、凸レンズ状の形をしており、世界にも希で例を見ない板状の大鉱床だったので、「別子型鉱床・Besshi-Style」と世界から呼ばれました。層状含銅硫化鉄鉱床〔Kieslager（ドイツ語）〕とも言われます。

開坑当初の含銅量は20%もあり、とても品質がよかったそうです。閉山時の含銅量は1.数%になっていましたが、現在稼働している世界の露天掘りの銅山は1%を切っているといわれ、別子銅山は、1%でもとても高い値であったことがわかります。



この露頭から地下2,000m以上も鉱床が延びているなんてすごいですよね。



▲ ヘビノネゴザ

▲ 大露頭に生えるアカモノ

露頭の中央やその周辺に生えている植物は、ヘビノネゴザ(カナヤマシダ、金山草)です。名前は、群生した株の間にヘビがとぐろを巻いて寝るのに都合がよいゴザのように見えることから由来しています。

ヘビノネゴザは重金属を好み、鉱床の付近に育つことから、鉱山師はヘビノネゴザを目印に銅鉱石を探していました。

ちなみに島根県の石見銀山(世界文化遺産)の坑口周辺にもたくさん自生しています。



別子銅山の銅鉱石(含銅硫化鉄鉱)

銅10% 硫黄40% 鉄50%

別子銅山記念館所蔵

学習の記録







江戸の息吹を今に伝える  
小さな坑口

▲ やま と ま ぶ  
大和間符

大和間符は、江戸(元禄)時代の古い坑道の跡で、人が1人やっと通れるくらいの広さです。

元禄8年(1695)4月、大和間符は立川銅山(当時は西条藩領の嶺北の銅山)の大黒間符と地中で偶然に抜きあったことにより、境界争いとなって紛糾した歴史をもっています。双方とも抜きあった地点が自分たちの領分であると主張して譲らないために訴訟となりました。元禄10年、境界紛争は江戸幕府が分水嶺(雨水が異なる水系に分かれる場所)を境とすることで決着し、別子銅山の訴えが認められました。

その後、立川銅山は、経営不振から宝暦12年(1762)別子銅山に吸収合併されました。



坑内の明かりは、サザエの貝殻に鯨の油を入れた「螺灯」というものを使っていました。  
とても暗く、手元しか照らせなかったそうです。



※ 別子銅山水汲図

江戸時代、別子銅山では、鉱石を採るため、下へ掘っていきうちに、湧き水で鉱石を採るのが難しくなりました。そのため、水を上へ引き上げる必要がありました。何段にも連なり、人力で水を引き上げていました。このとき、1分間に約153Lの水を引き上げていました。この作業は2・3時間交代で、24時間行われていました。また、銅が溶け込んだ水は強い酸性となり肌を傷めました。この仕事は鉱山の中で最も厳しいものでした。

▲ 水の引き上げ 別子銅山記念館所蔵



採掘は、タヌキ掘りで行っていました。タヌキ掘りとは、タヌキが巣穴を掘るように、人が1人入るのも大変なくらい小さな穴を、品質の高い鉱床に沿って掘っていく方法です。2人1組で、鑿とつちほりで掘っていく掘子、掘った鉱石を運ぶおいふわさぎょうおこなが、作業が行われていました。

◀ 坑道を掘る練習跡

がくしゅう きろく  
学習の記録





どうざんみね に いはましが いちぼう  
▲ 銅山峰から新居浜市街を一望

べっしどうざんさんびやくよねん  
別子銅山三百余年の  
だい  
大パノラマを展望  
てんぼう

どうざんみね に いはましがい へいやぶ やま み ふね そこ かたち み  
銅山峰は、新居浜市街の平野部から山を見ると船の底の形に見える  
ことから、また、山の上に船窪という窪地があったので「船窪の峰」と  
やま うえ ふなくぼ という くぼち  
も呼ばれていました。その後、銅が採れることから、「銅山峰」と呼ば  
よ  
れるようになりました。標高は1,310mです。

どうざんみね に いはましが いち せとないかい しまじま とお  
銅山峰からは、新居浜市街地、瀬戸内海の島々、遠くはしまなみ海道  
し さかじま いちぼう ぐんせいち とうめい  
から四阪島まで一望できます。また、ツガザクラの群生地としても有名  
です。

どうざんみね れいなん べっしがわ れいほく に いはまがわ わ とうげ どうざんご  
銅山峰の嶺南（別子側）と嶺北（新居浜側）を分ける峠は銅山越えと  
よ  
呼ばれ、標高は1,294mです。



どうざんみね なが ぜっけい  
銅山峰からの眺めは絶景ですが、ピークではありません  
せん。「峰」は「畝・棟」であり、稜線・尾根を表し  
みね うね むね りょうせん おね あらわ  
ます。





みねじぞう  
峰地藏 ▶



銅山越えには無縁仏を供養するために  
**峰地藏** [延享元年(1744)と大正5年  
 (1916)につくられた石仏と年代不明の  
 石仏] が祀られています。

地蔵さんの縁日は旧暦8月24日で、明治ごろには道筋に幟がはためき、横の船窪には土俵があって子ども相撲に歓声が湧いていました。

銅山越えは西赤石山と西山・笹ヶ峰を結ぶ山道と銅の道が交差点のところでもあり、他所ものが往来する交差点でもあるので、さまざまな精霊が集まる場所と信じられていました。悪いことを行う神の侵入を阻止する境界の守り神は現在、登山者の無事安全を見守ってくれています。

がくしゅう きろく  
学習の記録



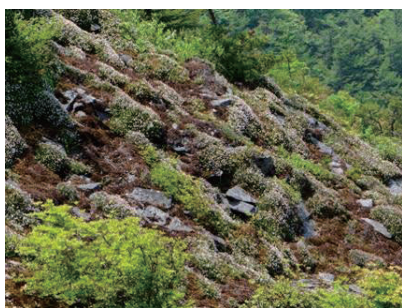


てんねんこうしん  
天然更新  
山は旧の姿に  
やま もと すがた

▲ ツガザクラ

ツガザクラはツツジ科の高山植物です。

高さ10cmほどの常緑低木です。開花時期は5月中旬～下旬ごろです。スズランのような釣鐘型で1cm足らずの花をつけます。ツガに似た葉の形と桜のような花の色からツガザクラと名付けられました。



一般的なツガザクラは、標高2,500m前後の高山帯に自生しますが、銅山峰のツガザクラは、標高1,300mに自生し、しかも、この地域だけの種類です。その貴重さから平成31年(2019)2月、国指定の天然記念物に登録されました。

▲ ツガザクラ群生の様子



別子銅山にはツガザクラ以外にも貴重な自然にあふれています。登山をする際は、自然にも着目してみてください。



▲ ツガザクラ



▲ ツガザクラ保護活動

アカモノは、ツツジ科で高さは10  
~25cm程度の小低木です。

ツガザクラより広範囲な山地の日  
当たりの良いところに育ち、銅山峰  
周辺では、5月下旬から6月下旬に  
かけて釣鐘型の白色で可憐な花を咲  
かせます。果実は球形で赤く熟し、  
食べることができます。

新居浜では「銅山イチゴ」とも呼ば  
れています。

愛らしく咲いた小さな花が銅  
山峰をわたる風に揺れる姿は  
登山者の心を和ませてくれま  
す。

そのツガザクラの保護活動に  
取り組んでいるのが、憧山会  
です。

憧山会は、登山者がツガザク  
ラを誤って踏みつけてしまわ  
ないようにロープを張ったり、  
定点観測を行ったりして、平成  
9年からツガザクラを守り続け  
ています。その活動が認められ、平成  
28年に三浦保環境賞大賞を  
受賞しました。新居浜南高校  
では、平成28年から共同で保護  
活動に取り組んでいます。



▲ アカモノの花と熟した実

がくしゅう きろく  
学習の記録







どうざんみね  
▲ 銅山峰ヒュッテ

わが国初の山岳鉄道  
別子近代化の汽笛鳴る



かどいしはらていしやじょう めいじ ねんさつえい  
▲ 角石原停車場 明治31年撮影  
べっしどうざんきねんかんしじょう  
別子銅山記念館所蔵

かどいしはら どうざんみね にいはまがわ  
角石原は、銅山峰から新居浜側、  
ひょうこう いち  
標高1,100mに位置します。

めいじ ねん かんせい ぎゅう  
明治13年(1880)に完成した牛  
しやみち ちゅうけいしよ  
車道の中継所ができたことによ  
はってん  
り発展しました。

めいじ ねん こうせき や やきが ま  
明治19年に鉱石を焼く焼鉱が  
かんせい どうじき だいちつうどう きたぐち  
完成し、同時期に第一通洞(北口)  
かんせい ぶつしうんばん けつ  
が完成することで、物資運搬の結  
せつち やくわり おお  
節地としての役割が大きくなりま  
した。

めいじ ねん べっし こうざんてつどうじょう ぶせん じょう ぶてつどう えき かどいしはら  
明治26年に別子鉱山鉄道上部線(上部鉄道)の駅である、角石原  
ていしやじょう もう かどいしはら じゅうようせい ま  
停車場が設けられ、角石原はその重要性が増すこととなります。



ヒカゲツツジは、淡い黄白色の花を枝先に2輪か  
ら4輪つけるツツジとして、珍しいものです。  
はる がつまつ あ き  
春(4月末)にはぜひ逢いに来てください。





▲ 角石原に向かう蒸気機関車 明治38年撮影 住友史料館所蔵

上部鉄道は、広瀬幸平によって計画され、明治26年8月27日、標高835mの石ヶ山文(起点)～角石原(終点)の間5,532mが開通し、日本初の山岳鉱山専用鉄道が完成しました。東海道線(新橋～神戸間)の全線開通(明治22年)間もないころ、海拔1,000mを越えた別子の山中には、機関車の汽笛が勇ましくこだましていました。レール幅は762mmと狭く、断崖絶壁を走り133回ものカーブがありました。しかし、一度も事故はなかったそうです。

採掘場の下部移行と第三通洞、東平～黒石に複式索道の完成により、上部鉄道の輸送量は激減し、明治44年10月7日、上部鉄道は廃止されました。ここで使用されていた機関車の一部は、松山の伊予鉄道(明治21年開業)に売却され、松山のまちを走っていました。

角石原駅跡は、銅山峰ヒュッテとして銅山を訪れる人々の憩いの場となっています。

## 学習の記録





▲ フォレスターハウス

別子銅山を旧のあおあおとした  
姿にしておかえりする

フォレスターハウスとその記念広場は、伊庭貞剛が実施した「大造林計画」100周年を記念して、大造林事業の原点である別子山中七番に、森林を通じた環境問題、豊かな森をつくるための情報を発信する基地となることをめざして、平成5年(1993)にオープンしました。

現代社会が求めるサステナブル(持続可能)な森林管理をめざす「住友の森エコシステム」をテーマに森林整備が行われています。館内は、住友林業の森や植林の歴史などが、写真や模型、映像でわかりやすく紹介されています。

フォレスターハウス

住 799-0650 愛媛県新居浜市別子山乙555-70  
 電 0897-64-2019 料 無料  
 時 10:00~16:00  
 休 月曜日・火曜日(12月~2月冬期休館)



フォレスターハウスという名前は、住友の森づくりに力を注いだ先人たちをたたえて「木を植えた人々=森林技術者」にちなんで命名されました。





### ▲ モニュメント

平成13年、記念広場において伊庭貞剛没後75周年を記念して句碑が作られました。句碑を作るために、市民が100円募金を行いました。句碑には、「五ヶ年の跡見返れば雪の山」と刻まれています。伊庭が別子銅山支配人として5年間の任期を終え、新居浜からおおさかへ戻るときに、船上から別子の山々を見ながら詠みました。そのときの風景をイメージしてデザインされています。句碑は別子山全体、左側の石は郷山、右側の石は金子山、手前の小さな石は御代島を表しています。

この句には、心友の品川弥二郎が「月と花とは人に譲りて」と付け回しています。句碑の裏側には銅版で作られた説明文が設置されています。

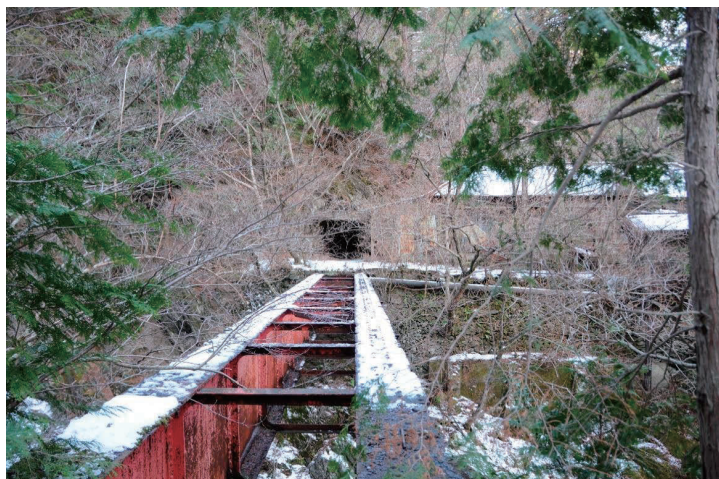
記念広場内の中央にあるモニュメントは、自然の力に対して尊敬の気持ちをウキガネ石(黒色の花崗岩の一種)に刻んでいます。全八方向に面して自然の恵みに感謝し、空に向かう頂は樹と森の生命を敬い、礎は永遠に災害を防ぐため山や川を整備することを誓っています。



▲ 伊庭貞剛の句碑

### がくしゅう まろく 学習の記録





ひうらつうどう  
▲ 日浦通洞

まちとまち  
人と人を結ぶ通洞

ひうらつうどう とうえんしゃこうていぶ べっしやま ひうら むす ゆそうよう  
日浦通洞は東延斜坑底部から別子山の日浦を結ぶ輸送用のトンネル  
めいじ ねん こうじ はじ めいじ ねんがつ かんせい  
です。明治41年(1908)に工事が始まり、明治44年2月に完成しました。  
どうじ だいさんつうどう つな べっしやま ひうら に いはま どうなる むす  
同時に、第三通洞と繋がり、別子山の日浦と新居浜の東平が結ばれま  
ひうらつうどう なが む ばし  
した。日浦通洞の長さは2,020mで、向かい走りははさんで第三通洞と  
あわせると、3,990mになります。また、通洞内のレールの隣に端出場  
すいりょくはつでんしょ どうすいろ ほ  
水力発電所への導水路も掘られました。

ひうらつうどう だいさんつうどう こうせき ぶつし  
日浦通洞～第三通洞のルートができたことによって、鉱石など物資  
ゆそう すべ とうえんしゃこう だいさんつうどう ひうらつうどう けいゆ  
輸送が全て東延斜坑と第三通洞、そしてこの日浦通洞を経由すること  
だいちつうどうない てつどうばしや こうせきうんばん はいし かど  
となり、第一通洞内の鉄道馬車の鉱石運搬が廃止、これにともない角  
いしはせんこうじょう じょうぶてつどう いしがさんじょう は ば さくどう はいし  
石原選鉱場、上部鉄道、石ヶ山 丈から端出場への索道なども廃止され  
ました。



ひうら ちめい ひ あ かげち いみ  
日浦という地名は、日当たりのよくない影地という意味  
ひ あ よ ひうらとざんぐち ひうらがわ  
です。ちなみに、日当たりの良い日浦登山口は、日浦側  
とざんぐち いみ きゅうべっしのほりぐち  
登山口の意味です。(旧別子登山口のことです。)



ひうらつうどういりぐち  
日浦通洞入口  
しょうわ わんだいさつえい  
昭和30年代撮影  
まつうら いきお していきょう  
松浦 敷氏提供



かご電車を使って遠足へ行く様子 ▶  
しょうわ わんだいさつえい  
昭和33年撮影  
ひわさ はつたろうさつえい  
日和佐 初太郎撮影

© HATSUTARO HIWASA 2021

たいしょう ねん いかだづこう あいだ さくどう いかだづ よけい  
大正13年(1924)には筏津坑との間に索道がつくられ、筏津・余慶・  
せきぜんこう こうせき どうなる はこ だ  
積善坑の鉱石はここから東平まで運び出されていました。

しょうわ ねん うんてん しょうわ ねん  
昭和13年(1938)からは、東平～日浦に「かご電車」が運転され、一般  
ひと りょう りょうきん むりょう かたみち ぶん まくら なか  
の人たちも利用できました。料金は無料で、片道30分ほど真っ暗な中  
じょうしゃ ねん べっしやま にいま むす ゆいいつ こうつうきかん じゅうりょう  
の乗車でした。別子山と新居浜を結ぶ唯一の交通機関として重要な  
やくわり は  
役割を果たしました。

とうじ べっしやま どうなる つうがく せいと たいふう つうどう しんすい しょう  
当時、別子山から東平へ通学していた生徒が、台風で通洞が浸水し使用  
できなくなった際に、徒歩で銅山越えをしたという逸話が残っています。

## がくしゅう きろく 学習の記録







▲ 南光院・円通寺

やまびと  
銅山人の御霊のふるさと  
みなま  
南光院さん

南光院は、南光院快盛法印を祀ったお寺です。南光院快盛法印は元禄7年(1694)住友の要請により別子銅山に迎えられ、教育者や医者のような役割を果たして、別子山中の人たちから尊敬されていました。

宝永3年(1706)9月9日、62歳で世を去った後、別子銅山の守護神として祀られました。社殿は寛政年間(1789~1791)に建立されました。そして、山で働く人たちの信仰の中心となり、精神道場としての役割を果たし、年間数万人の参拝客がここを訪れるほどのにぎわいがありました。明治7年(1874)に神仏分離にともない円通寺を守る仏様となり、現在に至っています。

現在の社殿は、平成24年(2012)に再建されたものです。



別子小・中学校には、円通寺跡の記念碑  
があります。  
道沿いにあるので、探してみてください。





◀ なんこういん  
南光院

えんつうじ かまくらじだい へいけ おちうど と き くに こうちけん おおきたがわ  
**円通寺**は、鎌倉時代に平家の落人によって土佐の国(高知県)大北川に  
 こんりゆう はじ べっしやまむら うつ ふめい  
 建立されたのが始まりです。いつ別子山村へ移ったのかは不明ですが、  
 けいちょうねんかん かいそう つた えんぼう ねん  
 慶長年間(1596~1615)の開創と伝えられています。延宝6年(1678)に  
 ほどの げんべっししょう ちゅうがっこう めいじ ねん べっしだいすいがいご めい  
 保土野(現別子小・中学校)につくられ、明治32年の別子大水害後、明  
 じ ねん ち しんちくいてん こあしたに しゅつちようしょ もう  
 治34年にこの地へ新築移転されました。また、小足谷には出張所が設  
 けられていました。

ここに、かんきこう こうぐち まえ まつ  
 歡喜坑の坑口の前に祀られ  
 じぞう すみともけ じぶつ  
 ていたお地藏さんや住友家の持仏である  
 あみだによらいつぞう しょぶつ おさ  
 阿弥陀如来立像などの諸仏が納められて  
 います。

なんこういん えんつうじ おな けいだい した  
 南光院と円通寺は同じ境内にあり、親  
 しみをこめて「南光院さん」と呼ばれて  
 います。

すみともけ じぶつ あみだによらいぞう ▶  
 住友家の持仏 阿弥陀如来像 ▶



がくしゅう きろく  
**学習の記録**





別子銅山最後の坑口  
ここに眠る

いかだづこう  
筏津坑

いかだづこう ベっしどうざんさいご こうぐち ベっしどうざん こうしょう ほんじき よけい  
筏津坑は別子銅山最後の坑口です。別子銅山の鉱床は本鋪、余慶、  
いかだづ せきぜん いかだづこう いかだづこうしょう こうどう  
筏津、積善の4つで、筏津坑はそのうちの筏津鉱床の坑道です。ル  
イ・ラロック おとし ほんじき べつ こうしょう ろとう はっけん ベっしこうざん  
が弟地で本鋪とは別の鉱床の露頭を発見し、「別子銅山  
目論見書」に記したことにより、明治11年(1878)に開坑しました。

しょうわ ねん おおたてこう いかだづこう かぶ あいだ たんこうつうどう かんつう  
昭和18年(1943)に大立坑と筏津坑下部との間に探鉱通洞が貫通  
し、第四通洞と繋がりました。

しょうわ ねんだい はい いかだづこう かぶ かいはいつ どう さんしゆつりょう そうか  
昭和20年代に入っの筏津坑の下部開発は銅の産出量の増加に  
おお やくわり は  
大きな役割を果たしました。



いかだづこう とうじつか こうぐち ゆいいつなか はい  
筏津坑は当時使われていた坑口としては唯一中に入る  
ことができます。ぜひ足を運んでみてください！





© HATSUTARO HIWASA 2021

こうちしゅうへん しゃ  
坑口周辺には、社  
たくくらぶ しんりょうしょ  
宅、倶楽部、診療所、  
にちようひん はんばいしょ  
日用品の販売所などが  
のきつら せいきよう きわ  
軒を連ね、盛況を極め  
ていました。

しょうわ ねん がつ にち  
昭和48年3月31日の  
いかだづこう しゅうくつ べっし  
筏津坑の終掘で、別子  
どうざん へいざん  
銅山は閉山しました。

にゆうこう ま ひと  
▲ 入坑待ちの人たち  
しょうわ ねん ひ わ き はつたろうさつえい  
昭和30年 日和佐初太郎撮影



だい かいこくさい  
第6回国際エクロジャイト会議の ▶  
かいぎ  
きねん ひ  
記念碑

りゅうきがん ち か こうおん こうあつ ぼしょ  
エクロジャイト(榴輝岩)は、地下30km~100km の高温・高圧な場所  
でできる変成岩です。あかいろ いし みどりいろ きせき しゆせいぶん いし  
赤色のザクロ石と緑色の輝石を主成分とする石  
です。せかい と りょう すく にほん ひがしあかいしやま ちゅうしん  
世界でも採れる量は少なく、日本では、東赤石山を中心とする  
べっしやま と  
別子山くらいでしか採れません。

べっしやまちいき せ ば へいせい ねん えひめけんそうごうかがくはくぶつかん  
別子山地域の瀬場には、平成13年(2001)に愛媛県総合科学博物館にて  
おこな だい かいこくさい かいぎ きねん ひ こんりゅう  
行われた「第6回国際エクロジャイト会議」の記念碑が建立されていま  
す。べっしやま せかいじゅう がくしや おとず ぼしよ  
別子山は世界中の学者たちが訪れた場所でもあります。

がくしゅう きらく  
学習の記録





べっしやま かん  
▲ 別子山ふるさと館

「別子山」  
ふるさと  
の名は永遠に

べっしやま かん べっしやま ほ どの べっししょう ちゅうがっこう  
別子山ふるさと館は、別子山保土野にあります。別子小・中学校の  
けんどう はさ む がわ へいせい ねん かいかん  
県道を挟んで向かい側です。平成2年(1990)に開館しました。

たてもの かいぶ ぶん どうろ めん かいぶ ぶん どうざんがわ めん こうぞう  
建物の2階部分は道路に面し、1階部分は銅山川に面した構造となっ  
ており、別子銅山で当時使用されていた貴重な鉱山の工具などが展示さ  
れています。さらには、赤石山系の山や別子山周辺の鉱石や岩石の標  
ほん せいそく どうしょくぶつ しゃしん ひょうほん れきし ねんぴょう むかし せいかつようぐ  
本、生息する動植物の写真や標本、歴史年表、昔の生活用具なども  
見ることができます。まさしく「別子山」がぎっしり詰まったところで  
す。にゅうかんりょう むりょう  
入館料は無料です。

べっし かん みぎがわ みち くだ い なが おうけつきょうつ  
別子ふるさと館の右側の道を下って行くと、長さ42mの甌穴峡吊り  
橋があり、橋をわたって2、3分のところに甌穴群を見ることができます。  
甌穴とは、川の流れなどで自然に岩に大きな穴が空いたものことで  
す。



おうけつ なが ねんげつ  
甌穴は、とても長い年月をかけてできます。  
べっしやま おうけつ かく  
別子山の甌穴は、隠れたスポットです。  
ふるさと館 いけ かわぞこ あと りょう  
ふるさと館の池は、川底の跡を利用してい  
ます。よく見ると、甌穴の跡がわかります。





▲ 館内の様子



▲ ゆらぎの森 (右下:パーゴラ)



▲ クマガイソウ (平成15年撮影)

ふるさと館から銅山川を下流(四国中央市方面)に下り、天皇橋を渡って南へ進むと「森林公園ゆらぎの森」へ行けます。ゆらぎの森では、日本最大級のドーム型の藤棚(パーゴラ)が迎えてくれます。また、別子山の自然に触れ合うことができ、宿泊や木工体験、炭焼き体験などもできます。

ゆらぎの森へ行く途中、近藤義一郎さんのお宅にて、クマガイソウ(絶滅危惧種)を見ることができます。義一郎さんの父清さんが山から1株のクマガイソウを持ち帰り、苦労を重ねて1500株まで増やしました。一時株数が減りましたが、現在は300株にまで増やしました。4月下旬～5月上旬には、庭が一般公開され、誰もがその花を楽しむことができます。

別子山ふるさと館

住 愛媛県新居浜市別子山甲 345 番地  
 ☎ 0897-64-2305  
 休 火曜日・祝日・年末年始  
 時 10:00～17:00(4月～9月)  
 10:00～16:00(10月～3月)

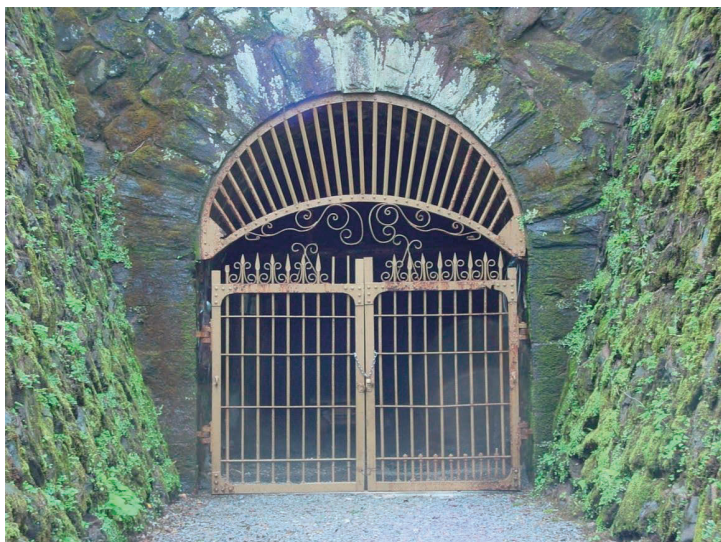
森林公園 ゆらぎの森

住 愛媛県新居浜市別子山甲 122 番地  
 ● オーベルジュゆらぎ  
 ☎ 0897-64-2220  
 ● 作楽工房  
 ☎ 0897-64-2252 休 水曜日

学習の記録







▲ だいさんつうどう  
第三通洞

いくた  
ものごと  
はこ  
い  
た  
つむ  
だいさん  
ち  
幾多の物語を運び  
紡いだろう  
第三の通洞

だいさんつうどう  
第三通洞は、めいじ ねん  
明治27年(1894)3月から がつ  
建設作業を始め、めいじ ねん  
明治35年に完成  
しました。そして、しょうわ ねん  
昭和43年(1968) とうなるてつたい  
東平撤退までの 67年間使用されまし  
た。

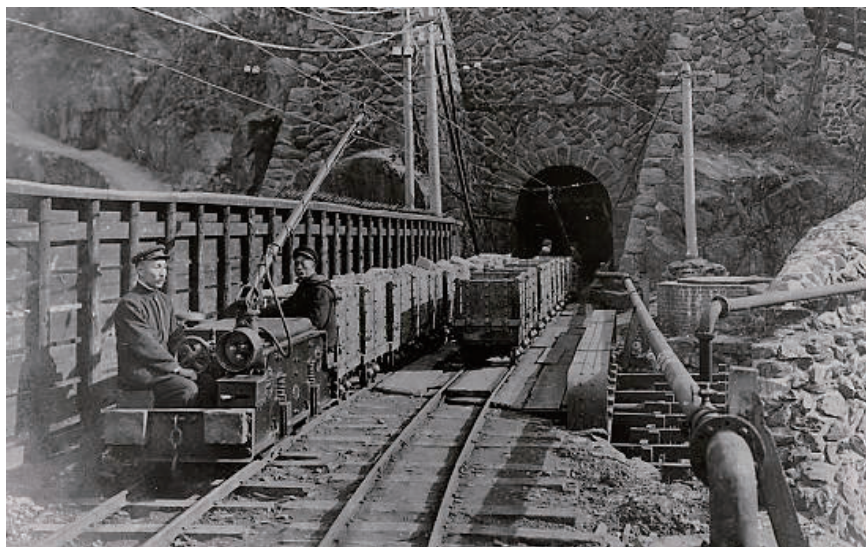
だいさんつうどう い  
第三通洞入り口(標 高 747m)から とうえんしゃこうていぶ  
東延斜坑底部まで、なが  
長さ 1,795m です。  
また、こうどうはば  
坑道幅は 3.35m、高さ 3.73m です。めいじ ねん  
明治44年に、なが  
長さ 2,020m の日  
うらつうどう つな  
浦通洞と繋がり、とうなる ひうら  
東平～日浦が 3,990m でむす  
結びられました。つうどう  
通洞の隣に  
へいこう  
並行して、は で ばすいりよくはつでんしよ  
端出場水力発電所への とうすいろ  
導水路のトンネルも ぼ  
掘られ、ひうら  
日浦から  
とうなる みず  
東平へ水が運ばれました。

げんざい  
現在は、りょうがわ  
両側がせりだした とうとく  
独特な石積の奥に、だいさんつうどうぐち  
第三通洞口をみるこ  
とができます。



だいさんつうどう えんまいし  
第三通洞の閻魔石には、イゲタマ  
一くがほ  
彫られています。さが  
探してみ  
てください





めいじ ねんだいまつさい べっしどうざんきねんかんしやう  
 ▲ 明治30年代末撮影 別子銅山記念館所蔵



きゆう か やく こ  
 ▲ 旧 火薬庫

かやくこ さいくつぎやう しやう  
 火薬庫は、採掘作業に使用  
 する爆薬を保存してしまし  
 ばくやく ほぞん  
 ました。長さは約300m もありま  
 なが やく  
 す。火薬庫の出口に小山が積  
 かやくこ でぐち こやま つ  
 まれているのは、火薬が爆発  
 かやく ばくはつ  
 した際に、その小山に爆風を  
 さい こやま ばくふう  
 当てることで他のところに  
 あ ほか  
 ひがい およ くふう  
 被害が及ばないように工夫し  
 ているためです。

がくしゆう きらく  
 学習の記録







だいさんへんでんしよ  
▲ 第三変電所

とうなる  
東平の暮らしを  
あか  
明るく照らし  
て  
つづ  
続けて  
ろくじゅうよねん  
六十余年

だいさんへんでんしよ だいさんつうどうまえ だいさんしゅうらく めいじ ねん がつ  
第三変電所は、第三通洞前の第三集落に明治37年(1904)1月につくら  
れ、しょうわ ねん (1968)の東平撤退になるすこ まえ しょうわ ねん ねんかんし  
用されてきました。「第三」というのはさんばんめ という意味ではなく、  
第三通洞ができたことで、その周辺地域が第三集落となったからで  
す。だいさんへんでんしよ おとし すいりよくはつでんしよ おく  
第三変電所では、遠登志の水力発電所から送られてくる3,300 V ポルト  
もの電圧を変圧し、使いやすい350 V にしていました。でんき さいくつ  
坑内電車などの鉱業用や家庭用の電気として使用されていました。

とうしよ しゅうはすう ヘルツ げんざい はんぶん しゅうはすう かてい  
当初、周波数は30Hzで、現在の半分の周波数でした。しかし、家庭  
ようでんか せいひん ふきゅう しょうわ ねん ヘルツ き か  
用電化製品の普及にともない、昭和25、6年に60Hzに切り換えられまし  
た。

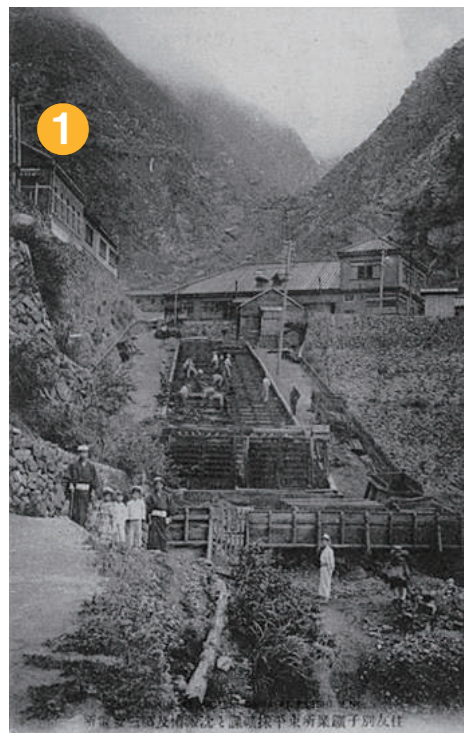


あか づく たてもの よこ もくぞう たてもの なか  
赤レンガ造りの建物の横にあった木造の建物の中に、  
へんでんせつび せつち げんざい あか たてもの  
変電設備が設置されていました。現在、赤レンガの建物だ  
この  
けが残っています。





だいさんへんでんしよ  
**第三変電所**  
 おおのかずみ していきよう  
 大野和美氏 提供



この施設を建設するとき、資材は、端出場から石ヶ山丈まで索道で送られ、そこから一本松まで上部鉄道で運ばれ、更にそこから東平まで索道で降ろされました。上下・水平移動の組み合わせの運搬で、大変苦勞しました。

変電所の建屋は木造と赤レンガ造りの2つでした。変電などのすべての設備は木造の建物にあり、赤レンガ造りの建物は1階が修理道具や材料置き場、2階は宿泊所でした。

だいさんしゆうどうしよ  
**第三収銅所**  
 だいさんへんでんしよ  
**第三変電所**

がくしゆう きろく  
**学習の記録**





マンブを通り抜けると  
そこは天空都市であった

▲ 小マンブ跡

マンブは、坑道の古い呼び方の「間符」から付いたトンネルの名称です。東平には鉄道用のマンブが2つあり、短い方は「小」マンブと呼ばれ、もう1つの長い方は「大」マンブと呼ばれていました。大小2つのマンブを、坑内電車が通っていました。

また、呉木へ素石（鉱石でない石）を捨てるトロッコ用のマンブ（呉木マンブ）もありました。その後、生活物資の運搬用に使われ、マンブの中央には中七番ダムでできた氷を病院で使用するために保存する貯氷庫がありました。

小マンブは今も当時の姿のまま残っており、自由に入って見学することができます。また、採鉱のために使用していた当時の機具が展示されており、当時の採鉱作業を直接手で触れて学ぶことができます。



かご電車の乗車賃は一体いくらだったのでしょうか？



▲ かご電車

かご電車は、新居浜と別子山  
 (東平～日浦)を結ぶ唯一の交通  
 機関で、人が乗る車体が安全のた  
 めに「かご」のような形で覆われ  
 ています。この様子から、かご電  
 車と呼ばれていました。



▲ 大マンプ跡

かご電車の運行が始まるまで  
 は、別子山地区に行くために険し  
 い銅山越えをしなければなりま  
 せませんでした。昭和13年(1938)に  
 かご電車ができてからは往來が  
 容易となり、普段の通勤から通  
 学、買い物までと、生活に欠かせ  
 ない交通手段として多くの人た  
 ちに親しまれていました。



道後浄電車東所業子露別友住

マイントピア別子や別子銅山  
 記念館に屋外展示されているか  
 ご電車も、実際にはここで運行し  
 ていました。

◀ 大マンプと福井橋

がくしゅう きろく  
**学習の記録**







▲ 展望台てんぼうだいとなったプール跡あと

山頂さんちようのプールは子供こどもの楽園らくえん  
現在いまに残るのこは素敵すてきな眺めながめ

こ マンプの上うえには、**とうなるしょうがっこう** プールがありました。

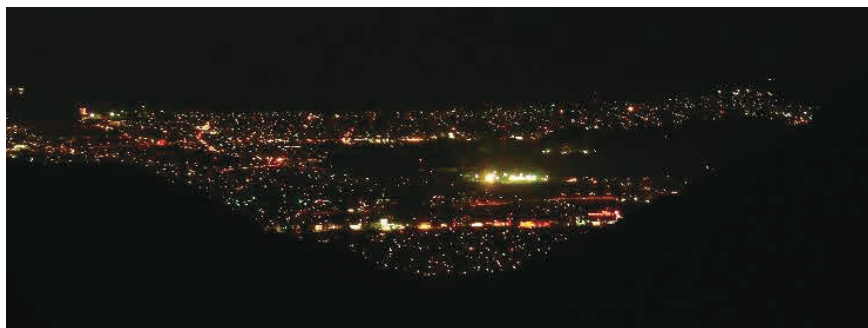
プールは東平とうなるしょうがっこう 小学校しょうりつの創立50周年しゅうねんの記念として昭和30年きねん (1955) に開設しょうわされ、昭和43年ねんに東平とうなるから撤退てったいするまでの14年間ねんかん、東平の人々とうなるの涼ひとびとを得る場所りようとして利用えされていました。

プールの大きさおおは、7m×15mの4コースで、小学生しょうがくせいを対象たいしょうとしていたため、深さふかは1m20cm程度ていどでした。また、更衣室こういしつやシャワー、ロッカーなども完備かんびされていました。これら全て無料すべで、誰もむりようが利用だれできました。

プール開きびらには、愛媛県えひめけん在住ざいの水泳すいえいの元オリンピック選手もとである鶴田せんしゆ義行つるたさんが招かれ、初泳ぎはつおきをした際さいに、ひとかき半はんで泳ぎ切およったと言いわれています。



げんざい てんぼうだい う か せんめんに いはましない  
現在は展望台うとして生まれ変わり、扇面せんめんに新居浜市内にいましない  
はもとより、遠く瀬戸内海とおいまで見渡せすこともできます。  
ぼうえんきよう のぞ  
望遠鏡ぼうえんきようもあるのでぜひ覗のぞいてみてください！



▲ 展望台から見た新居浜市街の夜景  
てんぼうだい み に いはましがい やけい



▲ 小マンブ(上にプール)  
しょうわ ねん まつうらいさお していきよう  
昭和37年 松浦 勲 氏 提供



▲ プールの様子 昭和42年撮影  
べっしどうざんきねんかんしよぞう  
別子銅山記念館所蔵

プールの水は谷川から引いていたので、10分間と入ってられないぐ  
らい冷たかったそうです。プール帰りの子どもたちは皆、唇が紫色を  
していました。

また、防火用水としての役割も果たしていました。

## 学習の記録





にい はま  
新居浜の  
原風景がここに  
ある

▲ とうなるれきししりょうかん  
東平歴史資料館

とうなるれきししりょうかん  
東平歴史資料館は、マイントピア別子・東平ゾーンの中核施設として、平成6年(1994)に開館しました。東平の歴史、当時の生活文化などを分かりやすく紹介している施設です。

とうなる だいさんつうどう かんせい めいじ ねん まく あ  
東平は、第三通洞が完成した明治35年(1902)に幕を開けます。さらに  
たいしやう ねん きやうべっし さいこうほんぶ うつ さいせい き むか しやう  
大正5年(1916)に旧別子から採鉱本部が移され最盛期を迎えます。昭  
わ がんねん じんこう にんあま しやたく こ こ  
和元年(1926)の人口は5,000人余りで、社宅は900戸を越えていました。  
ご しやうわ ねん さいこうほんぶ は で ば うつ しやうわ ねん  
その後、昭和5年に採鉱本部が端出場へと移されますが、昭和43年ま  
ねんかん べっしどうざん じゅうやう やくわり は とうなる じ だい よ  
での67年間、別子銅山にとって重要な役割を果たし、『東平時代』と呼ば  
れています。

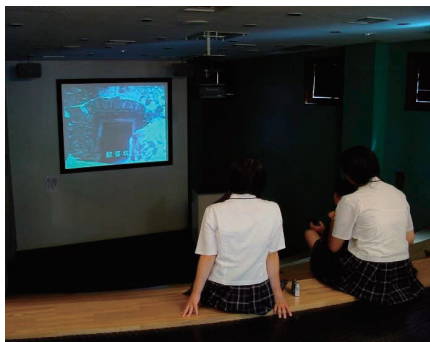


住 愛媛県新居浜市立川町 654-3  
☎ 0897-36-1300 料 入場無料  
時 10:00~17:00  
休 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)12月~2月





▲ ジオラマの展示 てんじ



▲ 東平紹介ビデオ とうなるしょうかい

特に、館内に展示されている別子銅山の全体の地形ジオラマや、東平  
 ぶらぐじょう しょうがっこう しゃたく さまざま しせつ もけい しょうさい さいげん とうじ  
 娯楽場や小学校、社宅など様々な施設の模型が詳細に再現され、当時  
 せいかつ おも は ほか あかいしきんけい しぜん どうせいひんなど  
 の生活に想いを馳せられます。他にも、赤石山系の自然や銅製品等も  
 てんじ  
 展示されています。また、別子銅山の歴史を紹介した約20分間の学習  
 にいはまししゅっしん せいゆう みずき なな ほうえい  
 ビデオは、新居浜市出身で声優の水樹奈々さんのナレーションで放映  
 されています。

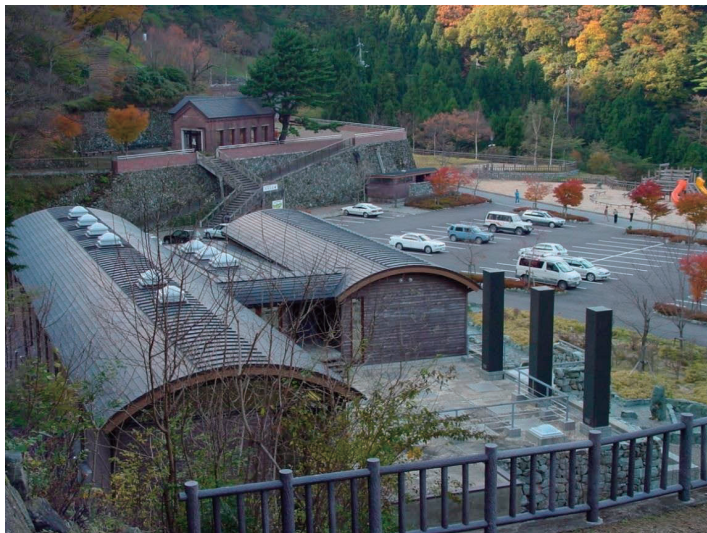
東平歴史資料館の入り口は坑口を、内部は坑道を思わせるようなイメー  
 ジで、設計されています。また、スロープなども設置されており、誰も  
 りよう  
 が利用しやすくなっています。

さらに、銅にちなんだ体験コーナーも設置されており、火事を知らせ  
 るのに使われていた半鐘という銅製の鐘を鳴らしたり、人による運搬  
 さぎょう たずさ じょせい なかも はこ どう おな おも  
 作業に携わっていた女性の「巾着持ちさん」が運んでいた銅と同じ重さ  
 (30kg)を背負ったりできるなど、さまざまな体験ができます。

がくしゅう きろく  
**学習の記録**



とうなるしょうかい こくちばん にいはましせいさく  
 東平紹介ビデオ 告知版 新居浜市制作



とうなる じだい  
東平時代の  
ちゆうすう  
中樞を司る場所  
つかさど  
どころ

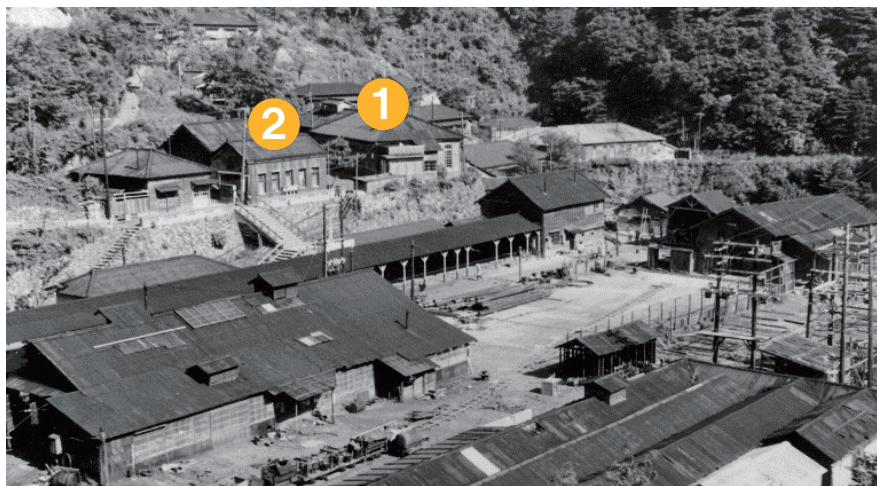
▲ マイン工房 (奥の建物)

さいこうほんぶ べっしどうざん ちゆうすう ぼしよ こうない かんり ほあん こうないせつび  
採鉱本部は、別子銅山の中樞の場所で、坑内の管理や保安、坑内設備  
せいび さいくつ かん すべ かんり にな  
の整備、採掘に関する全ての管理を担っていました。

さいこうほんぶ げんろく ねん べっしどうざんかいこういらい きゆうべっし お  
採鉱本部は元禄4年(1691)の別子銅山開坑以来、旧別子に置かれてい  
ましたが、だいさんつうどう かんせい き たいしやう ねん とうなる だいさんしゅうらく  
第三通洞の完成を機に、大正5年(1916)、東平の第三集落に  
いてん むくぞう かいだて りっば たてもの ご しやうわ ねん  
移転されました。木造2階建の立派な建物でした。その後、昭和3年(1928)  
とうなるちいき ちゆうすうきのう しゅうせき とうなるしゅうらく いてん  
に、東平地域の中樞機能が集積していた、東平集落へ移転します。そ  
さいこうほんぶ に いはま は で ば いてん しやうわ ねん べっしどうざん  
して、採鉱本部が新居浜の端出場へ移転する昭和5年まで、別子銅山の  
ちゆうすう ち とうなる いちづ やまぜんたい しれいぶ やくわり  
中樞の地として東平が位置付けられ、銅山全体の司令部としての役割を  
は  
果たしていました。



こうぼう では、こ どもから おとな まで てづく どうざいく  
マイン工房では、子どもから大人まで手作りの銅細工を  
つく 作ることができます。せかい せかい さくひん  
世界にひとつだけの作品は、あなた  
のおもいで まちが  
の思い出になること間違いなし！



▲ ① 旧探鉱本部(東平集落) ② 旧東平配電所(後のメイン工房)  
きゅうさいこうほんぶ どうなるしゅうらく きゅうとうなるはいでんしょ のち こうぼう  
 昭和43年 原茂夫氏撮影



▲ 探鉱本部(第三集落)  
さいこうほんぶ だいさんしゅうらく  
 大正初期撮影  
たいしょうしょ きさつえい  
 別子銅山記念館所蔵  
べっしどうざんきねんかんしよざう

探鉱本部の前にはレンガ造りの建物が残っています。この建物は、最初、東平配電所として東平第三変電所と同じ明治37年につくられました。その後、山林課事務所、保安本部、最終的にはキャプラーンブ室として利用されました。

現在は、東平メイン工房として生まれ変わり、銅版画やレリーフなどの体験や手作りの楽しさを味わうことができます。東平では、赤レンガ造りの建物は第三変電所とここだけだったそうです。

がくしゅう きらく  
**学習の記録**







▲ とうなる 東平プラットホーム あと

たくさんの人<sup>ひと</sup>と思<sup>おも</sup>い出<sup>で</sup>を  
乗<sup>の</sup>せたかご電<sup>でん</sup>車<sup>しゃ</sup>

とうなる 東平プラットホームは、とうなる だいさん へ ベっしやま ひうら  
まで結ぶ電車の乗り降りをするための場所です。ここから、坑夫たちが  
じんしゃ の こ だいさんつうどう こうない はい じんしゃ こうふ  
人車に乗り込み第三通洞から坑内へ入っていました。人車とは、坑夫が  
つうきん りょう しやりょう だいしゃ ざせき ていど かんたん こうぞう  
通勤に利用する車両のことで、台車に座席がある程度の簡単な構造のも  
のでした。

しょうわ ねん 昭和13年(1938)から、かご電車のとうなる ひうら いっぱんきょうよう はじ  
に いはま ベっしやま ゆいいつ こうつうしゆだん かつやく  
た。新居浜と別子山をつなぐ唯一の交通手段として活躍しました。

プラットホームを出発した電車は、プール下の小マンブを通り、大マ  
ンブを<sup>とお</sup>通<sup>とお</sup>って、だいさんつうどう いた とうなる ひうら やく ぶん むす  
ました。電車は蓄電池型と、電線から電気を取って動いていたトロリー  
でんしゃ ちくでん ちがた でんせん でんき と うご  
型<sup>がた</sup>がありました。



さいしょ じんしゃ て かつ かんたん つく  
最初、人車には手すりしか付いていない簡単な作りでし  
たが、後に安全のため、屋根が取り付けられ、座席も1つ  
のち あんぜん やね と つつ ざせき  
減らして10人乗りから8人乗りになりました。



にゆうこう ようす  
▲ 入坑の様子

しょうわ ねんだい 昭和30年代  
はらしげお していきょう 原茂夫氏提供



こうふ りよう じんしゃ  
▲ 坑夫が利用した人車

べっし はでば (マイントピア別子・端出場ゾーン)

かご電車の運行は朝・昼・夕  
の3便でしたが、夕方方の電車に  
乗り遅れたり、急用の場合だ  
ったり、別子山方面から来た人  
が、東平で夜の映画を見た帰り  
には特別電車(特電)を出すこ  
ともあったそうです。

東平を撤退した後も、かご電  
車は運行されていましたが、1  
日2便に減少されました。そし  
て、昭和48年、別子銅山の閉山  
と共に運行は終了し、36年間  
の歴史に幕を閉じました。

がくしゅう きろく  
学習の記録





▲ インクライン跡にできた遊歩道の階段

暮らしの道が  
自然を楽しむ道へ



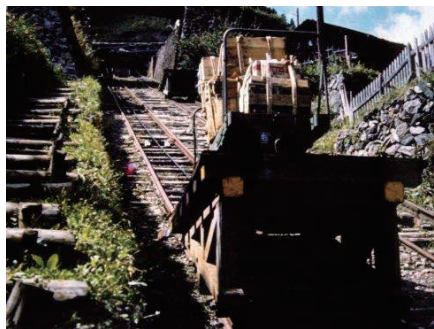
◀ インクライン機械室  
おおのかずみ していきょう  
大野和美氏 提供

インクラインは、物資輸送の施設です。インクライン(incline)には、「傾斜」という意味があります。傾斜面にレールを敷いてトロッキを走らせるケーブルカーの一種のようなくみで、大正5年(1916)ごろにつくられました。東平の山中での生活にはなくてはならない運搬施設でした。



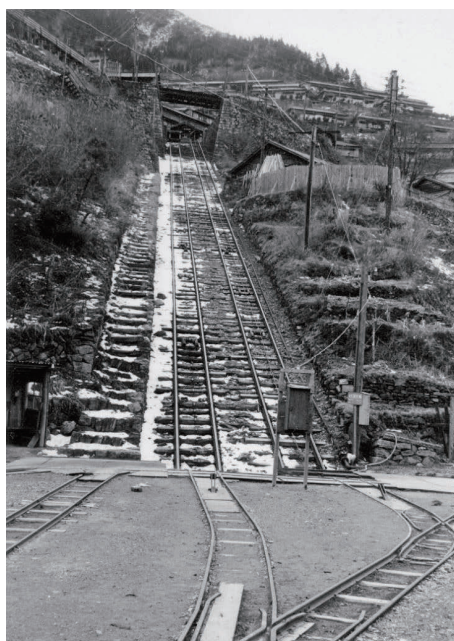
インクライン跡は、遊歩道の階段として生まれ変わりました。さて、この階段は何段あるのでしょうか？





### ▲ 荷揚げの様子

しょうわ ねん べっし どうざん きねんかんしよぞう  
昭和34年 別子銅山記念館所蔵



### ▲ インクライン

しょうわ ねん ほらしげおし きつえい  
昭和43年 原茂夫氏撮影

ぎょうかく ど しやちよう けいしや ち  
仰角21度、斜長95mの傾斜地  
に敷かれたレール上にもつ  
せる台車が平行に2台配置され、  
それぞれがワイヤーで結ばれてい  
ました。モーターの力で、ロープ  
を巻き上げると片方が上がり、も  
う片方が下がるというしくみとな  
っていました。安全のため、イン  
クラインに人が乗ることは禁止さ  
れていました。

インクラインの下部には索道  
基地があり、端出場から索道で運  
ばれてきた生活物資を上へ運んだ  
り、坑木などの建設資材を下へ運  
んだりしていました。

インクラインは銅山の人たちの  
ライフラインでした。インクラ  
インはこの他に、日浦・東延・星越・  
四阪島などにも設置されていまし  
た。現在は、遊歩道として生まれ  
変わり、春にはツツジ、夏にはあ  
じさい、秋には紅葉など、季節に  
応じた草木が彩りをそえて楽し  
ませてくれます。

## 学習の記録





とうなるちようこ あと  
▲ 東平貯鉱庫跡

こうふの夢と想いを  
詰める宝の箱

とうなるちようこ こうない はこ どうこうせき た やくわり にな  
東平貯鉱庫は坑内から運ばれてきた銅鉱石を「貯める」役割を担って  
いました。めいじ ねん かんせい ちようこ じようだん うえちようこ  
明治38年(1905)に完成しました。貯鉱庫は上段の上貯鉱庫と  
げだん したちようこ こうせい  
下段の下貯鉱庫の2つから構成されていました。

と こうせき いちど うえちようこ あつ せんこうじよう せんべつ  
採れた鉱石は一度、上貯鉱庫に集められます。そして、選鉱場で選別  
されて、下貯鉱庫に選別された鉱石だけが集められます。最後に索道基  
したちようこ せんべつ こうせき ちようこ あつ さいご さくどうき  
地から索道を使い、鉱石が運ばれていました。

ちようこ せんこうじよう さくどうきち あ さくどうば  
貯鉱庫、選鉱場、索道基地の3つを合わせて、索道場といいます。  
さくどうば た わ た はこ こうてい わ  
索道場では「貯める」「分ける」「貯める」「運ぶ」という工程に分け  
られていました。

したちようこ こうせき と た ろうと  
下貯鉱庫から鉱石を取り出すとき、漏斗のようなものを  
とり付けて、こうせき りよう ちようせい ほんき つ こん  
量を調整しながら搬器に積み込んで  
いました。



ちようせい たいへん  
この調整がとても大変だったそうですよ！



▲ とうなるちく えんけい 遠景 ① とうなるちようこ しょうわ ねん はらしげおし さつえい 昭和43年(1968)原茂夫氏撮影



ちようこ かがうん つか  
貯蔵庫は、花崗岩を使ってつくら  
れています。その重厚さから東平  
だいひょうてき さんぎよういさん とうなる  
の代表的な産業遺産の1つとして  
し ためもの かたち いしぐ  
知られており、建物の形や石組み  
でつくられている点が南米のペルー  
にあるマチュピチュに似ていること  
から、現在では『東洋のマチュピチュ』  
げんざい とうよう  
と呼ばれ多くの人たちから親  
よ おお ひと した  
まれています。

ちなみに、この花崗岩は1つ約  
300kg もあるそうです。

◀ に いはましがいち せとないかい えんぼう  
新居浜市街地・瀬戸内海を遠望

がくしゅう きろく  
学習の記録







とうなるせんこうじょうあと うえちょうこう こ まえ  
▲ 東平選鉱場跡(上貯鉱庫の前)

とうなるせんこうじょう うえちょうこう こ しちちょうこう こ あいだ せつち  
東平選鉱場は上貯鉱庫と下貯鉱庫の間に設置され、  
どうこうせき すいし どうこうせき いし わ やくわり にな  
銅鉱石と素石（銅鉱石でない石）を「分ける」役割を担っていました。

めいじ ねん せつち しょうわ ねん に いはま は で ば うつ  
明治38年(1905)に設置され、昭和5年(1930)新居浜の端出場に移るま  
で 26年間稼働しました。

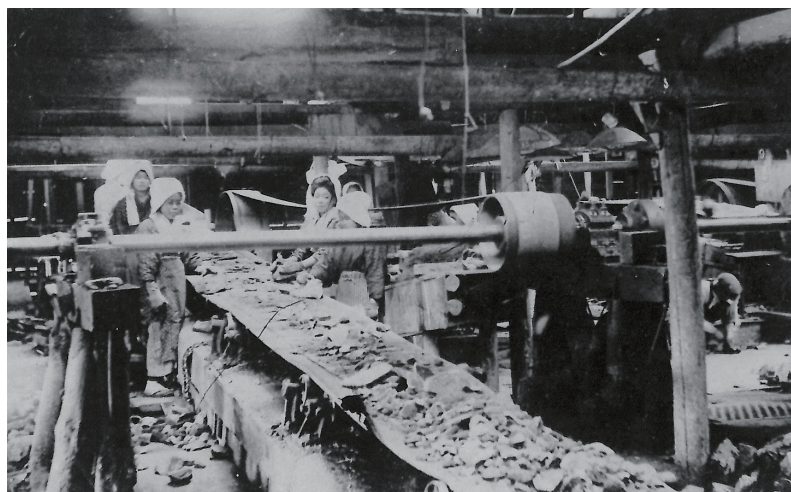
だいさんつうどう でんしゃ はこ こうせき いったん うえちょうこうこ ほかん  
第三通洞から電車にのせて運ばれてきた鉱石は一旦、上貯鉱庫に保管  
され、2つの取り出し口からベルトコンベアに乗せられます。ベルトの  
さゆう こうせき わ ひと さぎょう おこな  
左右には鉱石をより分ける人がいて、作業を行っていました。

どう がんゆうりつ ど あ いし いろ ちが いろ みきわ すべ  
銅の含有率の度合いによって石の色が違うことから、色を見極め、全  
て 手作業 で選別されていました。上貯鉱庫の始めのところにベテラン  
の ひと た お けいけん あさ ひと た  
の人たちが立っており、終わりのところに経験が浅い人たちが立って  
いました。

その一手で選り抜いた  
あかがねの煌き



ごぜんちゆう せんこうじょう いしがき たいよう ひかり あ つ かさ  
午前中、選鉱場の石垣に太陽の光が当たると、積み重ね  
られている石が1つ1つ浮き彫りになったように見えます。  
じゅうこうかん ま ほんざい あつどう  
重厚感が増した存在に圧倒されますよ。



せんこう ようす  
▲ 選鉱の様子

せんこうじょう せんべつさぎょう じょせい おこな じょせい こうない はたら  
選鉱場での選別作業は女性が行っていました。女性が坑内で働くこ  
とは危険だったことや夫が事故等で亡くなくても生活に困らないように  
しているとされていました。



ひだり ず せんこうじょう こうせき せんべつ  
左の図は、選鉱場で鉱石を選別  
している様子を再現した図です。白  
い石が鉱石でない石で、黒い石が鉱  
石です。このように、鉱石でない石  
だけをとり除いていき、鉱石だけを  
下の貯鉱庫へ貯めていきます。

せんこう さいげんず  
◀ 選鉱の再現図  
東平紹介ビデオより

がくしゅう きろく  
学習の記録





とうなるさくどうきちあと  
▲ 東平索道基地跡

せいかつ  
生活をつなぐ  
心と心を結ぶ  
索道

とうなるさくどうきち めいじ ねん かんせい はこ やくわり にな  
東平索道基地は、明治38年(1905)に完成し、「運ぶ」役割を担っていま  
した。

さくどう こうせき はんき よ せんよう い さんかん こう  
索道は、鉱石を搬器(バケツ)と呼ばれる専用のカゴに入れ山間の空  
ちゆう は めぐ つた うんばん  
中に張り巡らされたロープを伝って運搬するロープウェイのよう  
な施設です。搬器には約500kgもの鉱石を積むことができました。

さくどう つか せんべつ どうこうせき こうない しよう もくざい くりいし  
索道を使って選別された銅鉱石や坑内で使用される木材などを黒石へ  
おろし、食料や日用品などの生活物資が引き上げられていました。昭  
わ ねん は、で ぼ さくどう たんしゆく  
和10年(1935)には、端出場まで索道が短縮されました。

しやうわ ねん とうなる てったい あいだ とうなる ぶつしゆそう か  
昭和43年に東平から撤退するまでの間、東平における物資輸送に欠か  
せない施設でライフラインの役割を担っていました。



とうなるちゆうがっこう おんがく せんせい おと りゆう  
東平中学校の音楽の先生が「音がいいから」という理由でグラン  
ドピアノを注文しました。ピアノは、足ははずして索道で運ばれ  
たそうです。大きなピアノが空を飛んできたなんて、想像するとな  
んだか面白いですね！

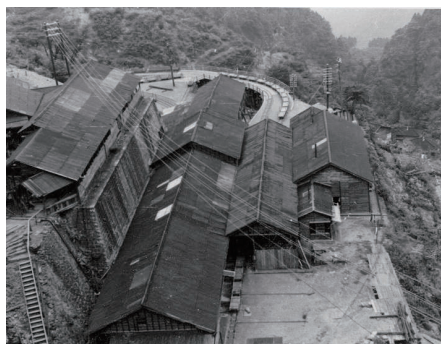




▲ **搬器送り出しの様子**  
しょうわ ねんだい べっしどうざん きねんかんしよぞう  
 昭和30年代 別子銅山記念館所蔵

この索道はモーターなどの動力を必要とせず、鉱石を下ろす重さだけで荷物を上げ下ろす、とても環境にやさしい設備でした。

東黒索道の長さは3,575m、搬器のスピードは時速約2.5km、1日の鉱石の搬出量は900tもありました。(東端索道の長さは2,717m)



▲ **東平索道基地全景** 昭和43年  
はらしげおし さつえい  
 原茂夫氏撮影

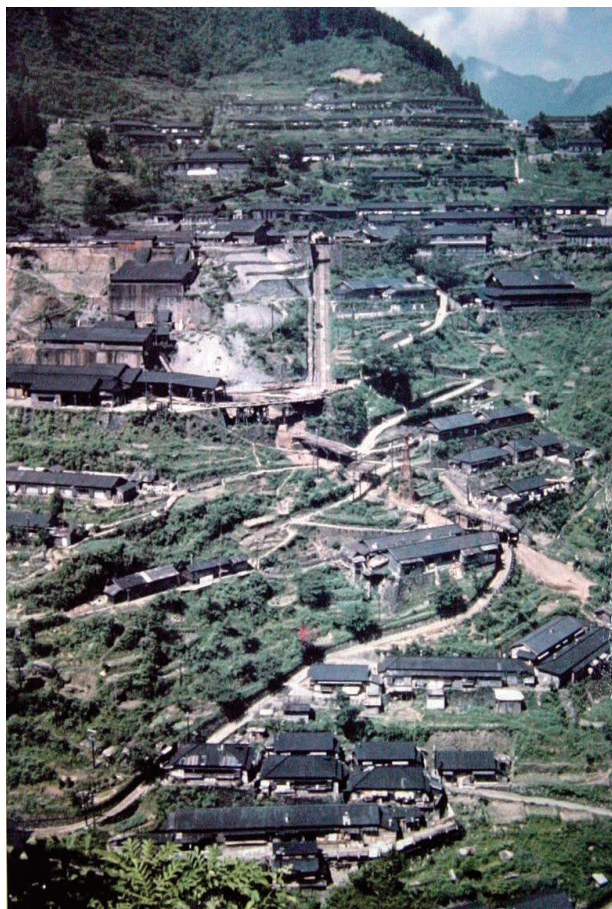


▲ **迫割に行く**  
しょうわ ねん ひ わ さはつたろう さつえい  
 昭和33年 日和佐初太郎撮影

上の写真は、落石除けの屋根がある山道を通っている場面です。屋根の上に索道があり、鉱石などが落ちてきても危なくないように屋根がつけられていました。

がくしゅう きろく  
**学習の記録**





わたし  
私たちのまち  
ふるさとにいはいはま  
郷土新居浜の原風景 東平  
げんふうけい どうなる

▲ 上東平・下東平と辻坂一帯の風景  
かみとうなる しもとうなる すべりざかいつたい ふうけい  
しょうわ ねん さつえい べっしどうざんきねんかんしょうぞう  
昭和34年(1959)撮影 別子銅山記念館所蔵

とうなるしゃたく めいじ ねん だいさんつうどう かいつう じょじょ けんせつさ  
東平社宅は、明治35年(1902)の第三通洞の開通により、徐々に建設  
れはじめ、明治38~39年にかけて完成したと言われています。



すべりざかしゃたくあと あと のこ やまびと せいかつ  
辻坂社宅跡にはかまど跡などが残り、銅山人の生活  
ぶんか いま かん  
文化を今も感じられます。

とうなるしゃたく かみとうなる しもとうなる たいしょう ねん がつ  
 東平社宅には上東平と下東平がありました。大正10年(1921)11月  
 このかじてん かみとうなる しもとうなる ごうけいこすう こ  
 9日時点では上東平と下東平の合計戸数は116戸でした。また、その  
 きょうかいせん がっこう はいきゆうしよ かみとうなる さくどうした らっかうけ  
 境界線は、学校から配給所までを上東平といい、索道下の落下受の  
 みちした ながや しもとうなる  
 道下の長屋までを下東平といました。

とうなるしゃたく じょう ま いえ けん ながや こうぞう  
 東平社宅は6畳1間の家が5軒つながった長屋のような構造でした。  
 そのほとんどが職員(大卒の住友社員)の社宅で係員以上の人が住ん  
 でいました。



すべりざかしゃたくあと あと  
 ▲ 辻坂社宅跡のかまど跡



すべりざか じぞう  
 ▲ 辻坂のお地蔵さん

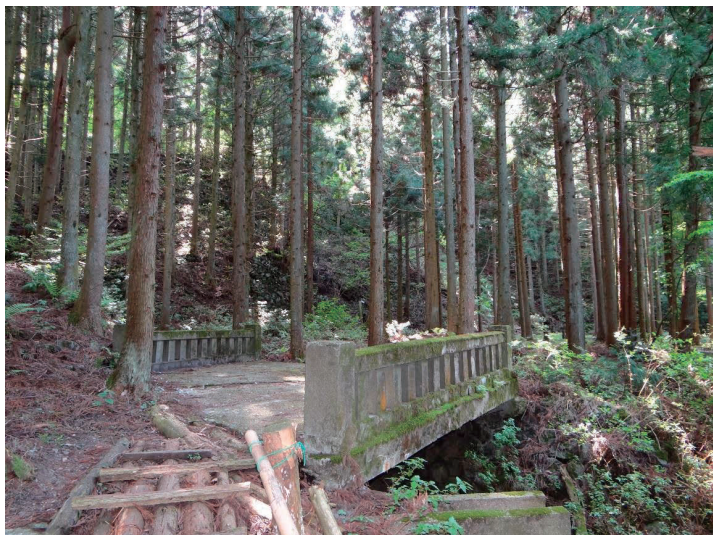
すべりざかしゃたく とうなるしゃたく かぶちくしゃたく すべりざか  
 辻坂社宅は、東平社宅からさらに下部地区の社宅です。辻坂という  
 なまえ ばしょ ちけいてき にっしょうじかん みじか とく とうき せきせつ ねゆき  
 名前は、この場所が地形的に日照時間が短く、特に冬季に積雪が根雪  
 のこ さかみち すべ ゆらい  
 となって残り、坂道でよく滑ったことが由来とされています。

すべりざか たいしょう ねん こ ろうどうしゃ しゃたく  
 辻坂には大正10年、51戸の労働者の社宅がありました。また、  
 ゆうびんきょく は ば とうなるかいどう とうなる あ さい はじ  
 郵便局もありました。端出場から東平街道を東平へ上がってくる際、初  
 めに到着する場所でもあったため、行商人がよく来ていました。

## がくしゅう きろく 学習の記録







とうなるごらくじょうあと  
▲ 東平娯楽場跡

流行りゆうこうに一番いちばん乗り  
笑顔えがおの殿堂てんどう

とうなるごらくじょう やま ひと たの やす ていきょう ば  
東平娯楽場は銅山の人たちに楽しみと安らぎを提供する場として、  
めいじ ねん けんせつ  
明治45年(1912)に建設されました。

けんせつとうじ かいだて たてもの たいへいようせんそうちゆう ちょうせんじんろうどうしゃ  
建設当時は2階建の建物でしたが、太平洋戦争中に朝鮮人労働者が  
ふ しょうよう かいだて かいちく  
増え、その収容のために3階建に改築されました。

まわ ぶたい せっち しゅうようになずう じん  
廻り舞台も設置され、収容人数は2,000人ほどだったそうです。

かい えんげき か ぶ き じょうえん かんきやくせき ぶたい はなみち  
1階では演劇や歌舞伎などが上演され、観客席や舞台、さらには花道  
までありました。2階には映画上映のためのシアタールームと観覧席が  
あり、3階にはビリヤード場までありました。天井にはシャンデリア  
が せいふうき せっち とうじ たいへんごうか  
や扇風機が設置されており、当時としては大変豪華なつくりとなってい  
ました。

ごらくじょう うんどうかい ひろく  
娯楽場では、運動会で披露するためにフォークダンスの  
こうしゅう おこな  
講習が行われていました。フォークダンスは、特に年配の  
ご婦人ごふじんに人気で、中なかには休憩きゅうけい無しで教おしえてほしい、ともら  
ず人ひともいたそうです。





▲ とうなるごらくじょう 東平娯楽場  
はらしげ おし さつえい 原茂夫氏撮影



▲ まわ ぶたいあと 廻り舞台跡



別子労組東平支部解散式 5.4.51.9

に いはまし ない はや ていきてき  
新居浜市内よりも早く定期的に  
えいが じょうえい げき じょうえん  
映画の上映や劇の上演がされま  
した。その際には、とうなる さい しょうへい しゃたく から  
した。その際には、東平の社宅が空  
っぽになるぐらいだったそうです。

えいが げき かんらんりょう むりょう  
映画や劇の観覧料は無料でした。  
また、じゅうみんみずか げきだん がくだん  
住民自らが劇団や楽団  
けっせい まつ さい ひろう あ  
を結成して、お祭りの際に披露し合  
っていました。

さらには、まいつき にち かいしゃの  
きゅうりょうび 給料日にあわせ、に いはまし ない  
新居浜市内から  
くつや とけいや おとず はんばい  
靴屋や時計屋などが訪れ販売し、  
りゅうこう しょうひん て い  
流行の商品も手に入れることが  
できました。

とうなる ひと いこ ば  
東平の人たちの憩いの場として  
した しまれて いた とうなるごらくじょう  
親しまれていた東平娯楽場です  
が、しょうわ ねん 58ねんかん れき  
昭和43年(1968)に58年間の歴  
し まく と げきじょう てつきよ  
史の幕を閉じました。劇場が撤去  
された跡には、あ と しょうりん  
植林されています  
が、たても の つう はし まわ ぶたい  
建物に通じていた橋や廻り舞台  
の跡が残されています。

べっしろうそとうなるし ぶ かいさんしき  
◀ 別子労組東平支部解散式  
ごらくじょうない はらしげ おし さつえい  
(娯楽場内にて) 原茂夫氏撮影  
しょうわ ねん  
昭和43年

がくしゅう きらく  
学習の記録





▲ とうなるほいくえんあと（手前が門柱、奥がプール）

とうなるほいくえん  
東平保育園は、当時の婦人会が中心となり、昭和25年（1950）に赤・白の2クラスで開園しました。それ以来、集落の人たちの手によって大切に運営され、東平撤退の昭和43年までの19年間、幼児教育の中心の場として利用されました。

3歳頃から小学校に入学するまでの子どもを預かっており、園児は、東平全域から通ってきていました。多いときで70人も園児がいたそうです。

保育園の先生は、園長を含め3人、給食の先生1人の計4人でした。

給食は、ご飯を持参し、園がおかずを出していたそうです。おやつの時間には粉ミルクを溶いたものやビスケットが出ていました。

写真のプールは、園児に危険がないように角が丸くつくられています。

銅山の中  
に響いて  
いた  
東平っ子  
たちの  
はしやく  
声

東平保育園は、昭和35年に創立10周年を祝って盛大な記念行事をしました。このとき、第1回の卒園生は東平中学校3年生になっていて、東平小・中学校の生徒の大半はこの保育園で幼児期を過ごしていたのです。







▲ 保育園 遠景 ① 保育園 ② 娯楽場 原茂夫氏撮影 昭和43年



▲ 東平保育園  
原茂夫氏撮影 昭和43年

遊具はインクラインのすぐ隣に位置していましたが、柵をしていたので危険はありませんでした。昭和35年の在園児は、55名でした。この時点での卒園者数は400人近くに上っていました。

園児たちの発表会は娯楽場も利用していました。また、運動会は一の森で行われ、水を浅くして、プールも使っていました。

保育園の建物から石垣を一段降りたところに広場があり、すべり台やジャングルジム、ブランコなどの遊具がありました。

## 学習の記録





とうなるせいきょうあと  
▲ 東平生協跡



とうなるせいきょう い ぐち しょうわ ねんきつえい まつうらいさお していきょう  
▲ 東平生協入り口 昭和37年撮影 松浦 勲氏提供

なんでも揃う  
とうなる  
東平の台所  
だいどころ

とうなるせいきょう めいじ ねん  
東平生協 は明治39年(1906)に  
はいきゆうしょ かいせつ しょうわ ねん  
配給所として開設され、昭和33年  
(1958)6月1日に、配給所から生協  
がつついたち はいきゆうしょ せいきょう  
として新しく生まれ変わりました。

ここには、いつも新鮮な魚や肉が  
なら せいかつ ひつよう しなもの  
並び、生活に必要な品物はほとんど  
そろっていました。

ところが、野菜の奪い合いをさけ  
ごぜんちゆう じゅんぼんふだ  
るため、午前中に順番札をまわし  
ていたとの逸話が残っています。



なん 何でも とうなるせいきょう とうなる しょうてん な ほん  
何でもそろう東平生協ですが、東平には書店が無く、本  
こうにゆう くらう  
の購入には苦勞したそうです。



▲ とうなるせいきょうないぶ ようす べっしどうざんきねんかんしよぞう  
**東平生協内部の様子 別子銅山記念館所蔵**

とうなるせいきょう しゅうねん たさい きねんぎょうじ おこな しゅうかん おおやす  
 東平生協3周年には、多彩な記念行事が行われました。1週間の大安  
 う ちゅうせんけん つ せいきょう はっこう きやくさま ひ  
 売りや、抽選券付きの生協ニュースの発行など、お客様への日ごろの  
 かんしゃ こ もよお じょしてんいん しゅふ  
 感謝を込めたイベントを催しました。また、女子店員チームと主婦チ  
 ムのソフトボールたい大会も行われ楽しい1日を過ごしたそうです。

せいきょうそうりつ しゅうねん そうりつきねんぎょうじ ようかかん せいだい かいさい  
 生協創立5周年には、創立記念行事が8日間にわたり盛大に開催され  
 ました。しょうひん おおうりだ げいじゆつさくひん てんじ えんげいたいかい おこな  
 われ、れんじつちようまんいん だいせいきょう  
 連日超満員の大盛況だったそうです。

しょうわ ねん とうなるてつたい へい き ねんかんおお ひとびと した  
 昭和43年の東平撤退にともない閉鎖となり、63年間多くの人々に親し  
 まれました。

がくしゅう きらく  
**学習の記録**







すみともべっしびょういんとうなるぶんいんあと  
▲ 住友別子病院東平分院跡

やまびと  
いのち  
けんこう  
まも  
つづ  
けた

すみともべっしびょういんとうなるしゅつちやうしよ めいじ わん  
住友別子病院東平出張所として明治38年(1905)

11月1日に開設し、昭和31年(1956)にすみともべっしびょういんとうなるぶんいん めいしやうへん  
住友別子病院東平分院と名称変更しました。

かいせつとうしよ ないか げか しんりやう おこな ふつう びやうしつ ほか  
開設当初は、内科と外科の診療が行われました。普通の病室の他  
かくりびやうとう ひびやうしや せつち ほうていでんせんびやう ひと しゆうやう  
に隔離病棟と避病舎も設置されており、法定伝染病の人たちの収容  
おこな  
も行われました。

しやうわ わん がつついたち い しふたり し か い しひとり やくざいしひとり かんごし  
昭和33年12月1日では、医師2人、歯科医師1人、薬剤師1人、看護師  
にん じよさんしひとり かんごじよしゅひとり し か ぎこうしひとり そうぜい にん  
5人、助産師1人、看護助手1人、歯科技工士1人など総勢18人でした。  
ゆうしゆう せんせい やと がいらいかんじや しやうわ わん しやうわ わん み  
優秀な先生を雇っており、外来患者は昭和29年から昭和37年までを見  
ねんかん にん すい い どうなるてたい ぜんねん  
ると、年間27,000~33,000人で推移していました。東平撤退の前年であ  
る昭和42年は、6,983人でした。

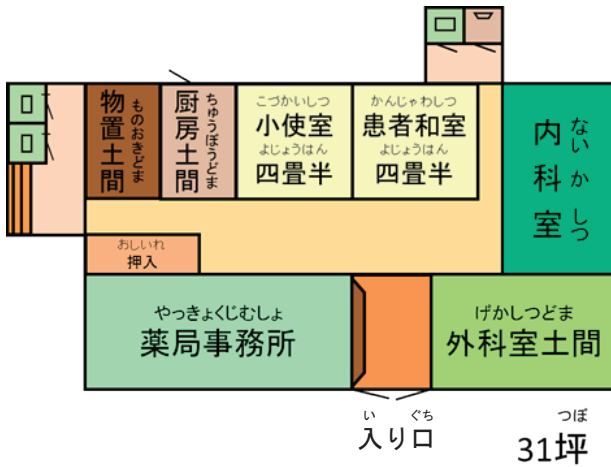
どうなるてたい しやうわ わん がつ にち びやういん はいし ねんかん  
東平撤退とともに昭和43年3月31日、病院は廃止されました。64年間、  
どうなる ひとびと いのち けんこう まも つづ  
東平の人々の命と健康を守り続けてきました。



たけん かんじや かよ めい い どうなる ひと ちりやう  
他県から患者が通うほどの名医で、東平の人の治療が  
おそ くじやう で  
遅くなると苦情が出ることもあったそうです。



すみともべっしびょういんとうなるぶんいん しょうわ ねんさつえい  
 ▲ 住友別子病院東平分院 昭和37年撮影  
 まつうらいきお していきょう  
 松浦 勲氏提供



めいじ ねん がつついたち かいせつとうじ とうなるしゅつちやうしよへいめんず  
 ▲ 明治38年11月1日 開設当時の東平出張所平面図

がくしゅう きらく  
 学習の記録





とうなるせったいかんあと  
▲ 東平接待館跡

とうなる  
東平の  
山ふと  
花な  
がめ  
つつ  
鶯を  
きく  
土井  
晩翠

とうなるせったいかん たいせつ きやくさま かいしょく しゆくはく  
東平接待館は大切なお客様のお会食、宿泊などのおもてなしをしてい  
たところです。とうなるそう とも呼ばれます。めいじ ねん かんせい しょうわ  
43年(1968)のとうなるせったいかん ねんかんりよう  
43年(1968)の東平撤退まで60年間利用されました。

とうなるせったいかん りっぱ もんがま しせつ けんちくざい ひのき さくら つが けやき  
東平接待館は立派な門構えの施設で、建築材には檜、桜、梅、樺な  
どが使われていました。また、屋根は冬に雪がすべり落ちやすくなるた  
め、トタン葺きになっていました。

けんせつとうじ じょう ひろ へや しつ じょう にほんま しつ かいしょく  
建設当時は10畳ほどの広い部屋が4室、6畳の日本間が6室、会食  
するための20畳の大広間が1室あり、さらに昭和15年ごろには暖房設  
備が完備された20畳の洋間が増築されました。



せったいかん まわ  
接待館の周りには、スモモがたくさんなっていました。  
子どもたちがそれを採りに行くと、とても怖いおじさんが  
いて、見つかるといつまでも追いかけられたそうです。





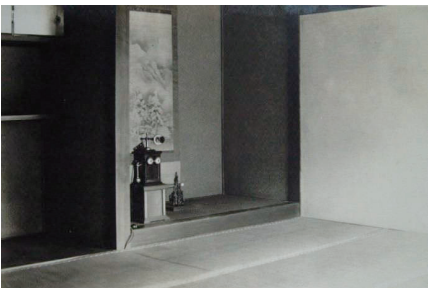
▲ 建設当時の接待館 全景  
明治40年代撮影  
別子銅山記念館所蔵

らいきやくよう めいじじだい  
 来客用として明治時代には  
 めずら  
 珍しかったビスケットやコーヒ  
 ーなどが用意されました。さら  
 に、そのコーヒは新鮮でなければ  
 ふみよ  
 風味が良くないということで、  
 わざわざ新居浜の接待館に生豆  
 じゅんぴ ひつよう  
 を準備して、必要なときに豆を運  
 んでいたということです。



▲ 接待館の正面玄関 昭和10年撮影  
別子銅山記念館所蔵

とうなるせつたいかん かわたじゅん やまぐち  
 東平接待館には川田順 や山口  
 せいし すみともしやいん かじん はいじん  
 誓子(住友社員の歌人と俳人)、  
 こうじょう つき さくし し  
 「荒城の月」の作詞で知られて  
 いる土井晩翠も訪れています。  
 どいばんすい おとず  
 土井晩翠は訪れた際に東平の土  
 ち かんめい う とうなる やま  
 地に感銘を受け「東平の山ふとこ  
 るに石楠の花ながめつつ 鶯を  
 しく」と詠みました。



▲ 接待館の客間 昭和10年撮影  
別子銅山記念館所蔵



▲ 石楠の花

がくしゅう きらく  
**学習の記録**





▲ とうなるしょうがっこう跡 平成14年(2002)撮影

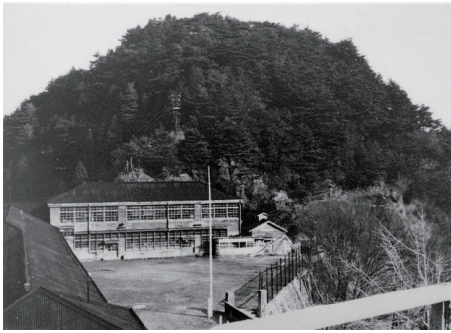
そだ  
育つよ育つ東平の  
まな  
学びの校庭にみな強く

とうなるしょうがっこう 東平小学校は、めいじ ねん がつ にち しりつすみともとうなる  
じんじょうこうとうしょうがっこう 尋常高等小学校としてつくられました。めいじ ねん しりつとうなるじんじょうしょう  
がっこう かいしょう 学校と改称され、じどうすう かいこうとうじ やくばい にん ぶん  
児童数も開校当時の約7倍にあたる142人に増えまし  
た。

しょうわ ねん こうりつ いかん に いはましりつとうなるしょうがっこう  
昭和36年(1961)に公立に移管し、新居浜市立東平小学校となりました  
た。この東平小学校はしょうわ ねん へいこう いた ねんかん  
昭和43年の閉校に至るまでの63年間、2,574人  
の子どもたちのせいちょう 成長を見守ってきました。ほんらい そつぎょうしき がつ  
本来、卒業式は3月に行わ  
れますが、とうなるてたい ため かげつく あ そつぎょうしき へいこうしき  
東平撤退のため1ヶ月繰り上げての卒業式(閉校式)となりま  
した。ざいこうせい は だ ば しかもりぶんこう すみの しょうがっこう てんにゆう  
在校生は、端出場にある鹿森分校や角野小学校に転入してい  
きました。この時のじどうすう 児童数は86人、がっきゅうすう 学級数は6学級、がっきゅう 教職員数は10人  
でした。



とうなるしょう ちゅうがっこう しょうがくりょうこう しょうがっこう  
東平小・中学校にも修学旅行がありました。小学校  
たかまつ こうち ちゅうしん ちゅうがっこう に いはま おおさか  
は高松・高知が中心でした。中学校は、新居浜が大阪の  
すみともほんしゅ かんけい しょうがくりょうこうさき おおさかほうめん  
住友本社と関係があったので、修学旅行先は大阪方面だ  
ったそうです。



▲ とうなるしょうがっこう おく いち もり  
**東平小学校(奥に一の森)**  
 しょうわ ねん はらしげおしきつせい  
**昭和43年 原茂夫氏撮影**



▲ しょうがっこう グラウンドから見た み ちゅうがっこう  
**小学校グラウンドから見た中学校**  
 しょうわ ねん はらしげおしきつせい  
**昭和43年 原茂夫氏撮影**

とうなるちゅうがっこう しょうわ ねん せん  
**東平中学校**は昭和21年、戦  
 ご がくせいいかいかくにより しんせいちゅうがく  
**後の学制改革により新制中学**  
 さんねん ぎ む せいじつし  
**三年義務制実施にともない、つ**  
**くられました。**

とうじ せいとすう やく  
 つくられた当時の生徒数は約  
 25人でした。昭和36年には ころりつ  
**公立**  
 いかん には ましりつとうなる  
**へ移管され、新居浜市立東平**  
 ちゅうがっこう  
**中学校となりました。そして、**  
 しょうわ ねん とうなるてつたい  
**昭和43年の東平撤退にともな**  
**い、閉校し、23年の歴史に終 止**  
 ふ  
**符をうちました。創設から閉校**  
**までに600人の卒業生を送り出**  
**しました。**

とうじ せいと がくぎょうせいせき  
 当時の生徒たちの学業成績  
 ゆうしゅう ふかつどう ひろい とち  
**は優秀で、部活動では広い土地**  
 すく しつないきょうぎ  
**が少なかったために、室内 競 技**  
 たいへんさか けんどう たつきゅう  
**が大変盛んで、剣道や卓球は**  
 しなひ ゆうしょう  
**市内でもよく優勝していたそ**  
**うです。**

しょう ちゅうがっこうあと けんしゅうとう しゆくはくとう そな どうざん さと せいぜん  
 小・中学校跡には研修棟や宿泊棟などを備えた「銅山の里・自然  
 いえ せいび す くうき しぜん たいせつ たの まな  
**の家」が整備されており、澄んだ空気のなかで自然の大切さを楽しく学**  
 きょういく ば おお ひとびと した  
**ぶことができる教育の場として多くの人々に親しまれていましたが、建**  
 もの ろうきゅうか ふ きん じすべ たてもの てつきよ  
**物の老朽化や付近での地滑りなどのため、建物は撤去されています。**

がくしゅう きろく  
**学習の記録**







いち もり い ぐち かいだん  
▲ 一の森(入り口の階段)

集いの場から生まれた  
一つの心

いち もり ひょうこう こだか やま どうなる しょうちょう ぼしよ  
一の森は、標高832mの小高い山で、東平を象徴する場所の1つです。

やま 山であったところを さむ ぜんしゅう おし 作務(禅宗の教えで、ふ へい ふ まん よろこ 喜んで会社  
ひと ぼうし ぜんこう すす 善行をなす勧め)によって たい とち 平らな土地をつくりま  
した。たいしょう ねん きゅうべっし おおやまづみじんじや うつ  
大正4年(1915)に旧別子から大山積神社が移されました。

どうなる うんどうかい いちばんおお ぎょうじ うんどうかい おこな  
東平では運動会が一番大きな行事でした。その運動会が行われたの  
が、この一の森です。いち もり しゅうやく えんけい  
かんきやく すわ おうえん うんどうかい ほか  
観客が座って応援していました。運動会の他には、ソフトボールやマ  
らソン大会が行われていました。ソフトボールでは、ホームランが出  
たらボールが無くなっていたそうです。



なつ 夏になると、いち もり 一の森のグラウンドで ほんおど おこな 盆踊りが行われて  
いました。はなび あ たちく と い おど  
花火が上がったり、他地区からの飛び入りの踊  
り手がいったりと、とてもにぎやかだったそうです。



いち もり ぜんけい しょうわ ねん はらしげお しきつえい  
**▲ 一の森 全景 昭和40年 原茂夫氏撮影**



© HATSUTARO HIWASA 2021

いち もり うんどうかい ようす  
**▲ 一の森での運動会の様子 昭和32年 日和佐初太郎撮影**



がんとん とうなる ひと  
 元旦には、東平のほとんどの人が  
 ゆき やまみち のぼ はつもうで おとず  
 が雪の山道を登り、初詣に訪れ、  
 おお ひと  
 多くの人たちでにぎわっていました。  
 また、どひょう すもう さか  
 土俵もあり、相撲が盛ん  
 おこな  
 に行われていました。

とうなる ひと おおやまづみじんじゃ  
 東平の人たちは大山積神社のこ  
 とを、「お山の神様」という意味で  
 やま かみさま い み  
 親しみを込めて「山神さん」と呼  
 びました。おおやまづみじんじゃ とうなる  
 大山積神社は東平  
 てつたい しょうわ ねん  
 撤退の昭和43年(1968)までの54  
 ねんかん とうなる ひとひと こころ  
 年間、東平の人々の心のよりどころ  
 となっていました。

おおやまづみじんじゃ たいしょう ねんきつえい  
**◀ 大山積神社 大正10年撮影**  
 べっしどうざんきねんかんしよぞう  
 別子銅山記念館所蔵

がくしゅう きらく  
**学習の記録**





▲ 呉木社宅 昭和36年(1961)撮影 別子銅山記念館所蔵

東平人の温かさがこのまちに残る  
たくさんの思い出とともに

呉木社宅は、東平にあった社宅のひとつです。  
明治時代後期に建設されました。

呉木社宅の「呉木」という名前は、ここが皮のついた「樽木」と呼ばれる材木を切り出す場所だったことが由来です。呉木社宅は上・中・下の3つに分けられます。大正10年(1921)11月には200戸近くの家があり、東平で大変にぎわっている社宅でした。

また、呉木地区と東平地区は172mのマンプと呼ばれるトンネルでつながっていました。

マンプという呼称は、坑道を間符と呼んだことから由来しています。閉山後は危険防止のために東平側、呉木側の入り口は閉じられ、現在ではその位置はわかりません。



東平歴史資料館に呉木社宅の模型が展示されています。  
物干し竿など細かいところまでよく再現されていますよ。





くれ きしゃたくあと  
◀ 呉木社宅跡

また、社宅の屋根はトタン葺きで、段々畑のように長屋が並んでいま  
した。夜、呉木社宅を展望すると、まるで高層マンションが建っている  
かのように見えたそうです。現在、社宅跡には石段と共同浴場の跡が  
残され、当時の様子を伝えています。



© HATSUTARO HIWASA 2021

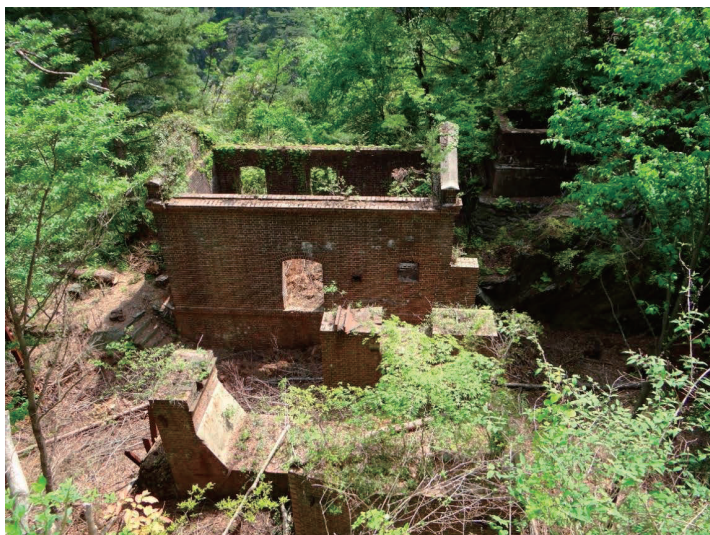
社宅での暮らしは、人間関係がとても  
温かく、家の鍵をかける習慣もなく、  
近所は家族のように助け合っていました。

各社宅には「倶楽部」が設置され、囲碁  
や将棋をしたり、図書館として本を貸し出  
したりして、老若男女問わず交流できま  
した。厳しい銅山の環境の中でしたが、  
銅山がひとつの家族のようでした。

◀ マンプの前の子どもたち  
昭和33年 日和佐初太郎撮影

がくしゅう きろく  
学習の記録





▲ とうたんさくどうちゆうけいしよあと  
東端索道中継所跡

ちよつけいにじゆうに  
直径二十二ミリの

ライフライン

とうたんさくどうちゆうけいしよ とうなる は で ぼ さくどう ちゆうけいしよ  
東端索道中継所は、東平～端出場 (2,717m)の索道の中継所です。そ  
れぞれの場所の頭文字から東端と名づけられました。

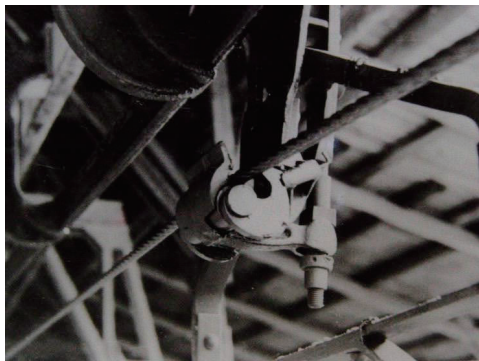
ちゆうけいしよ りょうちてん いっちよくせん むす なな  
この中継所は、両地点が一直線で結ばれず斜めになっていたことか  
ら、索道のロープのほうこう へんこう せっち  
方向を変更するために設置されました。

めいじ ねん がつ けんせつとうしよ とうなる くらいし つな とうこくさくどう  
明治38年(1905)7月の建設当初、東平～黒石を繋ぐ東黒索道(3,575m)  
でした。しょうわ ねん さいこうほんぶ は で ぼ うつ しょうわ ねん とうなる 端  
昭和5年(1930)に採鉱本部分が端出場に移り、昭和10年に東平～端  
出場に変更されました。また、索道で使用されたロープの直径は22mm  
でした。

ほんき こうせき い うつわ さ ぶぶん ほんき おも  
搬器(鉱石を入れる器)は、ぶら下がるクリップの部分が搬器の重さ  
によってロープをか こてい ほうこうてんかん さい はず  
噛んで固定され、方向転換の際はロープから外れるし  
くみになっていました。



とうたんさくどう き いちばんたか  
東端索道のポストは26基ありました。一番高いポストは  
やく 約27.5m、ひく 低いところは2～3mでした。



▲ <sup>はんき</sup>搬器の<sup>ぶぶん</sup>クリップ部分  
べっしどうざんきねんかんしよぞう  
別子銅山記念館所蔵

◀ <sup>はんき</sup>搬器に乗って<sup>てんけんさぎよう</sup>点検作業を行う<sup>おこな</sup>注油工  
<sup>しよわねん</sup>昭和7年 <sup>はらしげおしていきよう</sup>原茂夫氏提供



▲ <sup>とうたんさくどうばきん</sup>東端索道場付近の様子  
<sup>しよわねん</sup>昭和43年 <sup>はらしげおしきつえい</sup>原茂夫氏撮影

<sup>さくどう</sup>索道の<sup>てんけんさぎよう</sup>点検作業は<sup>ちゆうゆこう</sup>注油工  
と呼ばれる<sup>さぎよういん</sup>作業員が、<sup>はんき</sup>搬器か  
ら<sup>さくどうようてつとう</sup>ポスト(索道用鉄塔)へ<sup>の</sup>乗  
り<sup>うつ</sup>移り、<sup>かつしゃ</sup>ポストの<sup>ちゆうゆ</sup>滑車の注油  
や、<sup>てんけん</sup>ロープの点検を<sup>てんけん</sup>していま  
した。ただし、<sup>いっぽん</sup>一般の<sup>ひと</sup>人は  
<sup>あんぜん</sup>安全のため<sup>はんき</sup>搬器には<sup>の</sup>乗れま  
せんでした。

がくしゆ きらく  
学習の記録



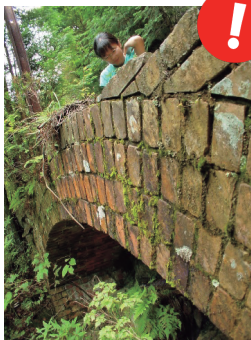




こうすいろかいしょ  
▲ 坑水路会所

こうすいろかいしょ 坑水路会所は、坑内排水の流れる方向を変更する際に使われる設備です。会所水留池とも呼ばれ、上流から流れ込んできた坑内排水を会所で溜めることによって流れを止め、無理なく方向を変えるしくみになっています。

にじゆっせい  
二十世紀初頭に輝く  
かがや  
かんきょうもんだい  
環境問題克服の巨大システム



こうすいろかいしょ 坑内排水とは、地表から浸透した水が鉱石と接触することで鉱石内の銅や鉄などが水に溶け出し、強い酸性の水に変化したものです。この水を川に流すと稲を枯らすなどの環境汚染を引き起こす原因になります。



どうなるかいどう 東平街道には、レンガ造りのアーチ橋があります。足元に注意しながら、探してみてください。



▲ 山中に残る坑水路と会所



▲ マイントピア別子端出場ゾーンに残るレンガの坑水路

いばていごう こうないはいすい  
 伊庭貞剛 は、坑内排水が  
 こくりょうがわすいけい なが こ  
 国領川水系に流れ込むのを  
 ぼうし めいじ ねん  
 防止するため、明治38年  
 (1905)11月に第三通洞(標高  
 がつ だいさんつうどう ひょうこう  
 747m)の出口から、新居浜の  
 でぐち にいはま  
 海岸まで坑水路をつくりました。

こうすいろ なが あま  
 その坑水路の長さは、16km余  
 およ だいさんつうどうこう  
 りに及ぶものです。第三通洞坑  
 ぐち こうないはいすい だいさんしゅうどうしよ  
 口から坑内排水を第三収銅所  
 しょうり のち もくせい すいろ つら  
 で処理した後、木製の水路を連  
 とちゅう すいりゅうへんこうかしよ  
 ね、途中、水流変更箇所には  
 かいしよ せつち きゅうりゅうぶぶん  
 会所を設置し、急流部分はレ  
 すいろ  
 ンガ水路としました。

とうなる はでば さんちゅう  
 東平から端出場までの山中  
 やまみちぞ はでば  
 は山道沿いに、また端出場から  
 かぶつどうぞ そうびらき  
 は下部鉄道沿いに惣開まで  
 えんえん の  
 延々と伸びていました。

とちゅう やまね こうないはいすい しょうり  
 途中、山根に坑内排水を処理  
 しゅうどうしよ もう どうせいぶん  
 する収銅所を設けて、銅成分  
 とのぞ あんぜん みず  
 などを取り除いて安全な水に  
 うみ なが  
 してから海に流しました。

がくしゅう きらく  
 学習の記録





▲ おとしはし  
遠登志橋

おとしはし  
遠登志橋は、にい 居 浜 と なる  
東平、さらには どうざん 越 え を 経 て  
べっしやま へ 行く 生活道としてつくられました。

めいじ ねん (1905) ドイツから ゆにゆう 輸入されたブルバツハ製の せい こう  
鋼アーチ 橋 だ  
す。べっしこうぎょうしよど ぼくか と う じ  
別子鉱業所土木課が当時4,198円20銭で建設しました。ながさ 48.25m、  
はば 2.4m、たか さ 23.2m です。橋には、坑内排水が川に混入するのを防ぐた  
め、坑水路もつくられました。

おとしはし ろうきゆうか  
遠登志橋の老朽化にともない、へいせい ねん (1993) 3月に改修されました。  
その際、か ぶ 下にアーチ型の鉄橋を残し、その上30cmに吊り橋(長さ53.0m  
はば 2.0m 主塔高7.0m)をつくり二重構造にしました。

にほんさいこきぎょう てつきょう へいせい ねん (1993) 12月に国の登録有形文化財に登録され  
ました。

日本最古の鉄橋  
深緑の中に映える深紅のアーチ



「おとし」の表記はひらがなの元の漢字です。  
「遠→を、登→と、志→し」です。ワ行の「を」はア行の「お」に移行  
して「おとし」になりますが、最初は「落シ」でした。





きゆうおとしはし  
◀ 旧遠登志橋



おと すいりよくはつでんしよあと あずまや  
◀ 落シ水力発電所跡の東屋

おと すいりよくはつでんしよ めいじ ねん さいこう せんこう うんぱん もち でんきじぎょう  
 落シ水力発電所は、明治36年、採鉱・選鉱・運搬に用いる電気事業  
 ほうしんしよ もと キロワット おとしはしたづめ さんちゆう あずまや  
 方針書に基づき、90 kW で遠登志橋北詰の山中の東屋のところに、  
 よくとし がつ けんせつ はつでんよう みず すいしやあと きょう  
 翌年8月に建設されました。発電用の水はペルトン水車跡のトラス橋と  
 とうたんさくどうちゆうけいしよ あいだ まるおくだ かも ふち しずすい  
 東端索道中継所の間の丸尾を下った鴨の淵で取水していました。

がくしゅう きらく  
学習の記録





▲ 端出場記念館

湯煙は  
三百年の夢の跡

ゆけむり  
さんびやくねん  
ゆめ  
あと

マイントピア別子は、平成3年(1991)に端出場地区に別子銅山のテーマパークとしてオープンした、新居浜市最大の観光施設です。端出場地区は、昭和5年(1930)別子銅山最後の採鉱本部が設置された場所です。明治26年(1893)に下部鉄道の終着駅が完成したころから、昭和48年の閉山までの80年以上にわたり、別子銅山における重要な役割を担っていました。そのため、端出場地区には数多くの近代化産業遺産があります。

また、毎年開催されるシャクヤクなどの花祭りや砂金採り体験も楽しむことができ、幅広い世代の人たちでにぎわっています。



◀ 冬桜(左)とシャクヤク(右)



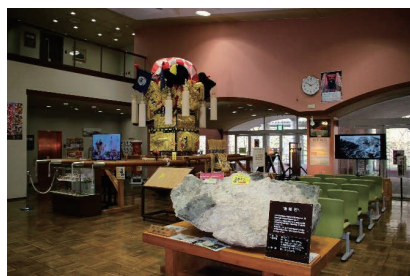
マイントピア別子といえば名物いよかんソフト!  
ぜひ一度おためしください!



◀ かんこうれっしゃ  
観光列車

こうざんてつどうあと には まきかいさんぎょうきょうどうくみあい きぎょう しゃ には ま  
 鉱山鉄道跡には、新居浜機械産業協同組合の企業41社により新居浜  
 ものづくり産業の技術を集結して、当時鉱山鉄道を走っていた「別子  
 1号機関車」が平成31年3月に観光列車として再現されました。

メインの建物となる端出場記念館は、レンガのモダンな造りとなっ  
 ています。館内には、売店やレストランなどの施設があります。また、炭酸  
 せん さんそせん ろてんぶろ がんぼんよく たの おんせんしせつ べっしおんせん てんくう ゆ  
 泉・酸素泉の露天風呂や岩盤浴が楽しめる温泉施設「別子温泉・天空の湯」  
 や、屋内型子ども用遊戯施設「あかがねキッズパーク」などもあります。



▲ はでばきねんかんない ようす  
端出場記念館内の様子

がくしゅう きらく  
学習の記録



マイントピア別子 ホームページ





かんこうこうどうない ようす  
▲ 観光坑道内の様子

あそ  
遊んで学ぶ  
まな  
タイムトンネル  
時空間符

かんこうこうどう  
観光坑道は、マイントピア別子にある 旧 火薬庫を利用した長さ 333m のトンネルです。

にんぎょう もけい えいぞう べっしどうざん れきし がくしゅう ちてい  
人形や模型、映像などで、別子銅山の歴史を学習しながら、地底の  
しんぴ あじ かんこうこうどうない なつ すず ふゆ あたた  
神秘を味わうことができます。観光坑道内は、夏は涼しく、冬は暖か  
かん え ど きんだい たいけん とお べっしどうざん たの  
く感じられ、江戸・近代・体験の3ゾーンを通して、別子銅山を楽しく  
まな  
学ぶことができます。

え ど え ど じ だ い べっしどうざん ようす まな  
江戸ゾーンでは、江戸時代の別子銅山の様子を学ぶことができます。  
さいくつ おこな こうどうない て あ かいがら  
採掘は、のみとつちで行われ、坑道内を照らす明かりは、サザエの貝殻  
げいゆ い もち さいくつ うえ  
に鯨油を入れたものが用いられていました。また、採掘をしていく上で  
いちばん もんだい わ きみず わ きみず ひ あ じかんたいせい おこな  
一番の問題が「湧き水」です。湧き水の引き上げは、24時間体制で行わ  
れ、大勢の人たちが手動ポンプの箱樋を使って、坑外へと水を汲み出  
しておせい ひと しゅどう はこ ひ つか こうがい みず く だ  
していました。



いっ ぽ あし ふ い べっしどうざん せかい  
一歩足を踏み入ると、そこはなんと別子銅山の世界！  
まるでタイムスリップしたような感覚になります。子ども  
かんかく かんかく こ  
から大人まで楽しみながら学べる体験型遊学パークです。  
おとな たの まな たいけんがたゆうがく



かなめごや  
▲ 砕女小屋のジオラマ



ばくふう に たてあな  
▲ 爆風を逃がす堅穴



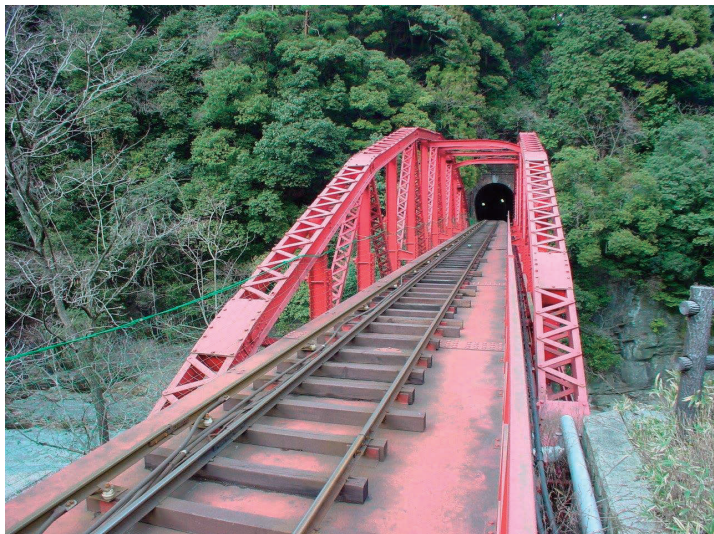
たいけん ようす  
◀ 体験ゾーンの様子

近代ゾーンでは、巨大なジオラマと映像で別子銅山の近代化の歴史を  
見ることができます。また、巨大なジオラマの場所は、元々ダイナマイ  
トが保管されていた場所でもあり、近くには、火薬が爆発した時のため  
に、爆風を逃がすための堅穴があります。

体験ゾーンでは、鉱石や荷物を運んでいた仲持ちの体験や湧き水の引  
き上げの体験など、別子銅山での作業内容を、遊びの中から五感を通じ  
て学習できる場所となっています。

がくしゅう きろく  
学習の記録





あか  
かがや  
めい  
ご  
ここに在り

▲ 端 出 場 鉄 橋

は で ば て っ き よ う      かんこうてつどう      うちよけえきちか      なが      あしたにがわ      か      かぶ  
端 出 場 鉄 橋 は、観 光 鉄 道 の 打 除 駅 近 く を 流 れ る 足 谷 川 に 架 か る 下 部  
てつどうよう      はし      めいじ      ねん      か      ぶてつどうかいつう      あ  
鉄 道 用 の 橋 で す 。 明 治 26 年 (1893) に 下 部 鉄 道 開 通 に 合 わ せ て 、 つ く ら  
れ ま し た 。 こ の 橋 は 、 小 川 東 吾 に よ り 、 鉾 山 専 用 鉄 橋 と し て 設 計 さ れ 、  
はし      おがわとうご      こうざんせんようてつきょう      せつけい  
ドイ ツ の デー ス ブ ル ク に あ る ハー コー ト 社 か ら 輸 入 し 、 鋼 造 ポー ス ト リ  
ン グ ・ ワー レ ン ト ラ ス      こうぞう      はし      こうざい      れんけつてん  
構 造 の 橋 と し て つ く ら れ ま し た 。 鋼 材 の 連 結 点 が  
てつ      まるぼう      もち      く      た      こうぞう      さんかくけい      きほん  
ピ ン (鉄 の 丸 棒) を 用 い て 組 み 立 て ら れ ト ラ ス 構 造 (三 角 形 を 基 本 と し て  
く      こうぞうけいしき      ひじょう      めずら      がくじゅつてき      たいへんきちよう      きょう      よ  
組 ん だ 構 造 形 式) に な っ て い る こ と か ら 、 ピ ン ト ラ ス 橋 と も 呼 ば れ ま  
す 。

げんざい      しゅるい      はし      こくない      は      で      ば      て      っ      き      よ      う      あしおどうざん      ふるかわはし      ふく  
現 在 、 こ の 種 類 の 橋 は 国 内 で 端 出 場 鉄 橋 や 足 尾 銅 山 の 古 河 橋 を 含 む 6  
つ し か 現 存 が 確 認 さ れ て い ま せ ン 。 さ ら に 、 岸 に 対 し て 60 度 に か か っ て  
げんぞん      かくにん      かし      たい      ど  
い る こ と か ら 、 非 常 に 珍 し く 学 術 的 に も 大 変 貴 重 で す 。



しき      おりおり      いろど      かん      かく  
四 季 折 々 の 彩 り を 感 じ ら れ る 隠 れ た ス ポ ッ ト で す 。  
おとず      ぜ び 訪 れ て み て く だ さ い 。





は で ば ずい どう な が た か  
**端出場隧道**は長さ 93m、高さ  
 3.6m、幅3.66mあり、端出場鉄  
 きょう か ぶ てつどうかい つう  
 橋とともに下部鉄道開通に  
 あ めいじ ねん  
 合わせて明治26年につくられ  
 ました。アーチ 頂部には、花崗  
 がん ちやうぶ かこう  
 岩でつくられた閻魔石がはめ  
 こまれています。

は で ば ずい どう  
 ◀ **端出場隧道**

あか  
 赤レンガをつないだアーチのトンネルをつくるには高度な技術が必  
 こうど ぎじゆつ ひつ  
 要なことから、先人たちの技術の高さと職人の意気込みの強さを感じ  
 よう せんじん ぎじゆつ たか しょく にん い き こ つよ かん  
 ることができます。閻魔石は地獄の閻魔大王の冠の形から連想され  
 えんまいし じごく えんまいおう かんむり かたち れんそう  
 た名称です。また、端出場隧道の閻魔石の上にはレンガの角を出した  
 めいしやう は で ば ずい どう えんまいし うえ かど だ  
 「もみじのモールディング（建物の家具につけられる帯状の装飾のこ  
 たてもの かぐ おびじやう そうしよく  
 とをいう。）」が施されています。トンネル内のレンガの積み方は長手積  
 ほどこ ない ながてづ  
 み（表面に長手面だけが現れるように積むこと）で、化粧張りと思わ  
 ひやうめん ながてめん あらわ つ けしやう ば おも  
 れます。

は で ば てつきやう は で ば ずい どう へいせい ねん がつ くに とうろくゆうけい  
 また、端出場鉄橋と端出場隧道は平成21年(2009)8月に国の登録有形  
 ぶんかざい とうろく  
 文化財に登録されました。

げんざい は で ば てつきやう は で ば ずい どう かんこうれっしや とお  
 現在、端出場鉄橋と端出場隧道には、観光列車が通り、マイントピア  
 べっし は で ば めいぶつ  
 別子端出場ゾーンの名物のひとつとなっています。



1 えんまいし  
**閻魔石**

2 もみじのモールディング ▶

がくしゆう きろく  
**学習の記録**





▲ だいよんつうどう  
第四通洞

かいさく  
開削スピード日本新  
りゅうしんざん  
別子銅山の  
だいどうみやく  
大動脈

だいよんつうどう こうないうんぱん だいどうみやく べっしどうざん おお こうけん  
第四通洞は、坑内運搬の大動脈として、別子銅山に大きく貢献しました。

さいくつば やま じょうぶ かぶ いこう とうなる だいさんつうどう  
採掘場が山の上部から下部へ移行するのにもない、東平の第三通洞  
につづく主要な通洞として明治43年(1910)2月に開削を始めました。設計し  
たのは、とうきょうていこくだいがく さいこう やきんぎじゆつしゃ おおしまみち たろう  
東京帝国大学の採鉱・冶金技術者である大島道太郎です。

たいしやう ねん がつ だいさんつうどう つな ふか おおたてこう  
大正4年(1915)9月に、第三通洞と繋がる深さ582mの大立坑までの  
4,596mがかんせい  
完成しました。そして、  
たいしやう ねん うんよう されまして だい  
大正8年より運用されました。第  
よんつうどう こうぐち かいばつ  
四通洞の坑口は海拔156mにあり、  
つうじょうだんめん たか はば  
通常断面は、高さ2.71m、幅3.7m  
です。



だいよんつうどう にゆうこうふうけい  
第四通洞への入坑風景 ▶

しょうわ ねんさつえい べっしどうざんきねんかんしやうざう  
昭和33年撮影 別子銅山記念館所蔵



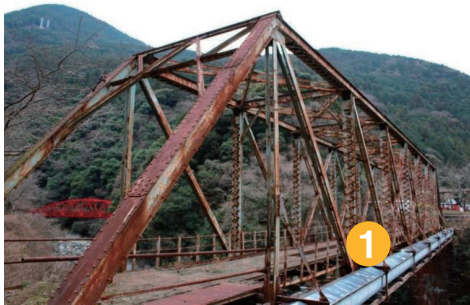
つうどうぐち だいよんつうどう たんせい もじ すみともけ だい  
通洞口の「第四通洞」の端正な文字は、住友家15代  
かちやう ともいと  
家長である友純によるものです。



▲ 第四通洞周辺 昭和45年撮影  
別子銅山記念館所蔵

最初は、13年の工期を予定していましたが、1組20人の坑夫が1日4交替で作業をするなどの工夫で大幅に効率が上がり、わずか5年8ヶ月で完成しました。工期を第三通洞(8年7ヶ月)と比較すると、距離が2.4倍になったにもかかわらず、3分の2で完成させました。これは、当時日本新記録でした。

その後、別子山筏津地区の下部に向けて、昭和10年(1935)から、別子鉱床と平行する鉱床の調査と運搬の合理化のために、長さ約5,100mの探鉱通洞が開削されました。そして、昭和17年に完成し、第四通洞と探鉱通洞が繋がったことから、全体の長さが約10,000mの大通洞となり、筏津坑の操業にも大きく貢献しました。



▲ 四通橋 ① 配水管

四通橋は、大正8年に足谷川に架けられた第四通洞に繋がる橋です。大正12年から別子銅山のすべての坑内排水を第四通洞から排水しているため、四通橋には配水管が設置され、現在も稼動しています。

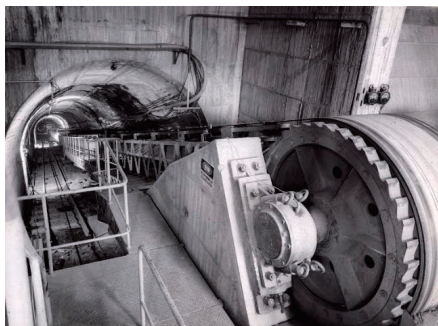
## 学習の記録







とうじ だいしゃこう そこう おおのかずみしていきょう  
▲ 当時の大斜坑と粗鉦ビン 大野和美氏提供



▲ スチール・ベルトコンベア  
しょうわ ねん きつえい  
昭和44年 撮影  
べっしどうざんきねんかんしよざう  
別子銅山記念館所蔵

ふか おんど あ さぎょうかんきょう わる こうどう そと しんせん  
深くでは温度が上がり、作業環境が悪くなるため、坑道の外から新鮮  
な空気を送り、換気することと、おんど さ ひつよう  
温度を下げる必要がありました。

だいしゃこう かいめんかやく およ  
大斜坑は、海面下約1,000mに及  
こうないうんぼんろ  
ぶ坑内運搬路です。

かいこう ねんた べっしどうざん  
開坑より 270年経った別子銅山  
ごうしょう やま かぶ いこう  
では、鉦床が山の下部に移行して  
きました。すると、さいくつば ちかふか  
探掘場が地下深  
くなるにつれ、うんぼん いどう ふくざつ  
運搬や移動が複雑  
になり、さまざまな費用がかかる  
ひよう  
ようになりました。また、地下

べっしどうざん さいごの ちやうせん  
別子銅山最後の挑戦  
かいめん かい べっし  
海面下一千メートルへの奇跡  
きせき

べっしどうざんさいご のぞ せ お だいかいはつ あと いま  
別子銅山最後の望みを背負った大開発の跡は、今では  
しぜん なか しず ねむ  
自然の中で静かに眠っています。



そこで、大斜坑を開削することを中心とした深部開発が計画され、昭和35年(1960)9月に大斜坑の開削に取り掛かりました。

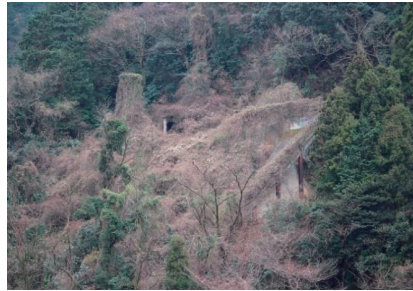
工期8年、建設費19億5,000万円で昭和43年9月に完成しました。

端出場の打除(標高約210m)から約15度の傾斜で、長さ4,455m、海面下約1,000mに達しました。坑口の標準断面の高さは3.35m、幅4.3mのカマボコ型でした。これまでの3つの通洞に勝る、まさしく別子銅山の最後の望みを託した大開発でした。

大斜坑の完成により、鉱石はすべてスチール・ベルトコンベアで運ばれ、46人乗りのケーブルカーも走るなど、人や機材の運搬に大活躍しました。



▲ 建設中の粗鉱ビン  
別子銅山記念館所蔵



▲ 現在の粗鉱ビン跡

粗鉱ビンは、地中深く大斜坑から運ばれた鉱石を一時貯蔵していた貯鉱庫です。4,000tの貯鉱能力がありました。ここで貯蔵された鉱石は、スチール・ベルトコンベアで足谷川を渡り、選鉱場へと運ばれました。

現在、これらはマイントピア別子端出場ゾーンから望むことができ、打除の山の斜面にある四角いコンクリート造りが粗鉱ビンの跡で、その向かって左側の茂みに隠れた中に大斜坑の坑口があります。

## 学習の記録





もてなしの心で  
寿ぐ亭  
あずまや

▲ 泉寿亭(マイントピア別子・端出場)



▲ 泉寿亭内部

泉寿亭は、昭和12年(1937)別子銅山へのお客様を迎えるため惣開から中新田に移転し増築された接待館です。泉寿亭という名前には、住友の屋号である「泉屋」を寿ぐ(祝う)という縁起のよい意味があります。昭和15年の別子開坑250年祭では、多くのお客様を迎えました。

泉寿亭は、管理棟1棟、客室棟(2階建)3棟、別館(2階建)1棟、特別室棟1棟から構成されていて、それぞれが全て渡り廊下でつながっていました。客室棟には客室24部屋、特別室棟には3部屋あり、別館は宴会場として使われていました。



玄関近くに咲くシャクヤクが見ごろを迎える5月中旬には、お茶席が設けられ、多くの観光客が訪れる安らぎの場となっています。





ろうか み わふうていえん  
▲ 廊下から見た和風庭園



き かお ただよ ろうか  
▲ 木の薫り漂う廊下

とくべつしつ せんよう げんかん  
特別室には専用の玄関があり、利用できるのは皇族や大臣  
りよう だいじん  
などのVIP(重要人物)、住友家  
じゅうようじんぶつ すみともけ  
の当主や幹部職員に限定され  
とうしゅ かんぶしよくいん げんてい  
ていました。昭和13年には陸軍  
しょうわ ねん りくぐん  
航空本部長の東久邇宮稔彦王  
こうくうほんぶちょう ひがしくにのみやなるひこおう  
が、昭和27年には常陸宮殿下が  
しょうわ ねん ひたちのみやでんか  
しゆくはく  
宿泊されました。

べっしどうざんかいこう ねん きねん  
別子銅山開坑300年を記念し  
せんじゆてい しきち べっし  
て、泉寿亭のある敷地に「別子  
どうざんきねんとしよかん けんせつ  
銅山記念図書館」を建設するた  
め、平成3年(1991)、マイントピ  
へいせい ねん  
ア別子端出場ゾーンへ賓客用  
べっし は でば ひんきやくよう  
玄関と、特別室が移築されまし  
げんかん とくべつしつ いちく  
た。特別室は、数奇屋造り(茶室  
とくべつしつ すまき やづく ちゃしつ  
ようしき と い つく あじ  
の様式を取り入れた造り)の味  
わい ぶか じゆんわふうけんちく  
わい深い純和風建築です。  
やね した かべ おきな いみ  
屋根の下の壁には「翁」を意味  
する小穴が2つ開けられており、  
こあな が2つ あ  
いまばりし しょか おだしせい  
今治市の書家の織田子青により  
か べっかん せんじゆてい かんぱん  
書かれた「別館 泉寿亭」の看板  
かか  
が掲げられています。

がくしゅう きろく  
学習の記録





とうよういち  
わが国最大級の  
水力発電所

きゅうは で ぼすいりよくはつでんしよ  
◀ 旧端出場水力発電所

きゅうは で ぼすいりよくはつでんしよ すずきまさや ベっしどうざん でんき  
旧端出場水力発電所は、鈴木馬左也により、別子銅山に電気を  
きょうきゆう めいじ ねん くさいだいきゆう しゅつりよく キロワット  
供給するため、明治45年(1912)、わが国最大級の出力3,000 kWで  
つくられました。

はつでんよう みず ベっしやま どうざんがわ ひうらつうどうない すいる だいさんつうどうとなり  
発電用の水は、別子山の銅山川から日浦通洞内の水路、第三通洞隣の  
トンネルや、山中の水路・樋を通り、発電所の上部の山から、596mの  
ゆうこうらくさ りよう はつでん おこな とうじ とうよういち らくさ  
有効落差を利用して発電が行われました。これは当時、東洋一の落差  
でした。

たいしやう ねん し さかじませいれんしよ でん き きょうきゆう はつでんき  
大正12年(1923)には、四阪島製錬所に電気を供給するため、発電機  
すいしやく たい ぞうせつ しゅつりよく キロワット ぞうきやう ご しゅつりよく  
と水車各1台を増設して、出力を4,500 kWに増強。その後、出力  
を4,800 kWに増強し、別子銅山のさらなる近代化に大きく貢献しま  
した。



は で ぼすいりよくはつでんしよ がいへき み いちぶ くる ぬ  
端出場水力発電所の外壁は、よく見ると一部が黒く塗ら  
れています。なぜそうなっているのでしょうか？

この発電機は、昔の技術でつくられた。そのため、外壁は黒く塗られている。



- ① はつでんき 発電機
- ② しゅうはすうへんかんき 周波数変換器
- ◀ ないぶ ようす 内部の様子

愛媛県の代表的な赤レンガ造りの建物でもあり、マイントピア別子の端出場記念館本館のモデルとなりました。建てられてから100年以上経った今でも、レンガの傷みはほとんどみられず当時のままの姿を残しています。先人の技術力の高さを感じることができる場所です。

昭和45年(1970)、端出場水力発電所は、発電所としての任務を終えました。

しかし、建物内部には操業開始からの発電機(ドイツ・シーメンス社製)1,500kW、水車(ドイツ・フオイト社製)が現存しています。

端出場水力発電所は、平成23年(2011)に国の登録有形文化財に登録されました。



▲ 一部が黒く塗られた壁

## 学習の記録



紹介ビデオ ダイジェスト版 新居浜市制作





別子銅山最大級  
石のメインストリート

しかもりしゃたくあと  
鹿森社宅跡

しかもりしゃたく けんせつ たいしょう ねん がつ はじ よくとし  
鹿森社宅の建設は大正5年(1916)7月から始まりました。その翌年  
には270戸の社宅がありました。全盛期には300戸、1,300余りの人たちが  
せいかつ  
生活していました。

しかもり べっしどうざん しゃたくさいだい いし かいだん  
鹿森には、別子銅山において、社宅最大の石づくりの階段があります。  
ぜんたい なが およ しかもり じゅうにん やくわり とお  
全体の長さは1,800mにも及びます。鹿森の住人の約8割が通っていま  
した。



みどり おお やま いっぽあし ふ い  
緑に覆われた山に、一歩足を踏み入ると、しっかり  
と暮らしの跡を感じられます。



©HATSUTARO HIWASA 2021

▲ <sup>しかもり</sup>鹿森の休日 <sup>きゆうじつ</sup>昭和33年 <sup>しょうわ</sup>日 <sup>ねん</sup>和佐初太郎撮影

「<sup>しかもり</sup>鹿森」という地名は、「<sup>し</sup>し岩」という岩から由来しています。<sup>い</sup>し岩の<sup>もり</sup>森ということから、しに「<sup>しか</sup>鹿」の字が当てられ、<sup>しかもり</sup>鹿森となったそうです。しし岩とは、<sup>い</sup>の<sup>し</sup>が<sup>すわ</sup>座っているように見える大きな岩のことです。



▲ <sup>い</sup>し<sup>う</sup>し<sup>え</sup>岩(上)と<sup>き</sup>ょう<sup>どう</sup>よく<sup>じ</sup>ょう<sup>あ</sup>と<sup>し</sup>た共同浴場跡(下)

現在では、しっかりと組まれた<sup>い</sup>し<sup>が</sup>き石垣や、<sup>き</sup>ょう<sup>どう</sup>よく<sup>じ</sup>ょう<sup>あ</sup>と<sup>し</sup>た共同浴場、<sup>ち</sup>よすい貯水タンク、<sup>し</sup>ょう<sup>が</sup>っこう小学校、<sup>しん</sup>じん<sup>じ</sup>や神社などの<sup>か</sup>ず<sup>お</sup>お数多くの<sup>せ</sup>いかつ生活の跡が残されています。中でも、<sup>き</sup>ょう<sup>どう</sup>よく<sup>じ</sup>ょう<sup>あ</sup>と<sup>し</sup>た共同浴場は<sup>こう</sup>さん<sup>ら</sup>う<sup>どう</sup>しや鉱山労働者の<sup>ゆ</sup>い<sup>い</sup>つ唯一の<sup>た</sup>の楽しみだったそうです。その他の<sup>た</sup>社<sup>し</sup>ゃ<sup>たく</sup>宅では<sup>ま</sup>き薪で<sup>ゆ</sup>湯を<sup>わ</sup>沸かしていましたが、<sup>しか</sup>もり鹿森の<sup>よ</sup>く<sup>じ</sup>ょう浴場は、<sup>でん</sup>き電気で<sup>わ</sup>沸かしていたそうです。

当時、<sup>とう</sup>じに<sup>し</sup>か<sup>か</sup>わいをみせていた<sup>し</sup>か鹿<sup>もり</sup>森社宅も、<sup>べ</sup>つ<sup>し</sup>どう<sup>ざん</sup>別子銅山の<sup>へい</sup>ざん閉山にと<sup>も</sup>ない、<sup>し</sup>ょう<sup>わ</sup>昭和48年(1973)に<sup>ねん</sup>58年間<sup>ねん</sup>の<sup>ま</sup>く<sup>と</sup>幕を<sup>い</sup>ま<sup>し</sup>ず閉じ、<sup>み</sup>ど<sup>り</sup>今では静かに<sup>も</sup>り<sup>か</sup>え森へ<sup>か</sup>え還っています。

## がくしゅう きろく 学習の記録







すみのしょうがっこうしかもりぶんこうあと  
▲角野小学校鹿森分校跡

銅山の小学生  
待ちに待った列車通学

すみのしょうがっこうしかもりぶんこう  
角野小学校鹿森分校は、大正6年(1917)6月15日に私立住友惣開  
じんじょうこうとうしょうがっこうぶんきょうじょう  
尋常高等小学校分教場として鹿森の住友社宅内から出発しまし  
た。

しょうわ ねん がついつたち こうりつ いかん にはましりつすみのしょうがっこうしか  
昭和36年(1961)4月1日に公立へ移管され、新居浜市立角野小学校鹿  
もりぶんこう かいししょう とき ざいこうせいすう にん がつきゅうすう がつきゅう  
森分校と改称し、その時の在校生数は78人、学級数は3学級でした。  
しかし、閉山間近の昭和43年には、在校生数は9人の複式学級となり、  
しょうわ ねん へいこう さいざいせき ふたり じどう  
昭和45年に閉校となりました。その際に籍していたのは2人で、その児童  
ほんこう にはましりつすみのしょうがっこう てんにゆう  
は本校となる新居浜市立角野小学校へ転入となりました。

ねんせい ぶんこう そつぎょうしょうしよ ねんせい すみのしょうがっこう  
3年生になると分校の卒業証書をもらい、4年生として角野小学校  
かよ  
へ通いました。



なんと鹿森から角野小学校への通学は下部鉄道を利用  
した列車通学でした。鹿森小学校の児童は、4年生からの  
列車通学を楽しみにしていました。





- ① しょうがっこう 小学校
- ② グラウンド

◀ しかもりしゃくたいくせんけい 鹿森社宅全景  
べっしどうざんきねんかんしよぞう 別子銅山記念館所蔵



- ▲ へいてうまゑ じどうと PTA しょうわ ねんきつまい 閉校前の児童とPTA 昭和43年撮影
  - ◀ ねんしゆりようまねん たいしやう ねんきつまい 3年修了記念 大正14年撮影
- 「創立百周年」より引用

しょうがっこう 小学校のグラウンドは、ちやうど社宅一棟分の敷地でした。長さ 50m 弱、幅が 12m で、トラック 1 周が約 85m でした。バレーボールコートを一  
面取ることはできましたが、ソフトボールは三角ベースしかできない  
狭さでした。

しかもりちく にだいぎやうじ あき うんどうかい しかもりじんじや まつ 鹿森地区の二大行事は、秋の運動会と鹿森神社のお祭りでした。  
しょうがっこう おこな うんどうかい しょうがっこう うんどうかい 小学校のグラウンドで行われた運動会は、小学校の運動会としてでは  
なく、じちかいしゆさい かかく たいこううんどうかい にちじゆうわら た 自治会主催の各区による対抗運動会でした。1日中笑いの絶えな  
い楽しく、和やかなものでした。現在は、学校の門柱が緑の中に静か  
にたたずんでいます。

がくしゆう きろく  
学習の記録





レンガが語る  
明治期の思い出

げんざい くるまやずいどう  
◀ 現在の車屋隧道

くるまやずいどう べっしこうざんてつどう かぶせん かぶてつどう よう  
車屋隧道は、別子鉱山鉄道下部線(下部鉄道)用のトンネルとして、明治  
ねん けんせつ なが やく たか やく はばやく  
26年(1893)ごろに建設されました。長さ約55.11mで、高さ約3.8m、幅約  
3.65mです。

ものいわだけずいどう くるまやずいどう おな じき かぶてつどう よう けんせつ  
物言獄隧道は、車屋隧道と同じ時期に下部鉄道用のトンネルとして建設  
な が やく はばやく かぶてつどう  
されました。長さ24.99m、高さ約3.8m、幅約3.70mです。下部鉄道のトン  
ネルはこれらのほかにも、端出場地区の端出場隧道や、星越地区の星越  
は で ば ち く は で ば ずい どう ほしごえちく ほしごえずい  
道があります。これらのトンネルの設計は、小川東吾によるものです。  
どう せつけい おがわとう ご



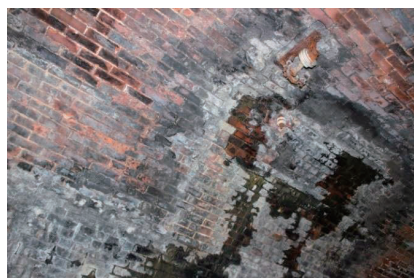
トンネル内部のレンガは、黒くなっている部分があります。  
す。これはいったいなぜでしょうか？

この先は、**モノイワ**のコーナーです。  
ぜひ読んでみてください。



◀ げんざい ものいわだけずいどう  
現在の物言獄隧道

めいじ ねん ひろせさいへい おうべいじゆんゆうりょうこう み  
明治22年、広瀬幸平は欧米巡遊旅行で見たアメリカのコロラド州の  
こうざんてつどう ベっしどうざん どうにゆう じょうぶてつどう かぶてつどう ろせん  
鉱山鉄道を別子銅山にも導入しようと、上部鉄道と下部鉄道の路線を  
けいかく じっこう かぶてつどう めいじ ねん てつどうふせつようち そくりょう  
計画・実行しました。下部鉄道は、明治23年から鉄道敷設用地の測量や  
せつけい おこな よくとし けんせつ はじ  
設計を行い、翌年に建設が始まりました。そして、明治26年3月15日に、  
ねん こうき は でば かいがん そうひらき むす なが  
2年の工期で端出場から海岸の惣開までを結ぶ長さ 10.461km が完成し  
ました。工費は、205,052円でした。



▲ トンネル内部の様子

また、どうねん がつ にち なが  
同年8月27日に長さ 5.532km  
じょうぶてつどう こうひ えん かんせい  
の上部鉄道も工費122,971円で完成。  
これらのそうこうひ げんざい かへい かち  
総工費を現在の貨幣価値に  
かんざん おくえんいじょう  
換算すると、100億円以上です。

げんざい  
現在も、レンガをしっかりと積ん  
もと すがた のこ めいじき い ひと  
だ元の姿を残し、明治期を生きた人  
びと いぶき かん  
々の息吹を感じることができます。

※この場所への立ち入りについては、  
すみともきんぞくこうざんかぶしきがいはべっしじぎょうしよ きよか ひつよう  
住友金属鉱山株式会社別子事業所の許可が必要です。

がくしゆう きらく  
学習の記録







▲ 黒石駅跡  
くろいしえきあと

黒石駅は、別子鉱山鉄道下部線(下部鉄道)の駅です。下部鉄道が敷設された明治26年(1893)には、端出場駅、板ノ元駅、土橋駅、惣開駅の4駅で、黒石駅はありませんでした。なお、板ノ元駅は、明治28年の山根製錬所の廃止にともない廃駅となりました。

その後、新居浜の工場地帯の発展により、昭和4年(1929)、別子鉱山鉄道が鉱山専用鉄道から地方鉄道に切り替えられたことにより、一般の人たちも利用できるようになりました。

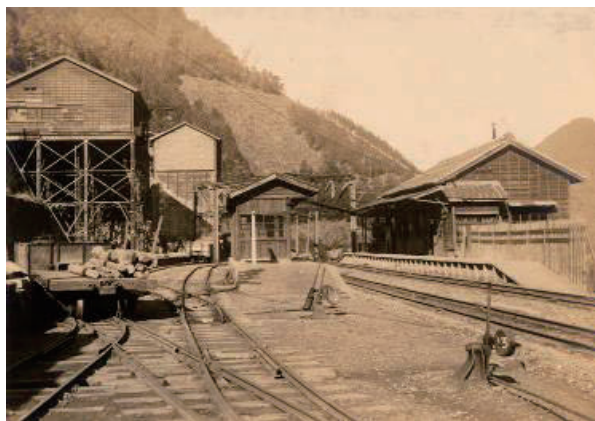
その際、黒石駅、山根駅、星越駅の3駅が新設されました。端出場から惣開までの間を約40分で走っていました。

昭和11年には新居浜港線、昭和17年には国鉄新居浜駅との連絡線が相次いで増設されました。



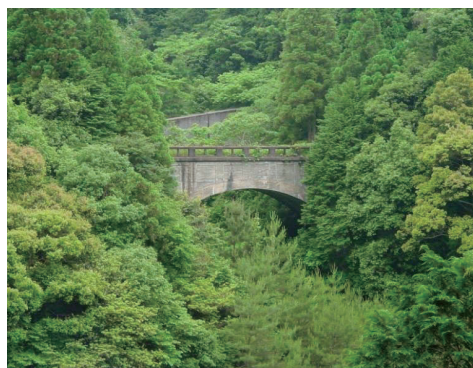
くろいしえき さくどう さいじょうし にしのかわこうざん もとやすこうざん どう  
黒石駅へは、索道で西条市の西之川鉱山や基安鉱山の銅  
こうせき はこ  
鉱石が運ばれてきていました。

はちじゅうよねん  
八十余年の歴史と共に  
いまのこ  
今に残る駅舎跡  
プラットホーム



とうじ くろいしえき  
 ◀ 当時の黒石駅  
 しょうわ ねんきつえい  
 昭和11年撮影  
 べっしどうざんきねんかんしよぞう  
 別子銅山記念館所蔵

しょうわ ねん がつ ふきゆう もと せんようてつどう もど  
 昭和30年1月には、バスの普及にともない、元の専用鉄道に戻りました。  
 ご しょうわ ねん べっしどうざんへいざん しょうわ ねん たいふう ひがいに かさ  
 その後、昭和48年の別子銅山閉山や、昭和52年の台風による被害などが重  
 なり、かぶてつどう はいし ねんかん れきし と  
 下部鉄道は廃止され、85年間の歴史を閉じました。



ひのき おがわはし めいじ ねん かぶ  
 檜尾川橋は、明治26年に下部  
 てつどう ふせつ けんせつ  
 鉄道の敷設にともない建設され  
 ました。しかし、明治32年の  
 べっしだいすいがい りゅうしゆつ  
 別子大水害により流出しまし  
 ました。

しょうわ ねん  
 昭和6年ごろにコンクリート  
 こうぞう げん  
 構造としてつくりなおされ、現  
 ざい いた  
 在に至ります。

けんどう み ひのき おがわはし  
 ▲ 県道から見た 檜尾川橋

※この場所への立ち入りについては  
 すみともきんぞくこうざんかぶしきがいはべっしじぎょうしよ きよか ひつよう  
 住友金属鉱山株式会社別子事業所の許可が必要です。

がくしゆう きろく  
 学習の記録





たつかわなかじゆくあと やまがわ みち ぎゆうしやみち  
▲ 立川中宿跡(山側の道はかつての牛車道)

たつかわなかじゆく ぶんてん べっしさんちゆう にいはまうら ぶっし  
立川中宿(分店)は、別子山中から新居浜浦への物資  
ちゆうかん ちゆうけい まち べっしよ  
輸送の中継基地となった場所です。

げんろく ねん がつ たつかわけいゆ にいはまくちや いた ゆそうろ かいせつ  
元禄16年(1703)10月に、立川經由で新居浜口屋へ至る輸送路が開設さ  
たつかわわたらせ たつかわなかじゆく もう べっしどうざん にいはまくちや  
れ、立川渡瀬に立川中宿も設けられました。別子銅山と新居浜口屋の  
ちゆうかん 位置していることから、粗銅の荷下げや生活物資の荷揚げの  
ちゆうけい まち やくわり にな くら も だい き ぼ  
中継基地の役割を担いました。7つもの蔵を持つ大規模なものでした。

ご けいおう ねん がつ ばくふ かんり と べっしさんちゆう  
その後、慶応4年(1868)7月、幕府の管理が解かれ、これまで別子山中  
せいれん そどう おおさか おく せいどう さぎょう げんちせいれん  
で製錬されていた粗銅を大阪へ送り精銅としていた作業から、現地精錬  
にいはまはつ せいれんしよ めいじ ねん たつかわせいどうしよ そうぎょう  
とするため、新居浜初の精錬所として明治2年(1869)立川精銅所が操業  
はし  
を始めました。

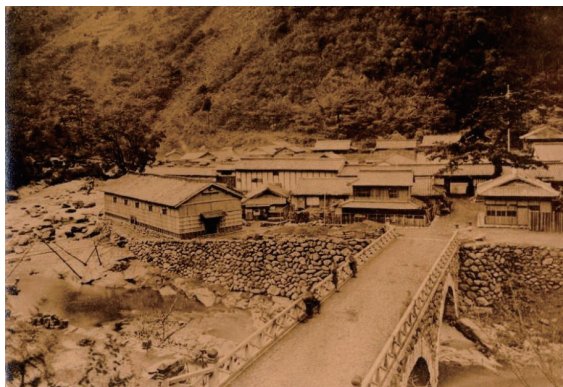
たつかわせいどうしよ めいじ ねん かんせい そうびらせいれんしよ どうごう めいじ ねん  
立川精銅所は、明治21年に完成した惣開製錬所に統合され、明治24年  
たつかわなかじゆく にいはま ぶんてん たつかわしゆうつちようしよ かくさ  
に立川中宿は新居浜分店立川出張所と格下げとなりました。



たつかわなかじゆく さいげん もけい くちやあときねんこうみんかん  
立川中宿を再現した模型が、口屋跡記念公民館  
さんしりょう てんじ  
(83まいん参照)に展示されています。

行こうか戻ろうか  
別子の山へ  
ここは思案の眼鏡橋  
別子銅山せつどう節





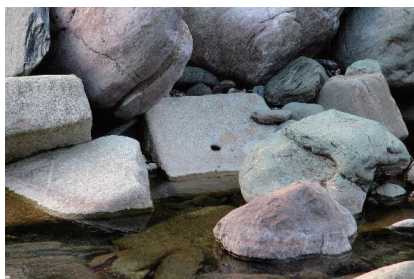
たつかわなかじゆく  
**▲ 立川中宿**  
 めいじ ねんさつえい  
**明治14年撮影**  
 べっしどうざんきねんかんしよぞう  
**別子銅山記念館所蔵**

めがねはし  
**眼鏡橋**は、たつかわなかじゆくまえ か かこうがんづく はし しゅうへん  
 には料亭などもあり、にぎわいを極め、銅山へ行く人たちはこの**歓楽街**  
 を通り過ぎかねて、この眼鏡橋の上で迷ってしまったことから、別子銅山  
 の仕事歌・「せつとう節」の一節が生まれました。ところが、明治32年の  
 別子大水害により、眼鏡橋は流出してしまいました。現在は、元の位置  
 より少し下流側に龍川橋が架けられています。

げんざい たつかわなかじゆくあとち たつかわじちかいかん たもくてきひろば  
 現在、立川中宿跡地は立川自治会館や多目的広場となっています。



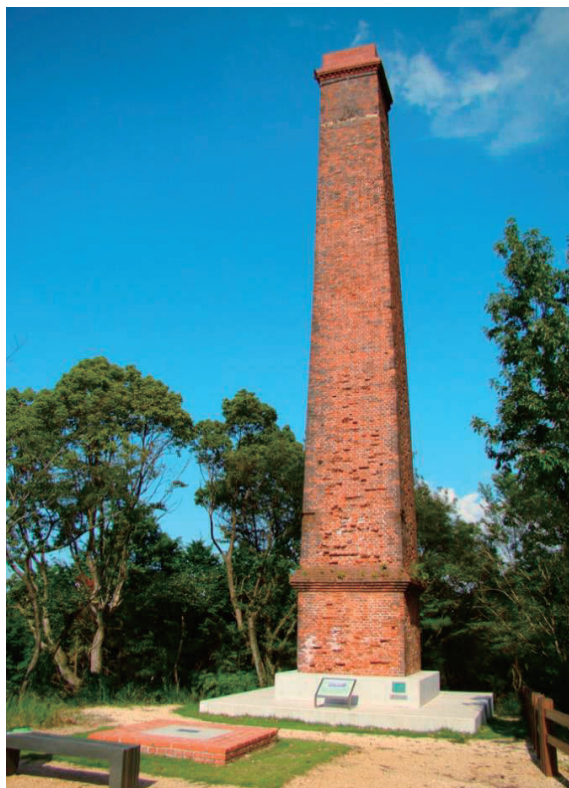
めがねはし めいじ ねんさつえい  
**▲ 眼鏡橋 明治14年撮影**  
 べっしどうざんきねんかんしよぞう  
**別子銅山記念館所蔵**



かわのこ めがねはし かこうがん  
**▲ 川に残る眼鏡橋の花崗岩**  
 (まるあなをあいた石)

がくしゅう きろく  
**学習の記録**





現代に残る  
郷土のシンボルタワー

やまね せいれんしよえんとつ  
山根製錬所煙突

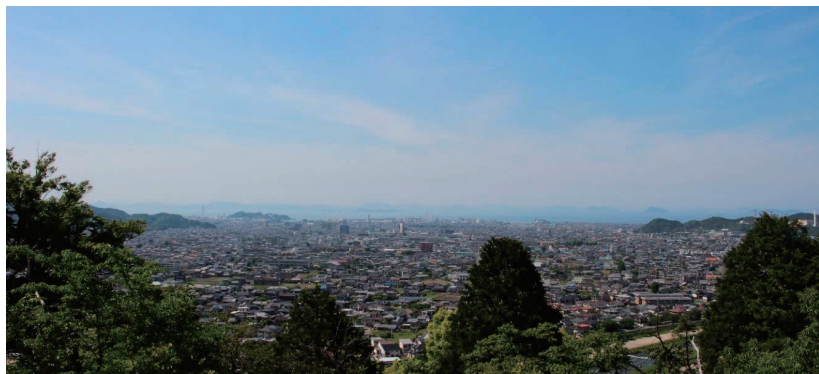
やまね せいれんしよ とうせいぶん すく こうせき せいれん しせつ めいじ  
山根製錬所は、銅成分が少ない鉱石を製錬するための施設です。明治  
ねん ちやっこう めいじ ねん かんせい  
19年(1886)に着工、明治21年に完成しました。

どうねん そうびらきせいれんしよ かんせい どう せいれん  
同年には惣開製錬所も完成しています。銅だけを製錬するだけでは  
なくて、その過程で発生した亜硫酸ガスから「硫酸」、残りから「銑鉄」  
かてい ほっせい ありゆうさん りゆうさん のこ せんてつ  
を製造するなど、最先端の工場でもありました。そしてこれらは明治25  
せいどう さいせんたん こうじょう めいじ  
ねん がつ くないしやう べっしどうざんさんしゆうつひんひやうほん けんろう  
年9月に宮内省へ「別子銅山産出品標本」として献納されるほどでし  
た。



にい はま  
新居浜のシンボルタワーとして親しまれている山根製  
れんしよえんとつ たか なん  
錬所煙突ですが、高さは何mあるでしょうか？

高さ 20.145m



▲ 生子山から新居浜市街地を眺望  
しょうじやま に いはまし がいち ちょうぼう

▼ 当時の山根製錬所 別子銅山記念館所蔵  
とうじ やまね せいれんしょ べっしどうざんきねんかんしよぞう



さらに、明治26年2月、製鉄を突  
めいじ 26 ねん がつ せいてつ じつ  
 用化させるため惣開製錬所に新  
ようか そうひらきせいれんしょ に  
 居浜製鉄所が併設されました。こ  
いはませいてつしよ へいせつ  
 れは、官営の八幡製鉄所よりも7年  
かんえい やはたせいてつしよ ねん  
 も前のことでした。新居浜は、日本  
まえ に いはま にほん  
 における最も古い製鉄所及びびか  
もつと ふる せいてつしよおよ ち  
 学工場発祥の地といえます。

生子山にそびえるレンガ造りの煙突はヨーロッパの産業革命に100年  
しょうじやま づく えんとつ さんぎょうかくめい ねん  
 以上も遅れた日本が果敢に挑戦し、明治維新後わずか20~30年でたどり  
いじょう おく にほん かかん ちょうせん めいじ いしんご ねん  
 着いたことを示す金字塔です。

煙突の周辺は『えんとつ山倶楽部』が中心となり地域の人たちが  
えんとつ しゅうへん やまくらぶ ちゅうしん ちいき ひと  
 環境整備を行い、子どもから大人まで幅広い世代の人に親しまれてい  
かんきょうせいび おこな こ おとな はばひろ せだい ひと した  
 る市民の「健康」「触れ合い」「憩い」の里山運動公園の場となっています。

山根製錬所煙突は平成21年(2009)登録有形文化財に登録されました。  
やまねせいれんしょえんとつ へいせい ねん とうろくゆうけいぶんかざい とうろく

がくしゅう きらく  
**学習の記録**







大鉞の唄が  
今も生きづく

▲ おおやまづみじんじゃ  
大山積神社

大山積神社は、別子銅山の守護神です。元禄7年(1694)別子大火災の後に別子銅山の守り神として今治市大三島にある大山祇神社から神様を分けてもらいました。最初は、旧別子で祀られていましたが、別子銅山の中心地が移るとともに大正4年(1915)東平、昭和3年(1928)現在の新しいはましすみのしんでんちよううつ居浜市角野新田町へ移されてきました。

坑口の上と柱に大山積の神様が祀られ、坑内を出入りする際には一礼して必ず安全を祈願していました。また、元旦には神社境内において、「大鉞祭」が行われていました。現在は、1月の仕事初めの日に行われています。別子銅山の銅鉞石と祝い歌を奉納する新年の伝統行事です。

大鉞祭では、1年間で最も良質な銅鉞石をしめ縄で飾りつけて奉納していました。

大鉞祭に使う銅鉞石は何kgでしょうか？

約300kg



おおぼく うたほうしょう ようす  
▲ 大鉾の唄奉唱の様子

しょうわ ねん べっし どうざんへいざん  
昭和48年の別子銅山閉山  
後、大鉾祭は途絶えていまし  
が、平成2年(1990)別子銅山  
開坑300年祭を機に、銅山勤務  
経験者でつくる「別子銅山親  
友会」が復活させました。復  
活後は「大鉾の唄奉納」とし  
て、しめ縄で飾り付けた約2kg  
の小鉾を奉納しています。



© HATSUTARO HIWASA 2021

おおぼくさい  
▲ 大鉾祭  
しょうわ ねんだい ひ わ さ はつたろうさつえい  
昭和30年代 日和佐初太郎撮影

また、毎年5月に行われて  
いた山神祭では、境内の相撲  
場で住友各社社員による相撲  
大会も開かれていました。



しんでん よこ まつ おおぼく  
神殿の横に祀られた大鉾 ▶

がくしゅう きろく  
学習の記録





べっしどうざんきねんかん  
▲ 別子銅山記念館



べっしどうざんさいご おおばく  
▲ 別子銅山最後の大鮎

いちまんさんぜんぼん  
一万三千本のサツキ  
いま いき  
今も息づく別子三百年の宝  
たから

べっしどうざん きねんかん は、日本経済の  
はってん おお ころげん べっし どうざん  
発展に大きく貢献した別子銅山の  
れきし ぎじゆつ なが こうせい つた  
歴史や技術を長く後世に伝えるた  
め、住友グループの協力によっ  
すみとも きょうりよく  
て、昭和50年(1975)につくられま  
した。

かんない べっしどうざんかいこう れきし ちしつこうしょう せいかつふうぞく ぎじゆつ  
館内には、別子銅山開坑からの、歴史、地質 鉱床、生活風俗、技術な  
どに関する貴重 な資料が数多く展示されています。また、坑道をイメー  
かん きちよう しりよう かずおお てんじ こうどう  
ジした半地下構造となっており、落ち着いた雰囲気の中で別子銅山300  
はんちかこうぞう おつ ふんいき なか べっしどうざん  
ねん れきし たんのう  
年の歴史をじっくりと堪能することができます。



べっしどうざん どう と きよか きねんび がつ  
このかしょうご きねんかん てんじよう あ てんまど たいよう ひかり  
9日正午に、記念館の天井に開けられた天窓から太陽の光  
さ こ かんき ひかり おこな  
が差し込む『歓喜の陽光セレモニー』が行われます。





たてもの べっしどうざん しゅごしん  
 建物は、別子銅山の守護神と  
 まつ おおやまづみじんじや  
 して祀られている大山積神社  
 けいだい たてもの や お  
 の境内にあり、建物の屋根には  
 ほん う  
 10,000本のサツキが植えられ  
 ています。しゅうへん  
 周辺にもサツキが  
 ほん う  
 3,000本植えられています。こ  
 れは、べっしどうざん どう と  
 を許可された元禄4年(1691)5  
 きよか げんろく ねん  
 月にちなんだものです。まいとし  
 がつ 毎年5  
 がつ はな まんかい しな  
 月には花が満開となり、市内  
 ずいいち めいしよ  
 随一のサツキの名所としても  
 おお ひと した  
 多くの人に親しまれています。

▲ かんき ひかり ひようし しょう  
 ▲ 歓喜の陽光(表紙に使用)

住 〒792-0846 愛媛県新居浜市角野新田町 3-13

☎ 0897-41-2200

時 9:00~16:30

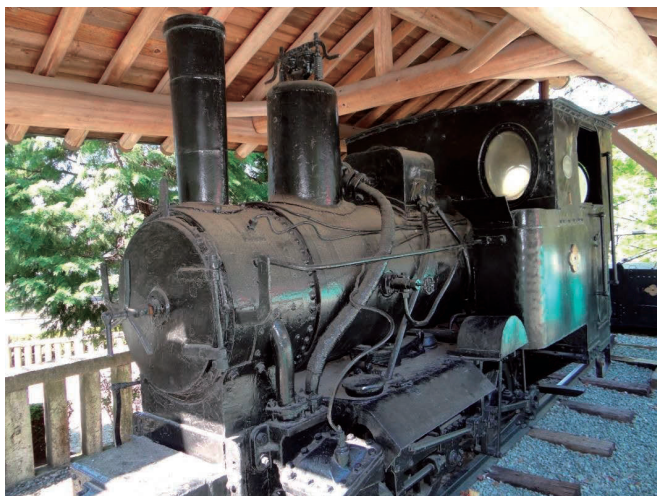
料 入場無料

休 月曜日、祝日(日曜日と重なる場合は開館)、10月17日・18日、12月29日~1月3日

がくしゅう きろく  
 学習の記録



すみとも こうほういいんかい  
 住友グループ広報委員会ホームページ



近代化の雄姿  
ここに在り

▲ 別子1号機関車

別子1号機関車は、鉱石運搬用の蒸気機関車です。

明治25年(1892)ドイツ・ミュンヘン市のクラウス社で製造されました。

広瀬幸平が明治22年5月に欧米巡遊を行った際、アメリカ・コロラド州で鉱山鉄道を見て導入を計画、明治26年に別子鉱山鉄道を完成させました。

長さ5,093mm、幅1,930mm、高さ2,681mm、重さ10.5tで、牽引力(引っ張ることのできた重量)は120tでした。機関車により、人の力で運搬していた時に比べ、約500倍の量を運ぶことができるようになりました。

明治44年に上部鉄道は廃止され、別子1号機関車は下部鉄道で使用されることになりました。その後、昭和25年(1950)まで活躍しましたが、電化によりその役割を終えました。



別子1号機関車は、日本初の山岳鉱山鉄道として標高1,000mの山中に別子近代化の汽笛を鳴り響かせたのです。



▲ 電気機関車

電気機関車ED104号は、経費節減を図るために部品を日立製作所より購入、社内の工作場で苦勞して製作した自家製機関車です。長さ9,150mm、幅2,002mm、高さ3,450mm、重さ20t、牽引力は3,296tです。

電化の威力は驚異的で、始動に何時間もかかっていたのが無くなりました。それまで鉦車を4~5両引いていた列車が18両を引いて定時運転できるようになりました。その上、機関助手も炭水手も必要がなくなり、修理工数も減りました。さらに、ダイヤの組み方ひとつで、大量の鉦車を輸送できる体制も確立されました。

しかし、400人余りいた鉄道課員が2~3年後には200人台に減少してしまいました。

学習の記録







し さかじまおおえんとつ  
▲ 四阪島大煙突モニュメント

ありゆうさん  
亜硫酸吐きし煙のなくなりて  
は  
しま  
島はよみがえる  
はむ  
第十六代 住友吉左衛門  
すむともきちざえもん

し さかじまおおえんとつ  
四阪島大煙突モニュメントは、せんじん かんきょうもんだい  
先人たちの環境問題と  
たたか れきし を伝えるため、やまねちく べっしどうざんきねんかんおくがいてんじじょう  
闘いの歴史を伝えるため、山根地区の別子銅山記念館屋外展示場に  
へいせい ねん がつ こんりゅう  
平成26年(2014)9月に建立されました。

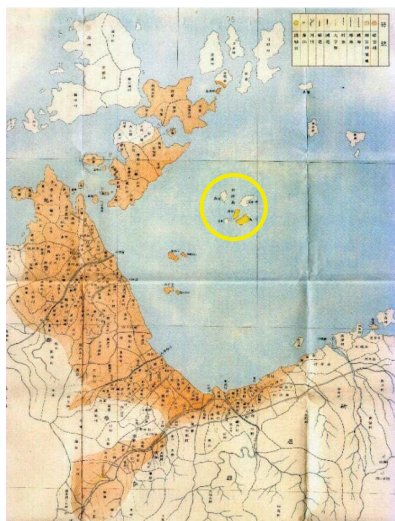
えんとつ もけい たか  
煙突の模型は高さ 2.3m のコンクリート製で、せんじん かんきょうもんだい  
四阪島大煙突を 25分の 1  
のおおきさで再現しています。かひ たか は約1.8m で、いよ あおいし  
歌碑の高さは約1.8m で、伊予の青石から造ら  
れています。かひ どうばん すみともけ だいちやう すみともきちざえもん べっしどうざん  
歌碑の銅板には、住友家16代家長の住友吉左衛門が別子銅山  
かいこう ねんさい さい よ うた きざ  
開坑250年祭の際に詠んだ歌が刻まれています。

にい はま えんがいもんだい かいけつ  
新居浜での煙害問題を解決するために、いばていごう むじんどう  
伊庭貞剛は無人数島であった四阪  
しま せいれんしよいてん けいかく  
島への製錬所移転を計画しました。

しおのものすけ せつけい めい めいじ ねん どうじにほん さいだいきゅう さいしんえい  
塩野門之助に設計を命じ、明治37年(1904)当時日本で最大級・最新鋭の  
せいれんしよ かんせい  
製錬所が完成しました。



べっしどうざん にほん こうがいもんだいかいけつ きさぎ  
別子銅山が日本の公害問題解決の先駆けになったことが  
よく分かる場所です。



えんがいがいちず めいじ ねん  
 ◀ 煙害被害地図 (明治39~40年)  
 きいろ かこ  
 (黄色で囲んでいるところが四阪島)  
 えひめけんそうごうかがくはくぶつかんしよざう  
 愛媛県総合科学博物館所蔵

ところが、ほんかくてき そうぎよう  
 ところが、本格的に操業をはじめ  
 えんがい とうよいつたい  
 ると、かえって煙害は、東予一帯に  
 かくだい けつか  
 拡大する結果となってしまいました。

めいじ ねん すずきまさや けむり  
 明治42年、鈴木馬左也は、「(煙の)  
 じよがいほうほう はつめい えんがい  
 除外方法が発明されれば、たとえ煙害  
 たい そんがい べんしやう がくいじよう  
 に対する損害を弁償する額以上であ  
 っても、これを支出して施設する覚悟  
 ししゆつ しせつ かくご  
 である。」と決意を述べました。

せんじん さまざま どりよく かせ  
 先人の様々な努力が重ねら  
 しょうわ ねん  
 れ、昭和4年(1929)ペテルゼン  
 しきりゅうさんこうじよう しょうわ ねんちゅうわ  
 式硫酸工場、昭和14年中和  
 こうじようかんせい どうねん がつみつか  
 工場完成により、同年7月3日  
 じ ふん えんとつ けむり で  
 13時15分、煙突からの煙が出  
 なくなり、はんせいき およ えんがい  
 なくなり、半世紀に及ぶ煙害  
 もんだい こくふく  
 問題を克服することができま  
 した。



▲ ありし日の四阪島大煙突の様子

しさがじま せかい はじ えんがいもんだい こくふく しま  
 四阪島は、世界で初めて煙害問題を克服した島です。

げんざい さんぎようはいきぶつ あえん と だ しま う  
 現在は、産業廃棄物から亜鉛を取り出すリサイクルの島として生まれ  
 か  
 変わっています。

なが しさがじま おおえんとつ たか ちよつけい  
 長らく四阪島のシンボルとなった「大煙突」(高さ 64.2m、直径 10.5m)  
 へいせい ねん ろうきゆうか かいたい  
 は、平成25年に老朽化のため解体されました。

がくしゆう きろく  
 学習の記録





やまね  
▲ 山根グラウンド

山根グラウンドは、昭和2年(1927)鷲尾勘解治の指揮のもと住友各企業の社員による「作務」(禅宗でいうボランティア)によって建設が行われ、昭和3年に完成しました。

完成時の収容人数は約3万人でその後、増設され6万人となり、親友会陸上競技大会などに利用されました。

石積みによる階段状の観客席は大変立派なもので、石積みの石は、近くの国領川から人の手によって運ばれて造られています。山根競技場観覧席として、平成21年(2009)に登録有形文化財に登録されました。

現在は、山根公園の多目的グラウンドとして、スポーツやイベントなどで利用されています。

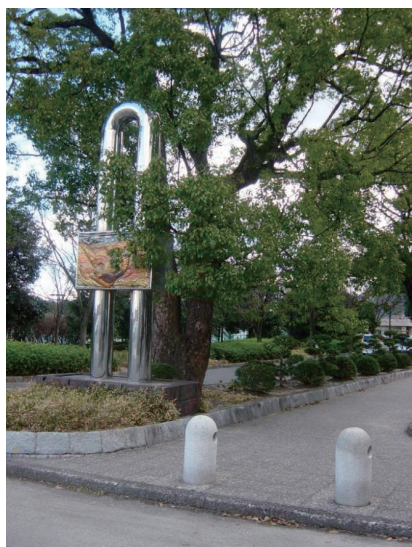
作務の心が生んだ  
六万人の巨大スタジアム



四国三大祭りに数えられる新居浜太鼓祭りのメイン会場の1つになり、たくさんの人でにぎわいます。



やまねきょうぎじょうかんらんせき  
山根競技場観覧席 ▶



グラウンドの入り口には多くの楠くすのきが植うえられています。この楠くすのきは、明治21年(1888)に山根製錬所やまねせいれんじょをつくる際に根元ねもとから伐採ぼっさいされ、埋められていました。ところが、製錬所せいれんじょが移転いてん後40年ねんあまり経たってグラウンド整備せいびの為ため、掘り起ほこされましおた。その際さい、楠くすのきが根元ねもとから2本3本ほんほんと枝分えだわかれしそだて育はっけんっているのが発見かたされました。

#### ◀ グラウンド入り口の楠くすのき

鷺尾勘解治わしおかげじがこれを見みて「諸君しよくんたちもこれからいろいろなことがあるだろうが、この楠くすのきは40年ねんもここに埋められているんだから、君たちも我慢がまんすることは大切たいせつだ」と教おしえました。楠くすのきは今も力強ちからづよく枝を広えだげ、根を大おおきく張り、生きることの意味いみを私わたしたちに語りかたかけています。

### がくしゅう きろく 学習の記録





▲ やまねしゅうどうしょ  
山根収銅所

やまねしゅうどうしょ  
山根収銅所は、坑内排水を浄化するための施設で、  
明治38年(1905)に完成し、100年以上も昔から使われ続け  
ています。

坑内排水は、雨が山にしみこんだり、地下から湧き出たりした水に銅  
鉱石が触れることで銅が溶け出した水です。この水をそのまま川に流し  
てしまうと、環境に悪い影響を与えてしまいます。

そこで、坑内排水に含まれている銅を取り除く必要があります。  
山根収銅所では坑内排水を鉄に触れさせることで起こる、酸化還元作用  
を使って、水をきれいにしています。

一世紀を越え  
絶え間なく働く  
環境浄化システム



べっしどうざん  
別子銅山では、100年以上も前から環境問題についての取  
組をしています。新居浜は100年前からエコの町なんですよ。



▲ 鉄のスクラップを入れている様子  
平成17年(2005)撮影

また、水を鉄に触れさせるための時間をできるだけ長くするため、水路がジグザグ構造になっています。

現在、別子銅山の坑内排水は、すべて第四通洞に集められています。

坑内排水を流すための水路(坑水路)は、第四通洞から山根収銅所まで約3.4kmあります。さらに新居浜の街を通り海岸まで約6.4km続き、長さ約10kmになります。

現在、坑内排水の水には銅成分などは含まれていませんが、水は流れています。



▲ 下部鉄道跡(自転車道)併走する坑水路(右下)

がくしゅう きろく  
学習の記録



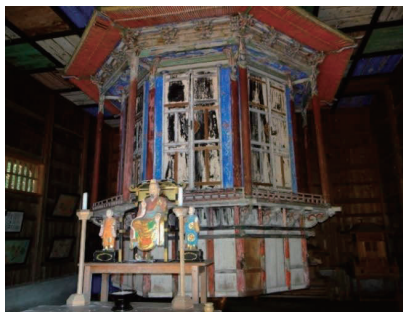




▲ 瑞応寺の本堂 本堂の屋根は、別子銅山の銅で葺かれている

瑞応寺は、禅の教えをよりどころにした曹洞宗に属する、室町時代から続く由緒あるお寺です。冬には修行僧の雲水が市内を托鉢で巡る「寒行托鉢」が行われることでも知られています。

大転輪蔵は、京都の北野天満宮に奉安されていたものが、明治の神仏分離令で売り出された際に、別子銅山での殉職者を鎮魂するため、広瀬幸平が中心となって買い求められました。この輪蔵を回して礼拝すれば大きな功德が積もると言われています。また、愛媛県の有形文化財にも指定されています。



▲ 大転輪蔵

釈迦如来にあやかり  
禅の心を知る



瑞応寺といえば大銀杏樹。紅葉シーズンに瑞応寺を訪れて、銀杏のじゅうたんを歩いてみてはどうでしょうか。



ちようせんどう  
◀ 長泉堂

別子銅山と瑞応寺の關係は、大政奉還があった時代までさかのぼりま  
す。慶応3年(1867)、米の値上がりにより、別子銅山の労働者が暴動を起  
こしました。その暴動の解決に協力したのが、瑞応寺の住職でした。  
このことが契機となって、別子銅山と瑞応寺の縁が生まれます。これに  
感謝した宰平は、暴動解決の2年後、明治2年(1869)に、810坪の畑も  
寄贈し、併せて本堂の横に「長泉堂」を建立しました。この場所には、  
住友関係者が祀られています。「長泉堂」という名前の由来は、「末『長』  
く『泉』屋が続きますように」という願いからきています。

また、瑞応寺の大銀杏樹は、樹齢800年を越えていると推測され、昭和  
31年(1956)11月に愛媛県の天然記念物に指定されています。



おおいちようじゆ  
▲ 大銀杏樹



かんぎようたくはつ うんすい  
▲ 寒行托鉢の雲水

がくしゆう きろく  
学習の記録





▲ 別子銅山遭難流亡者碑

先人たちの不屈の精神  
水禍を乗り越え再興する

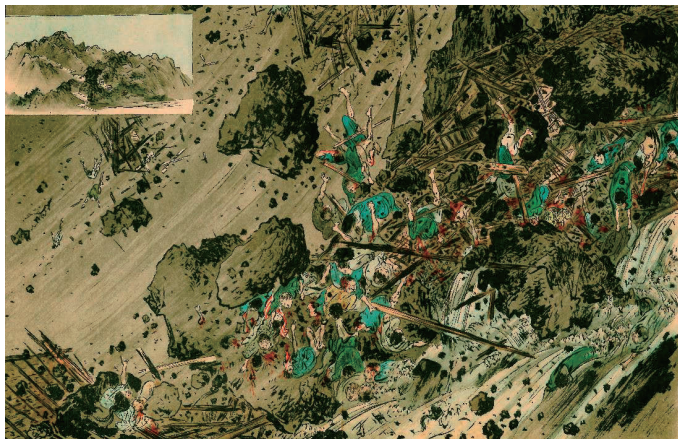
近代化の鎚音が鳴り響き、東延斜坑が開削され、洋式の高橋製錬所が建設されるなど、順調に銅山経営の歩を進めていた旧別子に、明治32年(1899)8月28日に台風が直撃。その暴風雨により山津波が発生し、山のまちを一瞬のみこみました。このことを「別子大水害」といいます。死者513人(負傷者26人)、倒壊家屋122戸(大破家屋33戸)という別子銅山の歴史の中でも大きな災害となりました。

一方、拡大途中であった高橋製錬所は足谷川に面していることもあり、大きな被害を受け、製錬作業が再開できない状況となりました。煙害問題により廃止された山根製錬所、別子大水害により製錬作業の再開が難しくなった高橋製錬所といった2つの製錬所が失くなり、別子銅山の製錬は新居浜(惣開)製錬所だけで作業しなければならぬ非常事態となりました。



大水害から100年以上経った今でも、当時の被害の悲惨さを忘れず、手厚い供養が続けられています。





べっしだいすいがい ようす めいじ ねんしょこくさいがいず え  
**▲ 別子大水害の様子 明治32年諸国災害図会**

べっしだいすいがいこ う たかぼしせいれんしょ ふつきゅう こころ だんねん べっしさん  
 別子大水害以降、高橋製錬所は復旧を試みましたが断念し、別子山  
 ちゆう せいらんさぎょう おこな  
 中での製錬作業は行われなくなりました。

べっしだいすいがい な ひと くよう だい き ぼ おこな  
 別子大水害で亡くなった人たちの供養は大規模に行われました。ま  
 た、亡くなったひとたちのくようのために ぎせいしや なまえ きざ じぞう  
 なが 一体ずつ作られました。現在も南光院で供養が続けられています。

べっしだいすいがい こ れいなん べっし やまがわ  
 別子大水害後、嶺南(別子山側)に  
 あった じゆよう しせつ れいほく にいはまがわ  
 あった主要施設が嶺北(新居浜側)  
 うつ  
 に移っていきました。

めいじ ねん さんかい き ずいおうじ  
 明治34年の三回忌に、瑞応寺に  
 いれい ひ べっしどうざんそうなんりゆうぼうしゅ ひ  
 慰霊碑の別子銅山遭難流亡者碑が  
 こんりゆう まいとし いれいまい  
 建立されました。毎年、慰霊祭が  
 いとな  
 営まれています。



なんこういん くよう じぞう  
**▲ 南光院で供養されているお地藏さん**

がくしゅう きろく  
**学習の記録**





ちゅうごくじん ふ りょじゆんなんしや いれいの ひ  
▲中国人俘虜殉難者慰霊之碑



たいへいようせんそつまつき べっしどうざん ちゅうごく きょうせいれんこう ひと  
太平洋戦争末期の別子銅山では、中国から強制連行された人たちが  
働かされていました。

さいくつ うんぼん でんしや うんてん すいじ しごと  
採掘や運搬、電車の運転や炊事などの仕事をしていました。

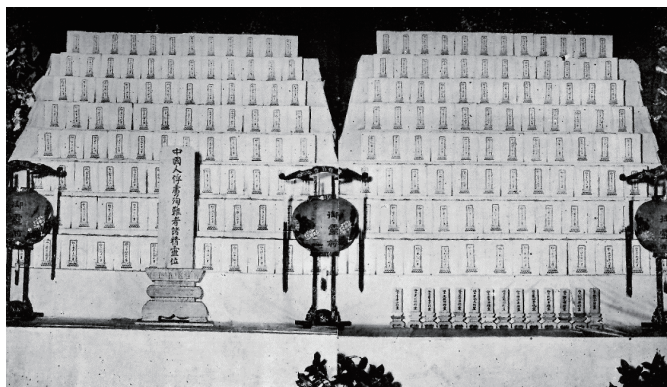
やすみはほとんどなく、日本語を話すことを強制され、つらい思いを  
させられたそうです。

662人の人たちが連れてこられ、そのうち208人が亡くなりました。亡  
くなった原因は、栄養不足や環境の悪さからくる病気が大半を占めて  
いました。

しゅうせんご しょうわ ねん がつ にち じんどう へいわ ゆうこう かか だい  
終戦後、昭和29年(1954)3月25日に、「人道・平和・友好」を掲げた第  
1回の慰霊大法要が、瑞応寺で行われました。そして、同年8月14日に  
しゅうようしょ どうなる だいさんちく いれいひ た  
収容所があった東平の第三地区に慰霊碑が立てられました。昭和43年  
どうなるてったいご いれいひ ずいおうじ うつ  
の東平撤退後、この慰霊碑は瑞応寺に移されました。



「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、  
人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」  
(ユネスコ憲章前文より)



だい かい いれいだいほうよう ようす ずいおうじ  
▲ 第1回慰霊大法要の様子(瑞応寺)



げんざい いれいさい  
▲ 現在の慰霊祭のようす

しょうわ ねん に いはましにつちゆうゆう  
昭和58年から、新居浜市日中友  
こうきょうかい まいとし がつついたち こっけいせつ  
好協会が毎年10月1日の国慶節に  
あ ずいおうじ いれいさい ひら  
合わせ、瑞応寺で慰霊祭を開いてい  
ます。

べっしどうざん かずおお す ば  
別子銅山には数多くの素晴らし  
こうせき ありますが、その影には多  
くの人たちの犠牲がともなってい  
るということを忘れてはなりません。  
このようにことにも目(め)を背(そむ)けず  
に、真剣(しんけん)に向き合うことが、平和(へいわ)を  
きず 築くことにつながります。

がくしゅう きろく  
学習の記録







ひろせれきしきねんかん  
▲ 広瀬歴史記念館

宰平の生い立ちと  
日本の近代産業をたどる

にはましひろせれきしきねんかん ひろせさいへい そくせき とお  
新居浜市広瀬歴史記念館は、広瀬宰平の足跡を通して  
こうぎょうとし にはま お た にほん きんだいさんぎょう あゆ  
工業都市・新居浜の生い立ちと日本の近代産業の歩みをたどることが  
できる施設です。

たてもの ふね つく たてもの どう  
建物は船をイメージして造られています。建物からそびえる塔は、  
げんだい ぼうえんろう よ せんすいかん せんぼうきょう しく りよう  
「現代の望煙楼」と呼ばれ、潜水艦の潜望鏡のような仕組みを利用して、  
みなみ やまやま きた にはましがいち ひろちなだ のぞ  
南の山々と北の新居浜市街地と 燧灘を望むことができます。

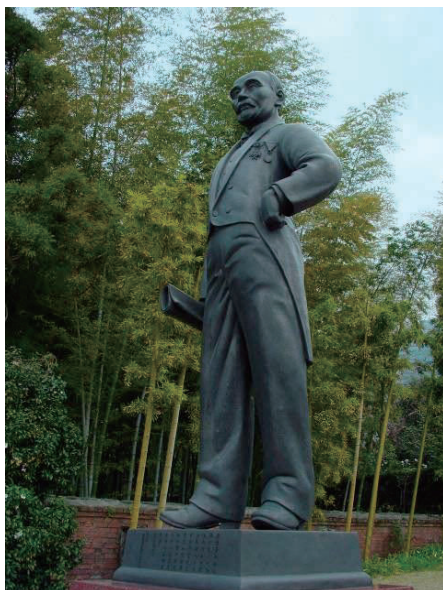
きねんかん い ぐち さいへい どうぞう せっち さいへい こきいわ  
記念館入り口には、宰平の銅像が設置されています。宰平の古希祝いと  
すみともけ どうきょうびじゆつがっこう いらい たかむらこうらん せいさく  
して住友家が東京美術学校に依頼、高村光雲によって制作されました。  
しょうわ ねん せんじきょうしゆつ のち はっけん こうらん きがた  
昭和18年(1943)に戦時供出されましたが、後に発見された光雲の木型  
もと へいせい ねん はる どうきょうげいじゆつたいがく ふくげん  
を基に平成15年(2003)春に東京芸術大学で復元されました。

ひろせさいへい いま にはま まち みまも  
広瀬宰平は、今も新居浜の町を見守ってくれています。  
さまざま くろう の こ にはまし こうぎょうとし はってん  
様々な苦勞を乗り越え新居浜市を工業都市へと発展させ  
おもい かん  
た想いを感じてみてください。



その入り口を抜けると日本最初の  
山岳鉱山鉄道である別子鉱山鉄道  
の切通し(1枚岩を切り開いて鉄道  
を通したところ)が原寸大で再現  
され、幸平の偉業を伝えています。

幸平の人生についてテーマごと  
に映像や実物資料、パネルを用い  
て紹介されています。採鉱・製錬  
や運搬の近代化をするなど、我が  
国の殖産興業に尽力した幸平  
の姿がここにあります。



▲ 広瀬幸平の銅像



▲ 鉱山鉄道の切通しの再現



▲ 館内の様子

住 〒792-0046 愛媛県新居浜市上原二丁目 10 番 42 号

☎ 0897-40-6333 料 個人 550 円 (18 歳未満及び高校生・大学生無料) 団体 440 円

時 9:30~17:30 (受付は17:00まで)

休 月曜日、祝日の翌日(なお日曜日を除く)、12月29日~1月3日

がくしゅう きろく  
学習の記録





▲ 旧広瀬邸母屋

和洋折衷の風情が薫る  
新居浜初の重要文化財

旧広瀬邸は、広瀬幸平の邸宅です。「別子銅山を支えた実業家の先駆的な近代和風住宅」として、平成15年（2003）5月、新居浜市初の重要文化財に指定されました。

母屋は明治10年（1877）久保田町に建設されました。その後、明治18年に移転を開始し、明治20年のとき、現在地に移転・増築されました。

明治22年には附属の新座敷と庭園が大阪の棟梁の八木甚兵衛と植木屋清兵衛によって手がけられました。

その後、大正・昭和初期にかけて南庭や中之町池（亀池）周辺を整備して現在の姿になりました。

邸内には、ガラス、避雷針、洋式トイレ、暖炉など、西洋からの輸入品を見ることができます。吹きガラスの中には気泡が入っています。

また、これらと和風建築が見事に調和しています。



望煙楼からは、新居浜市街地や遠くは広島県まで眺望  
することができ、絶景のスポットです。春には桜のじゅ  
たん越しに景色も展望できますよ。





かい ぼうえんろう にいはましがい ちょうぼう  
▲ 2階の望煙楼から新居浜市街を眺望



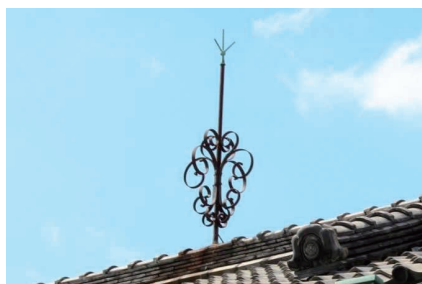
ようしき  
▲ 洋式トイレ



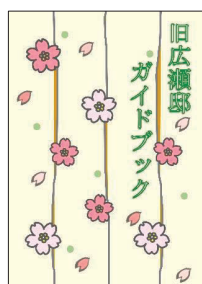
しんざしき  
▲ 新座敷



ちや ま ほ だんろ  
▲ 茶の間 掘りごたつと暖炉



ひらいしん  
▲ 避雷針



きゆうひろせいでい  
▲ 旧広瀬邸ガイドブック  
ぶせいさく  
(ユネスコ部制作)



がくしゅう きろく  
学習の記録

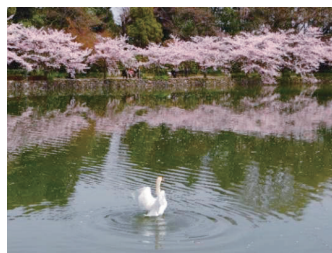


▲ 内庭  
うちにわ

きゆうひろせ していえん      べっしかいこう      ねんさい      あ      ひろせさいへい  
旧 広瀬氏庭園は、別子開坑200年祭に合わせて広瀬幸平と  
ちようなん      まんせい      せいび      しょうわ      ねん  
その長 男の満正によって整備されました。また、昭和43年  
えひめけん      めいしよう      してい  
(1968)に愛媛県の名勝に指定されました。

きゆうひろせ していえん      げいひんくうかん      うちにわ      しゆくさいくうかん      かめいけしゆうへん  
旧 広瀬氏庭園は、迎賓空間の内庭、祝祭空間の亀池周辺、  
さいし      けんしょうくうかん      なんてい      じつぎょうか      もっと      そうまき  
祭祀・顕彰空間の南庭からなっています。実業家による最も早期の  
きんだいていえん      ちほう      ていえんぶんか      はってん      しめ      じゆうようせい      ひょうか  
近代庭園の1つで、地方の庭園文化の発展を示す重要性が評価され、  
へいせい      ねん      がつ      くに      めいしよう      してい  
平成30年(2018)2月に国の名勝に指定されました。

めいじ      ねん      さいへい      おうべいし      さつ      み  
明治22年(1889)、幸平が欧米視察で見た  
しゆう      こうえん      べっしかいこう      ねんさい  
主要な公園をヒントに別子開坑200年祭の  
ゆうらんば      あと      すみともこうえん  
遊覧場をつくり、その後に住友公園として  
いっぽんこうかい      も      めいじ      ねん  
一般公開しました。それを模して明治31年、  
かめいけしゆうへん      こ      まいわ      かいじょう      せいび  
亀池周辺を古希祝いの会場として整備さ  
ひろせ      こうえん      たんじょう  
れ、広瀬公園が誕生しました。



▲ 亀池  
かめいけ

邸宅と庭園がダブル指定になった  
おもてなしの心

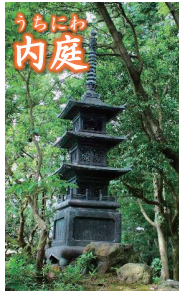


めいじ      ねん      なかのしま      おおさか      しはつ      とし      こうえん      せつち  
明治24年に中之島に大阪市初の都市公園が設置されました。  
このころに新居浜にも公園が造られていました。新居浜の文化  
には      ま      こうえん      つく      には      ま      ぶんか  
は大阪と同じレベルにあったんですね。

めいじ ねん さいへい ち やしき せいちゃこうじょう た めいじ ねん ほんてい  
 明治10年に宰平はこの地に屋敷と製茶工場を建て、明治18年に本邸の  
 いちく 移築をはじめ、明治20年に母屋ができました。

めいじ ねん がつ めいじ ねん おもや  
 明治22年4月には、大阪の住友家出入りの大工棟梁・八木甚兵衛によ  
 る新座敷と植木屋・武田清兵衛による内庭が完成し、翌年5月の別子開坑  
 200年祭では迎賓館として利用されました。

ご ひろせてい かめいけしゅうへん なんてい かくちょう げんざい きゅうひろせ していえん  
 その後、広瀬邸は亀池周辺、南庭へと拡張され、現在の旧広瀬氏庭園  
 となっています。



りょうりゅうとう めいじ ねん どうせいさんじゅう どう  
 凌雲塔は、明治20年につくられた銅製三重の塔で、  
 めいじ ねん げんざい ばしよ せつち  
 明治21年に現在の場所に設置されました。また、この  
 さんじゅう とう にいはま じゅがくしゃ ゆうめい えんどうせきざん  
 三重の塔には、新居浜の儒学者で有名な遠藤石山から  
 おく ぶん  
 贈られた文がぎざまれています。

りょうりゅうとう  
 ◀ 凌雲塔

せいけんどう たいしゅう ねん かんせい じ  
 靖献堂は、大正11年(1922)に完成した持  
 ぶつどう たいしゅう ねん かいどうしき おこな  
 仏堂で、大正13年に開堂式が行われまし  
 た。ここには ひろせ け てんのう け すみとも け  
 先祖が祀られていました。現在、瑞応寺に  
 せんぞ まつ げんざい ずいおう じ  
 御位牌があります。

せいけんどう  
 ▶ 靖献堂



なんてい  
 南庭



けいげんぶんこ たいしゅう ねん かんせい  
 馨原文庫は、大正12年に完成しました。  
 どくしょ つよ すず まんせい ちいき ひと  
 読書を強く勧めていた満正が、地域の人に  
 ちしき つ  
 知識を付けてもらいたいとつくった  
 としょかん しせつ  
 図書館のような施設です。

けいげんぶんこ  
 ▶ 馨原文庫

がくしゅう きろく  
 学習の記録







▲ 新居浜選鉱場跡

とうよういち  
東洋一の

しわ  
仕分け人

に い はません こうじょう どう せいぶん すく こうせき ていひんい こうせき ひんこう  
新居浜選鉱場は、銅の成分が少ない鉱石(低品位の鉱石・貧鉱)からも  
せいれん  
製錬できるようにつくられた施設です。大正14年(1925)4月に完成しま  
した。現在は役割を終えて撤収されています。

べっしどうざん さいくつば かほう む こうせき ていひんい  
別子銅山では、採掘場が下方に向かうにつれ、鉱石が低品位となってい  
ったので、このような施設をつくりました。費用は当時約135万円、現在  
だと30億円以上に相当するそうです。

たいしやう わん がつ せんこう そうぎやう ごり か どうなる せんこうじやう  
大正15年9月には、選鉱の操業を合理化するために東平の選鉱場も  
この場所へ移されてきました。このような取組から1日当たりの選鉱量  
を900tに増強することができ、別子銅山に大きく貢献しました。



とうじもつと すす せんこうほうほう に い  
これは、当時最も進んだ選鉱方法だったため、新居  
はませんこうじやう  
浜選鉱場は“東洋一の選鉱場”と呼ばれていました。



かどうじ にいはませんこうじょう  
▲ 稼働時の新居浜選鉱場

また、新居浜選鉱場では、他の選鉱場とは違い「浮遊選鉱」と呼ばれる方法を導入しています。はじめに鉱石に混じった金属ごみなどを電磁石で取り除きます。

次に、専用の機械に鉱石と鉄の玉を一緒に入れて回転させてかき混ぜることで鉱石を砕き、微粒子状にします。

最後に、泡を発生させる液体と油を加えた水に入れてかき混ぜます。すると、泡に銅の微粒子が付着し、銅を回収します。

ちょうど、体を洗う際に、汚れが石鹸の泡に付着するのと同じ原理です。鉱物の中には、泡に付着しやすいもの、そうでないものがあるため、分離させることができました。

がくしゅう きろく  
学習の記録





ほしごええきしゃ  
▲ 星越駅舎

ほしごええきしゃ べっしこうざんてつどう かぶせん かぶてつどう えきしゃ  
星越駅舎は、別子鉱山鉄道下部線(下部鉄道)の駅舎です。  
にいほませんこうじょう たいしやう わん つく  
新居浜選鉱場をつくるのにもない大正14年(1925)に造られました。

えきしゃ やね ぶぶん ほどこ  
駅舎の屋根の部分には、イゲタマークをあしらったデザインが施され、先人のウィットさを感じます。

しょうわ ねん がつ やまだしやく  
昭和4年(1929)11月に山田社宅の  
けんせつかいし あ かぶてつどうせん  
建設開始に合わせて、下部鉄道線が  
こうせきうんぱん せんようてつどう いっぱん ひと  
鉱石運搬などの専用鉄道から一般の人  
りやう ちほうてつどう  
たちも利用できる地方鉄道になりました。  
ほしごええき やまだしやく げんかんぐち  
た。星越駅は山田社宅の玄関口となり、  
にいほま つうきんぞく たんじやう  
新居浜に通勤族が誕生しました。



かいしゆうまえ ほしごええきしゃ  
▲ 改修前の星越駅舎

たいしやう  
大正のスター  
時を越えて  
現在甦る

ほしごええきしゃ かぶてつどう ゆいいつのこ えきしゃ  
星越駅舎は、下部鉄道で唯一残っている駅舎です。また、  
へいせい ねん しゆうふくこうじ おこな とうじ すがた  
平成24年(2012)に修復工事が行われ、当時の姿がよみが  
えり、たいしやうき おもむき つた  
えり、大正期のモダンな趣を伝えてくれています。







▲ 星越隧道

星越駅から西へ 200m行くと星越隧道があります。長さ 110m、高さ 3.9m、幅3.66mです。下部鉄道のトンネルとして明治37年(1904)につくられました。星越山を抜けて惣開へ物資運搬を行うための重要なトンネルです。

明治26年の下部鉄道開通時は、トンネルは無く、星越山を登っていましたが、急勾配のため、時々列車が登りきらず、滝の宮辺りで連絡の鉱車(鉱石を乗せる車両)を半分に切り離して山越えをし、また引き返して残りを引いたという逸話も残っています。

下部鉄道は、明治24年5月着工、明治26年5月に惣開(起点)～打除(終点)の間10,461mが開通しました。この鉄道建設の指揮をとったのは広瀬率平です。

学習の記録





げんたい  
現代のレトロタウン  
にいはいはまくつし  
新居浜屈指の高級社宅街  
こうきゆうしゃたくがい

▲ やまだしゃたく へいせい ねん きつえい  
山田社宅 平成17年(2005)撮影

やまだしゃたく しょうわ ねん けんせつ にいはいはまくつし こうきゆう  
山田社宅は、昭和4年(1929)から建設されはじめた新居浜屈指の高級  
しゃたくがい さいせいき には、1,000人もの人たちが住んでいました。

けんせつまえ たいしょう ねん がつ にいはいませんこうじょう  
しかし、建設前の大正14年(1925)4月に新居浜選鉱場ができたころ  
あた いちめん しつちたい しつでん  
は、辺り一面は湿地帯と湿田でした。

しょうわ ねん わしお か げ じ としけいかく いっかん か ぶでつどうえんせん ほしごえ  
昭和2年、鷲尾勘解治は都市計画の一環として下部鉄道沿線の星越に  
かいしゃかんぶよう しゃたく けんせつ にいはいませんこうじょう はいきぶつ  
会社幹部用の社宅を建設することにしました。新居浜選鉱場の廃棄物  
である「尾鉱」と呼ばれる選鉱カスで埋め立て、社員の休日を利用した  
ほうしきぎょう さむ ぞうせい こほど い がき かこ にわつ しゃたく  
奉仕作業「作務」で造成し、250戸程の生け垣で囲まれた庭付き社宅を  
けんせつ がいいくじんぎじゆつしゃ ようかん せいようしゃたく むねた  
建設しました。また、外国人技術者のために洋館(西洋社宅)も2棟建て  
ました。



やまだ じょう えひめけんない じょう ばんめ ふる  
山田ゴルフ場は、愛媛県内のゴルフ場で2番目に古く、  
いま げんえき しょう  
今も現役で使用されています。



すみともきんぞくこうざんしよちょうたく  
▲ 住友金属鉱山所長宅



すみともきようどうでんりよくかんぶしやたく  
▲ 住友共同電力幹部社宅

げんざい たても の ほとん ど は 取り壊 されま した が、 に いは まし きぞう  
 現在、建物のほとんどは取り壊されましたが、新居浜市に寄贈された  
 きゆうすみともこうぎようかぶしきがいはしゃべっしこうぎようしよちょうたく おもや おうせつとう ちゃしつ  
 旧住友鉱業株式会社別子鉱業所長宅の母屋・応接棟・茶室や、  
 きゆうすみともかがくこうぎようかぶしきがいはしゃかんぶしやたく きゆうすみともべっしこうざんかぶしきがいはしゃがいこくじん  
 旧住友化学工業株式会社幹部社宅、旧住友別子鉱山株式会社外国人  
 ぎしにしやたく ひがししやたく きゆうすみともきようどうでんりよくかぶしきがいはしゃかんぶしやたく かんさやくしやたく  
 技師西社宅・東社宅、旧住友共同電力株式会社幹部社宅・監査役社宅  
 むね けん れいわ ねん どうろくゆうけいぶんかざい どうろく  
 などの6棟8件が令和2年(2020)登録有形文化財に登録されました。



せいようしやたく がいこくじんぎじゆつしやせんよう  
▲ 西洋社宅 (外国人技術者専用)



やまだ じょう  
▲ 山田ゴルフ場

がくしゆう きろく  
学習の記録







▲ ほしごえかん きゆうすみともくらぶ  
星越館（旧住友倶楽部）

すみともくらぶ すみともかんれんきぎょう ふくりこうせいしせつ  
住友倶楽部は住友関連企業の福利厚生施設として  
しょうわねん  
昭和12年(1937)にオープンしました。

コミュニケーション及び迎賓館的な場として活用されました。  
その利用者は住友の社員と家族など関係者に限られており、厳格な  
れいぎさほうきび  
礼儀作法が厳しく言われてきました。

しょくじ だんわ かいぎ どくしょ いご りはつ しせつ ととの おも  
食事・談話・会議・読書・囲碁・理髪などの施設が整っており、主に  
ひるま りよう すみとも しやいん かぞく かんけいしや かぎ  
昼間に利用されていました。更に、出張してくる役員や社員などのこ  
とも考慮し会食メニューには吟味されたフランス料理などが出されて  
いました。ひろ まえにわ めん わね から くるまよ のきさき ふ お  
広い前庭に面し、棟から車寄せの軒先まで葺き落とされた  
おおやね  
大屋根はいかにもおおらかでクラブハウスらしいゆとりと風格が感じ  
られます。へいせい ねん どうぼん ふ か  
平成21年(2009)に銅板に葺き替えられました。

モダンな風情を彩る  
昭和の迎賓館



ふる れきし ゆう きんだいにほん めいけんちく にいはま  
古い歴史を有し、近代日本の名建築として新居浜でも  
おしゃれな洋風の建物の一つです。



▲ ステンドグラス



▲ 旧大ホール



▲ 藤棚のテラス

ないぶ はい みぎがわ おお  
内部に入ると右側に大きなステンドグラスがはめ込まれており、やわらかい色彩とデザインが訪問者を歓迎してくれます。

ひろ とうしょ おうせつま か  
広いホールは当初、応接間を兼ねて社交室と大食堂の2室に設計されていましたが、1室にして使用することも考えていたようです。全体は平天井で覆いながら社交室の一部を吹きぬくなど、むしろ大広間にふさわしい天井構成となっています。

たか やく おお  
また、高さが約2.7mもある大きな開口部を介して藤棚のテラス越しに広い庭園が見られるようになっています。

しょうわ ねん しつか とうしょ  
なお、昭和29年の失火により、当初あった2階の部分は取り除かれています。

へいせい ねん がつついたち ほし  
また、平成22年4月1日からは「星越館」として社員教育を中心にした各種会合にも利用できる多目的研修施設としてリニューアルされました。管理人は住友金属鉱山株式会社です。

## がくしゅう きろく 学習の記録





に  
い  
は  
ま  
し  
み  
ん  
の  
ち  
し  
き  
の  
げん  
せん  
新居浜市民の  
知識の源泉

▲ としよかん  
図書館

べっしどうざんきねんとしよかん にいはましりつとしよかん ほんかん べっしどうざんかいこう ねん  
別子銅山記念図書館(新居浜市立図書館・本館)は、別子銅山開坑300年  
を記念し、住友グループから寄贈を受け、平成4年(1992)に開館しまし  
た。蔵書数は32万冊です。別子銅山に関する資料が豊富に所蔵されたま  
ちの宝箱です。

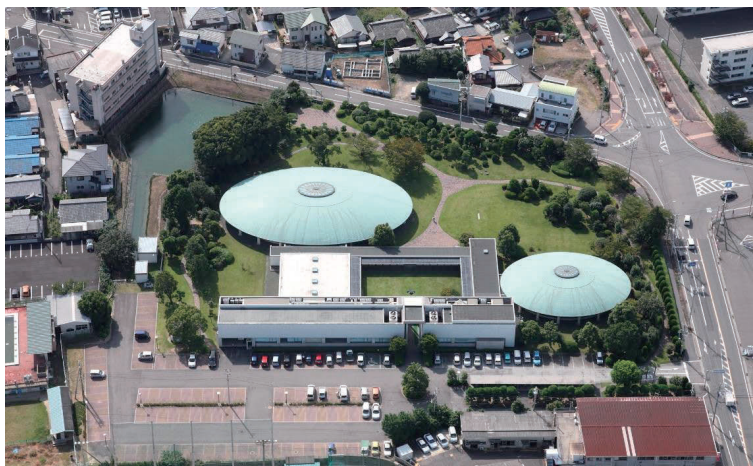
かい かしつ たもくてき やね だえんけい かたち とく  
開架室と多目的ホールの屋根は楕円形のドームの形をしていて、特  
徴的な造りとなっています。図書館の窓際側には閲覧机があり、庭の  
緑を楽しみながら読書を行うことができます。また、AV資料を視聴でき  
るブースも設けています。入り口正面では、別子銅山コーナーが迎えてく  
れます。そして、入り口左側には、レファレンスコーナーと新聞閲覧コー  
ナーがあり、参考資料や郷土関係資料、地図、新聞、住友関係資料など  
があります。

たもくてき こうざ もよお りよう  
多目的ホールは、講座やさまざまな催しに利用されています。

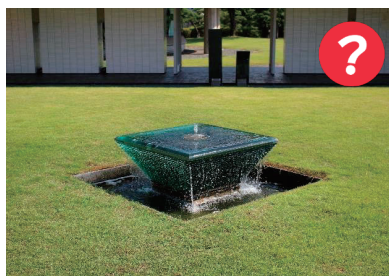


なかにわ ふんすい なん かたち あらわ  
中庭にある噴水は、何の形を表しているでしょうか？  
ヒント 新居浜太鼓祭り





▲ 図書館全景 新居浜市所蔵



▲ 「泉屋」を象徴する噴水

この図書館の敷地内には、かつて「泉寿亭」という宿泊所に接待館を併設した純和風建築の建物がありました。そのときの庭園の樹木、玄関の踏み石と柄石（柱の土台になる石）が今も南側の庭に残されています。

図書館と多目的ホールを結ぶ中庭には「カラミ」のタイルが使われた回廊が巡らされていて、庭の中央には住友の屋号である「泉屋」を象徴するガラスの噴水があります。

別子銅山を象徴する“こだわり”に出逢うことができます。

住 〒 792-0004 愛媛県新居浜市北新町 10 番 1 号

☎ 0897-32-1911

時 火～土 9:00～19:00 日・祝日 9:00～17:00

休 月曜日、館内整理日（毎月月末）、年末年始、特別整理期間

がくしゅう きろく  
学習の記録






はっ  
そう  
癡  
想  
の  
転  
換  
てん  
かん  
あ  
悪  
し  
き  
も  
の  
を  
味  
方  
に  
み  
か  
た

すみともかがくれきししりょうかん  
▲ 住友化学株式会社愛媛工場歴史資料館

すみともかがくれきししりょうかん  
住友化学株式会社愛媛工場歴史資料館は、住友化学の変遷の中で  
せんじんくろうよろこかんすみともかがくあゆすがたおおかたし  
先人の苦勞と喜びを感じ、住友化学が歩んできた姿を多くの方に知っ  
てもらおうための施設です。

げんざいしりょうかんりょうたてものすみともぎんこうめいじねん  
現在、資料館として利用されている建物は、住友銀行として明治34年  
(1901)9月に新居浜出張所から新居浜支店に昇格したところに建てら  
れました。そのことから、重厚でレンガ造りの金庫室が設置されてい  
ます。

かんないとうじどうぐしゃんてんじすみともかがくあゆ  
館内には、当時の道具や写真、パネルなどが展示され住友化学の歩み  
を具体的に学ぶことができます。また、がいこくじんぎじゆつしゃしりょう  
外国人技術者が使用していた  
じてんしゃあいようしきでんわきでんじ  
自転車や愛用のピアノ、さらにはダイヤル式電話機などが展示されてお  
り、昔ながらの歴史も肌で感じることができます。



のうまくもつひがいあたありゆうさん  
農作物に被害を与えた亜硫酸ガスを農作物を育てる  
のうまくもつそだ  
ひりょうかせんじんちえどりよくのうこうへいしん  
肥料に変えた先人の知恵と努力の「農工併進」のドラマ  
たいかん  
を体感できます。



めいじ ねんさつえい  
**明治34年撮影** ▶  
 すみともしりょうかんしよどう  
**住友史料館所蔵**

べっしどうざん どうこうせき せいれん さい はっせい ありゆうさん つく  
 別子銅山の銅鉱石を製錬する際に発生する亜硫酸ガスから作られた  
 りゆうさん かりんさんせつかい せいせい せいこう せいぞう もくてき  
 硫酸と過磷酸石灰の生成に成功しました。そして、これらの製造を目的  
 に ちよくえい ひりょうじぎょう かいし りゆうさん かりんさんせつかいひりょう はじ  
 直営の肥料事業として開始しました。硫酸や過磷酸石灰肥料を初め  
 て製品として出荷したのは、大正4年(1915)のことでした。

ご たいしやう ねん かぶしがいいしやすみともひりょうせいぞうしよ どりつ あたら  
 その後、大正14年に株式会社住友肥料製造所として独立し、新しく  
 ほっそく せいひん しゅつか たいしやう ねん すみともかがかぶしがいいしや はじ  
 発足しました。このことが、住友化学株式会社の始まりです。

へいせい ねん がつ さいこきゆう ようかん とうろくゆうけいぶんかざい とうろく  
 平成13年(2001)5月に最古級の洋館として登録有形文化財に登録され  
 ました。

**住** 〒792-0001 愛媛県新居浜市惣開町5番1号

**☎** 0897-37-1711

**時** 9:00~16:00

**休** 毎週土曜日・日曜日・祝日

**※ご利用の方は事前にご連絡ください。**



かんない ようす  
 ▲ 館内の様子

がくしゅう きろく  
**学習の記録**







そうびらき の き  
総開之記

先人が開いた  
日本版！産業革命発祥の地

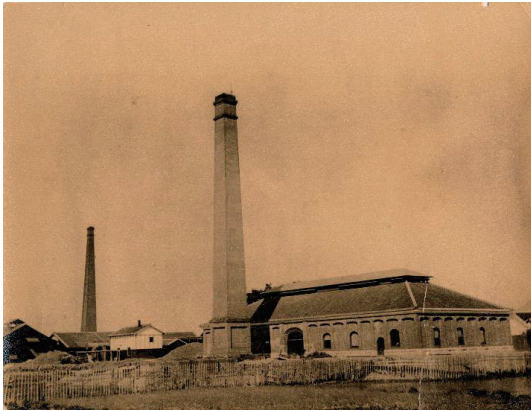
そうびらき の き このち みなみこうざん お きたかいわんの のぞ もっと せんしや べん  
総開之記には「是地や南鉦山を負ひ、北海湾に臨み、最も舟車に便  
なり」と工場群誕生の由来が刻まれています。明治23年(1890)別子開坑  
こうじょうぐんたんじょう ゆらい きざ めいじ ねん べっしかいこう  
ねん きねん ひろせさいへい こんりゆう  
200年を記念して、広瀬幸平が建立しました。

きぶん ぶんしょう さいへい しよ えどまつき ばくしん たかはでいしゅう  
記文の文章は幸平がつくり、書は江戸末期の幕臣である高橋泥舟による  
ものです。

そうびらき ちく さきだ めいじ ねん がつ しおのものすけ そうびらき せいれんしよ  
惣開地区はこれに先立ち、明治15年12月に塩野門之助が惣開の製錬所  
せつりつねが い しゆつがん めいじ ねん がつ せいふ きよかしよう はつこう  
の設立願を出願し、明治17年5月に政府より許可証が発行されました。  
せいれんしよ きよかしよう こうとにい はま しゆつしやうしやうめいしよ すみとも じぎょう  
この製錬所の許可証は工都新居浜の出生証明書であり、住友の事業が  
かくしゆじぎょう はせい  
各種事業へと派生していくきっかけとなりました。

にほん きんぎやうかくめいはつしやう ち に い は ま し はつてん めい  
日本の産業革命発祥の地ともいえる新居浜市の発展を明  
治時代に予言していた広瀬幸平のすごさを実感できる場所  
ですわ。





1910年撮影  
 惣開製錬所  
 明治23年撮影  
 別子銅山記念館所蔵

明治21年、近代的な洋式製錬所となる惣開製錬所がつけられました。  
 11月から操業を始め、明治元年に421tあった産銅高が、明治13年で  
 1,010t、惣開製錬所建設2年後の明治23年に2,025tと約10年で倍増し  
 ました。そして、明治28年には3,232tと3,000tの大台に乗り、一農  
 漁村であった新居浜は煙突が林立する臨海工業都市へと変貌しまし  
 た。

新居浜は鉾山町から工業都市へと発展し、昭和33年(1958)には我が  
 国初の石油コンビナートの火が灯りました。別子銅山を母として、さま  
 ざまな産業が生み出されました。新居浜市は日本の産業革命発祥の  
 地ともいえます。幸平はまさしく、工都新居浜の発展を予言したのです。



また、別子開坑200年を記念し  
 て、明治33年に住友家は皇居前  
 広場に別子銅山の銅で作った鎌倉  
 時代末期の武将・楠木正成の銅像  
 を献納しました。この銅像は台座  
 を合わせると8mになります。

皇居前の楠木正成銅像

がくしゅう きらく  
 学習の記録



そうびらきのき ひぶん いやく  
 総開之記 碑文・意識



これから残のこしていききたい  
共き存ぞん共き栄えいのシンボル

▲ 武徳殿

武徳殿は、剣道場と柔道場を兼ね備えた、市民から  
長年愛され続けている現役の武道場です。

昭和12年(1937)11月3日、新居浜町・金子村・高津村の一町二村の  
合併により新居浜市ができました。その翌年の11月12日に、新居浜市に  
おける「武道奨励」・「武徳高揚」を願い、上棟式が行われました。

建設総工費は、3万6,406円32銭。この費用は、初代新居浜市長・白石  
誉二郎の旧町からの功労金と住友家からの寄付によるものです。

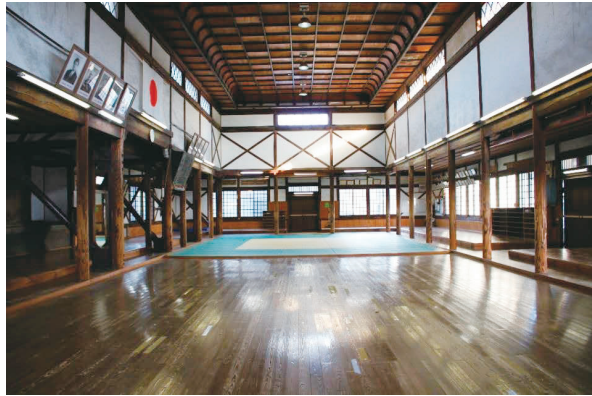
武徳殿は、明治32年(1899)に建設された京都の武徳殿を参考につくら  
れたとされています。建設当時から現在まで武道場として使用してい  
るのは新居浜市と京都市の2か所だけです。

武徳殿は、平成16年(2004)3月に登録有形文化財に登録されました。



初代新居浜市長・白石誉二郎の思いがたくさん詰まった  
場所です。威厳のある外観を持ち、市街地にあるため気軽に  
訪れられる場所なので、一度足を運んでみてください。





ぶとくでん ないぶ  
武徳殿の内部 ▶

ぶとくでん そうたてつぽ つぽ ごう なか じょう けんどうじょう  
 武徳殿の総建坪は、161坪7合(534.54 m<sup>2</sup>)です。中は、50 畳の剣道場・  
 じゅうどうじょう  
 柔道場があります。たても の もくぞうひら やだて おも や ね きりまづく ほん ふ  
 建物 は、木造平屋建で、主屋根は切妻造り(本を伏  
 せたような形の屋根)、正面中央には千鳥破風がつけられており、  
 いりおもやづくり くまよせ いりぐち ぶ あわ でんとうてき じんじやけんちく ようそ もと 取り い  
 入母屋造の車寄(入口)と併せて伝統的な神社建築の要素も取り入れ  
 た、質実剛健な風格があります。ちどり は ふ そうしよく かんき にっこう と  
 千鳥破風とは、装飾・換気・日光を取り  
 入れる もくてき や ね なが めん につくられた やまがた と 取り つけ  
 られた いた の こと を 言 い ます。また、ガラスの高窓などには、近代和風住宅  
 の ようそ も 取り 入れ ら れ ま し た。



ぶとくでん しょうめん  
 ◀ 武徳殿の正面  
 ちどり は ふ  
 千鳥破風

がくしゅう きろく  
 学習の記録





げんざい しょうわどお  
▲ 現在の昭和通り



© HATSUTARO HIWASA 2021

しょうわ ねん しょうわどお  
▲ 昭和28年の昭和通り  
ひ わ き はつたろう さつえい  
日 和 佐 初 太 郎 撮 影

しょうわどお にはま  
昭和通りは、新居浜の  
ちゅうしんしょうてんが い おおどお  
中心商店街の大通りで  
しょうわじだい  
す。昭和時代につくられ

た道ということから「昭和通り」と  
なつ しょうわどお  
名付けられました。鷺尾勲解治が  
わしお かげじ  
提唱した新居浜の後栄策の1つ「都  
ていしょう にはま こうえいさく と  
市計画を樹立し、幹線道路を整備す  
しけいかく じゆりつ かんせんどうろ せいび  
る。」という考えをもとに計画を進  
かんが けいかく すず  
めました。

とうじ しゅうらく すいでん  
当時は、わずかな集落と水田だ  
げの場所以幅約15mの道路が計画さ  
ぼしよ はばやく どうろ けいかく  
れましたが、広すぎるとして、約11m  
ひろ やく  
に縮小しました。そして、昭和6年  
しゆくしょう しょうわ ねん  
(1931)6月に完成しました。(同年7  
がつ かんせい どうねん  
月に開通式が行われた)

きょうぞん きょうえい  
共存共栄の精神で描いた  
せいしん えが  
ESDストリート



がつ にはまなつまつ おお ひと  
8月の新居浜夏祭りでは多くの人でにぎわいます。  
おとす  
ぜひ訪れてみてください！



▲ しょうわはし  
昭和橋



▲ しんこうはし  
申孝橋



▲ きょうぞんはし  
共存橋



▲ きょうえいはし  
共栄橋



▲ しょだい きょうぞん きょうえいはし きょうちゆう  
初代の共存・共栄橋の橋柱  
わしおかげじけんしょうきねんばてんじ  
(鷲尾勘解治顕彰記念の場に展示)

その昭和通りには「昭和橋」「申孝橋」「共存橋」「共栄橋」の4つの橋が架かっています。「共存橋」「共栄橋」は企業と地域社会の「共存共栄」という理念をもとに名付けられました。また、その考えにうそ、偽りがないと意思表示として昭和橋の北の小橋を「申孝橋」と名付けました。申孝とは、ただきよらかな心、私心のないことを意味しています。

がくしゅう きろく  
学習の記録







▲ わしお かげ じけんしやう きねん ば  
鷺尾勸解治顕彰記念の場

鷺尾の塾き思いを  
今も受け継ぐ

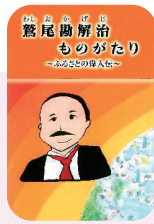
じきやうしや たいしやうがんねん きやうべっし ふ る やだに もと びやういん か  
自彊舎は、大正元年(1912)に旧 別子の風呂屋谷の元の 病院を借り  
う 受け、 わしお かげ じ しじゆく は じ  
受け、鷺尾勸解治がつくった私塾から始まりました。

わしお じゆくをつくるために、 じしん こうないきぎやう がくせいだいい ぜん しゆぎやうけい  
鷺尾は塾をつくるために、自身の坑内作業や学生時代の禅の修行経  
けん い せいねんこう ふ きやういく はか すずき まさや りやうしやう  
験を活かして、青年坑夫の教育を図りたいと、鈴木馬左也に了承  
え 得ました。自彊舎の命名は、鈴木によるものです。

たいしやう ねん さいこうほん ぶ きやうべっし どうえん どうなる うつ じきやうしや  
大正5年、採鉱本部が旧 別子の東延から東平へ移ったため、自彊舎も  
くれき いてん ごと いち じへいさ たいしやう ねん がつ  
呉木へ移転しました。その後、一時閉鎖もありましたが、大正15年11月  
には別子鉱業所の施設として再開され、川口新田(現在の角野新田 町)  
ほんじゆく どうなる し さかじま しじゆく せつち じゆくせい しんしよく とも  
に本塾が、東平、四阪島に支塾が設置されました。塾生は寝食を共に  
し、塾から出勤、退勤後は自習し、静座などをして過ごしていました。  
しやうわ ねん しゆうせん そんぞく  
昭和20年(1945)の終戦まで存続しました。



にい は ま み な み こう こう わしお かげ じ ほん かみしばい  
新居浜南高校では、鷺尾勸解治の本や紙芝居  
さくせい かた っ かつどう  
を作成し、語り継ぐ活動をしています。





▲ 鷺尾の胸像



▲ ありし日の自彊舎 平成25年12月に解体

その後、鷺尾は一度新居浜を離れましたが、昭和28年に再び新居浜へ招かれ、定住することになりました。菊本町に自彊舎が建てられて、講演や研修活動を中心に自彊舎活動が展開されました。

鷺尾逝去後、その業績を顕彰するため「社団法人 自彊舎記念会」を設立し、平成26年(2014)からは「自彊舎益友会」として現在も活動を続けています。

自彊舎跡には平成27年3月18日に、鷺尾を顕彰する場がつけられました。ここには、鷺尾の胸像、伊予の青石の記念碑が設置され、共存・共栄橋の橋柱も移設されました。



▲ 記念碑

### 学習の記録



鷺尾勲解治ものがたり



▲ 新居浜港

新居浜港は、明治8年(1875)に御代島南の船の発着場整備に着工したことから始まりました。

昭和2年(1927)、鷲尾勘解治によって別子銅山の鉱量は残り17年であることが分かり、別子銅山から銅が採れなくなってしまったも、お世話になった新居浜市が衰退してしまわないよう、以下の「地方後栄策」を発表しました。

- ① 新居浜港の築港
- ② 沿岸埋立による工場敷地の取得
- ③ 化学工場の拡張
- ④ 機械工業の起業
- ⑤ 共存・共栄の涵養

昭和4年、住友別子鉱山株式会社は新居浜築港の埋立免許を出願、翌年に政府から了承を受け、昭和8年に工事に着手し、昭和14年に新居浜港が完成しました。

日本初!  
石油コンビナートの火が灯る

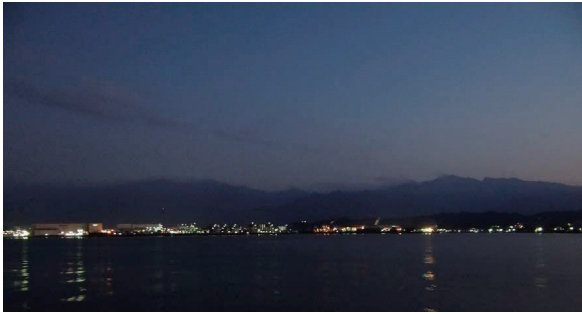


新居浜港にある石油コンビナートは、昭和33年に日本で初めて火が灯りました。





▲ に い は ま こ う ほ ん こ う ち く 新居浜港(本港地区) に い は ま し し ょ ぞ う 新居浜市所蔵



◀ に い は ま こ う や け い 新居浜港夜景

その後、新居浜港は工業港湾としての重要性が認識され、戦後、貿易が再開されて間もない昭和23年に貿易港に指定、日本を代表する港湾となりました。

また、昭和26年には重要港湾に指定され、昭和28年には新居浜港務局が設立、それまでの住友企業による管理運営から公共的な管理運営へと変わり、近代港湾への体制を整えました。

がくしゅう きろく  
学習の記録





くちや まつ  
▲ 口屋あかがねの松

別子の銅山から  
世界へ羽ばたく  
銅の道  
カッパーロード

に い は ま く ち や べっしきんちゆう せいれん そどう じゆんどやく おおさか おく  
新居浜口屋は、別子山中で製錬された粗銅（純度約90%）を大阪へ送るた  
めの玄関口となる場所です。元禄15年（1702）8月に開設されました。

に い は ま く ち や かいせつつ まえ べっしきんちゆう てんまうら しこくちゆうおうし ど い  
新居浜口屋が開設される前は、別子山中から天満浦（四国 中央市土居  
町）まで長さ約35kmを運搬していました。

に い は ま く ち や おく そどう おおさか ながほりふきしよ せいれんしよ めいじ ねん  
新居浜口屋から送られた粗銅は、大阪の長堀吹所（精錬所：明治5年、  
ちようめいへんこう うなぎだにふきしよ せいどう じゆんどやく ながさきぼうえきよう  
町名変更により鰻谷吹所）で精銅（純度約99.9%）にされ、長崎貿易用と  
国内販売用に製品化されました。

とく ながさきぼうえき りよう どう わり すみとも おお  
特に長崎貿易で利用されていた銅の4割が住友によるもので、その多く  
が別子銅山で採れた銅でした。輸出されていた銅は運びやすいように  
ぼうじよう さおどう か こう べっしどうざん どう がいこく こうえき おお  
棒状の棹銅に加工されていました。別子銅山の銅は外国との交易を大き  
く支え、世界へと飛び出していました。



かんない どうじ に い は ま く ち や さいげん せいこう もけい  
館内には当時の新居浜口屋を再現した精巧な模型が  
てんじ  
展示されています。



にはまくちや  
 ◀ **新居浜口屋**  
 めいじ ねん すみともしりょうかんぞう  
 明治14年 住友史料館蔵

にはまくちやかいせつ よくとし げんろく ねん  
 新居浜口屋開設の翌年、元禄16年  
 がつ どうざんご たつかわなかじゆく  
 10月、銅山越えから立川中宿を  
 けいゆ ぜんたい なが やく  
 經由する全体の長さ約16kmの  
 にはまどう かいつう  
 新居浜道が開通しました。

うんばんほうほう べっしさんちゆう たつかわなかじゆく やく なかも  
 運搬方法は、別子山中から立川中宿までの約10kmを仲持ちによる  
 じんりき たつかわなかじゆく にはまくちや やく ぎゆう ばしや おこな  
 人力、立川中宿から新居浜口屋までの約6kmを牛・馬車で行いました。

にはまくちや べっしさんちゆう うんばんどう のぼりみち よ めいじ ねん  
 新居浜口屋から別子山中への運搬道は「登道」と呼ばれ、明治26年  
 (1893)の別子鉱山鉄道の開通まで、192年間、銅山～新居浜の物資輸送の  
 べっしこうざんてつどう かいつう ねんかん どうざん にはま ぶっしゆそう  
 メインルートでした。

にはま くちや かいせつ にはま おお はってん きそ  
 新居浜に口屋が開設されたことで、新居浜が大きく発展していく基礎  
 となりました。



のぼりみちしょうてんがい  
 ▲ 登道商店街

げんざい にはまくちやあと くちやあと  
 現在、新居浜口屋跡には口屋跡  
 きねんこうみんかん しきちないには  
 記念公民館があります。敷地内には  
 ねんあま じゅれい たも くちや  
 300年余りもの樹齢を保つ「口屋あ  
 かがねのまつ」があり、別子300年の  
 れきし いま ものがた へいせい  
 歴史を今に物語っています。平成29  
 ねん すみともりんぎょうかぶしがいしゃ  
 年(2017)には、住友林業株式会社  
 まつ せいいく せいこう  
 によってクローン松の生育に成功、  
 なえぎ ほん くちやあと きねんしよくじゆ  
 苗木1本を口屋跡に記念植樹しま  
 した。あかがねの証は、私たちと  
 とも い つづ  
 共に生きています。

がくしゆう きらく  
 学習の記録







燧ひうちの海中わたなか  
絶たえせぬ流ながれ

し さかじましようがっこう きょうしつ さいげん むらかみかいぞく てんじ  
▲ 四阪島小学校の教室の再現(村上海賊ミュージアムに展示)

し さかじましようがっこう めいじ ねん がつ にち しりつ し さかじまじんじょうしようがっこう  
四阪島小学校は、明治34年(1901)2月29日に私立四阪島尋常小学校  
として、吉備地区にある職員用社宅を仮校舎としてつくられました。4  
がつついたち きょういん にん じどう にん かいこう きょういん すみとも しゃいん がつ  
月1日に教員11人、児童35人で開校しました。教員は住友の社員が学  
校へ出向しました。また、明治36年4月5日、美の浦に新校舎が完成し  
ました。

さらに、めいじ ねん がつ にち み うらじょうだん しんこうしゃ かんせい  
明治40年10月13日に美の浦上段に新校舎が完成しました。  
めいじ ねん みょうじんじま ぶんきょうじょう せつりつ にか よくとしじゆきょうかいし  
明治41年に明神島に分教場の設立が認可されますが、翌年授業開始  
に至ることなく、めいじ ねん がつ にち みょうじんぶんきょうじょう ほんこう  
廃止され、明治43年4月30日に明神分教場を本校に  
いちく ぞうちく  
移築し、増築をしました。

たいしょう ねん じどうすう むか にん きろく のこ  
大正10年(1921)には児童数のピークを迎え、1,012人という記録が残  
っています。



し さかじましようがっこう べんとう も こ  
四阪島小学校では、お弁当を持ってくる子がいなかった  
そうです。ひるやす しやたく た かせ  
昼休みになると、社宅に食べに帰っていました。



▲ 当時の青春 (School Life)

しょうわ ねん がつついたち こうりつ  
昭和36年(1961)4月1日、公立に  
い かん みやくぼちょうりつ し さかじましようがっこう  
移管され宮窪町立四阪島小学校  
かいしょう がつとおか かいこうしき  
と改称し、4月10日に開校式を  
おこな  
行いました。

しょうわ ねん どうせいれん そう  
しかし、昭和51年に銅製錬の操  
ぎょうしゅうけつ しょうわ ねん がつ にち  
業 終 結 により、昭和52年3月31日  
をもって77年間の長い歴史に幕を  
お  
下ろしました。

げんざい いまばりし おおしま むらかみ  
現在、今治市の大島にある村上  
かいぞく し さかじましようがつ  
海賊ミュージアムに、四阪島小学  
こう しょう こくぼん つくえ きょう  
校で使用されていた黒板、机、教  
ざいなど てんじ とうじ おもかげ かん  
材等が展示され、当時の面影を感じ  
ることができます。



◀ 村上海賊  
ミュージアム

**住** 〒794-2203 愛媛県今治市宮窪町宮窪 1285 番地  
**☎** 0897-74-1065 **料** 一般 310円 学生 160円 団体(20人以上) 一般 250円 学生 130円  
**時** 9:00~17:00  
**休** 毎週月曜日(祝日の場合は原則翌日振替) 12月29日~1月3日まで

がくしゅう きろく  
学習の記録









▲ <sup>せま さか おお とうない みち はし</sup>狭く坂の多い島内の道を走るミゼット  
<sup>しょうわ ねん さつえい べっしどうさんきねんかんしょう</sup>昭和36年(1961)撮影 別子銅山記念館所蔵

<sup>しゃたく すいじ ば かべ あたら ひ ようじん かみ は</sup>社宅のどの炊事場の壁にも新しい“火の用心”の紙が貼られていまし  
<sup>ふゆ かじ おお きせつ かくしゅうらく まいよひょうしぎ たた ひ</sup>た。冬の火事の多い季節になると各集落ごとに毎夜拍子木を叩いて「火  
<sup>ようじん い めぐ</sup>の用心」と言いながら巡っていました。

さらに、<sup>しょうぼうし まいよしゃたく なんかい じゆんかい</sup>消防士は毎夜社宅を何回も巡回していたため、<sup>しらかじま しゃたく</sup>四阪島の社宅  
<sup>かさい はっせい</sup>では火災は発生しませんでした。



このミゼット消防車は平成12年  
<sup>しょうぼうしや へいせい ねん</sup>(2000)まで四阪島に置かれていました  
<sup>しらかじま お</sup>が、現在は日暮別邸記念館に移され  
<sup>げんざい ひぐらし べつていきねんかん うつ</sup>てんじ  
 展示されています。

◀ <sup>せいげんそくど</sup>なんと！制限速度20km！

<sup>がくしゅう きろく</sup>  
**学習の記録**






かいてい ひだり ねんせい みぎ ねんせい  
▲ 海底ケーブル(左 1922年製 右2008年製)

世界最長  
夢を繋ぐ海底ケーブル

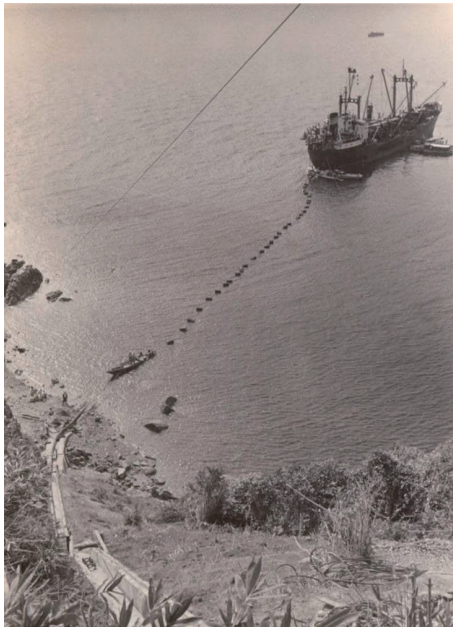
かいてい 海底ケーブルは四阪島へ電気を送るための電線です。端出場水力発電所からの電気を送り、最大送電容量は1,500kWありました。

たいしょう ねん 大正11年(1922)10月に、約1年をかけて新居浜～四阪島約20kmを海底ケーブルで結び、その長さは世界最長記録でした。それまでは、アメリカのサンフランシスコの海底ケーブルが6.7kmで世界最長でした。

とうじ やく 当時、約20kmの長距離敷設については、世界にまだその例が無く、専門家の中でもさまざまな意見が出されました。そこで、大正7年に住友電線製造所(現在の住友電気工業)に対して、その検討を依頼しました。



べっしどうざんきねんかん 別子銅山記念館に四阪島のジオラマや、当時使われていた海底ケーブルが展示されています。ぜひ見に行ってみてください!



▲ かいてい ふせつ ようす  
 海底ケーブル敷設の様子  
 しょうわ ねんさつえい べっしどうざんきねんかんしよぞう  
 昭和32年撮影 別子銅山記念館所蔵



▲ かいてい しゅうり ようす  
 海底ケーブル修理の様子  
 しょうわ ねんさつえい べっしどうざんきねんかんしよぞう  
 昭和31年撮影 別子銅山記念館所蔵

よくとし ほくべい しゅつちよう じつ  
 翌年、北米まで出張し、実  
 ちけんきゆう おこな  
 地研究を行い、プロジェクト  
 せいこう かのうせい じゆうぶん  
 の成功の可能性が十分にある  
 ことを確信しました。帰国後、  
 かくしん きこくこ  
 プロジェクトを飛躍的に推進  
 ひやくてき すいしん  
 していくことになり、大正10  
 ねん せいぞう かいし  
 年に製造が開始されました。

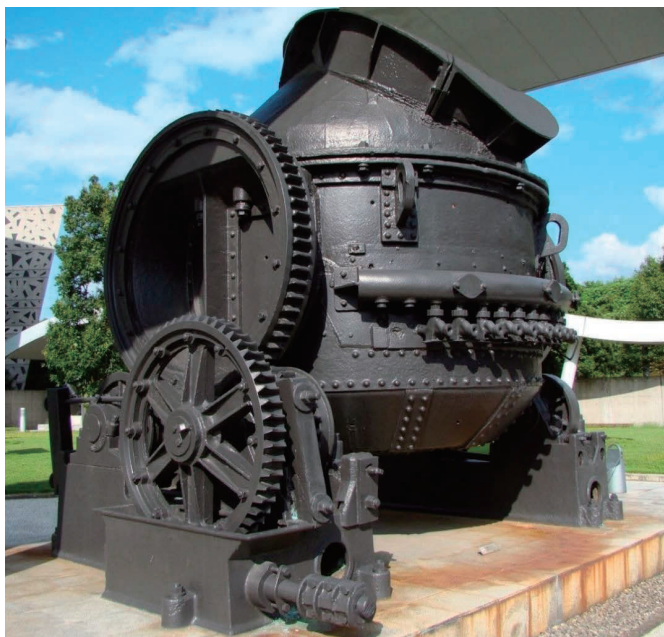
ふせつ ほうほう すうほん  
 敷設の方法は、20数本のケー  
 りくじよう せつぞく  
 ブルをあらかじめ陸上で接続  
 し、ほん  
 2本のケーブルにします。四  
 さかじま にいはま りようがん ちんせつ  
 阪島と新居浜の両岸から沈設  
 さいご かいじよう りよう  
 し、最後に海上で両ケーブル  
 せつぞく とちゆう  
 を接続しました。途中、ケーブ  
 すうりよう ぶそく おお  
 ルの数量不足や多くの失敗、  
 なんこう きわ こうじ  
 難航を極める工事でしたが、そ  
 れらを克服し、かいてい  
 海底ケーブルの  
 ふせつ せいこう  
 敷設に成功しました。

せいこう しさかじませいれん じ  
 その成功は、四阪島製錬  
 ぎよう ただい こうげん おこな  
 業への多大な貢献を行った  
 ばかりでなく、にほん かいてい  
 日本の海底ケー  
 ぎじゆつ あたら ぶん や かい  
 ブル技術の新しい分野を開  
 たくし、せかい きのよ  
 拓し、世界への寄与にもつなが  
 りました。

がくしゅう きろく  
 学習の記録







▲ GF 転炉 (愛媛県総合科学博物館に展示)

GF 転炉は、銅鉱石を溶鉱炉で溶かしたのから銅を取り出す設備のことを言います。

大正11年(1922)～昭和35年(1960)に、四阪島製錬所で3基使用されていました。

GFとは、この転炉が開発されたアメリカ合衆国モンタナ州カスケード郡の工業都市「Great Falls」の名称から由来しています。炉の直径が約3mで一度に10t余りの銅鉱石を処理できました。転炉は、炉がつぼのようになっていて、炉を自由な角度で回転できるところから名付けられています。

素晴らしきりサイクル  
四阪島を彩る



JR新居浜駅前にあるモニュメントの土台に四阪島でつくれたカラミレンガが使われています。駅に着いた際にはぜひ見てみてください!



◀ <sup>でんしゃ</sup>カラミ電車  
<sup>えひめけんそうごうかがくはくぶつかん</sup>  
 (愛媛県総合科学博物館に展示)



▲ <sup>に いはまえきまえ</sup> JR新居浜駅前  
 のモニュメント  
 「<sup>めぐ</sup>あかがねの恵み・<sup>であ</sup>出会い」

<sup>でんしゃ</sup>カラミ電車は、<sup>てんろ</sup>G F転炉  
 により分けられた鉄(カラ  
 ミ)をおわん状の大きな  
 つぼに入れ、海岸の処理  
 場まで牽引して捨ててい  
 ました。この作業は大正  
 11年から昭和30年代まで  
 おこな  
 行われました。

<sup>れっしゃ</sup>1列車に <sup>れんけつ</sup>2~3 のつぼを連結していました。その特徴となる大きなつ  
 ぼから別名「<sup>べつめい</sup>おつぼ電車」とも呼ばれました。

また、カラミはただ捨てられるだけでなく、レンガに使われ「カラミ  
<sup>みちぞ</sup>レンガ」として道沿いや階段、門、塀など四阪島ではいたるところに利  
<sup>よう</sup>用されていました。JR新居浜駅前にも使われています。

<sup>がくしゅう</sup> <sup>きろく</sup>  
 学習の記録





ひぐらしべっていきねんかん  
▲ 日暮別邸記念館

てあ  
出逢いから始まる  
はし  
未来への架橋  
みらい  
かけはし

ひぐらしべっていきねんかん  
日暮別邸は、四阪島に明治39年（1906）5月、住友家の別荘、来客用として建設されました。費用は当時の金額で14,083円でした。

しきちせんてい すみともけ だいかちょう すみともきち ざ えんもともい と みずか おこな  
この敷地選定は、住友家15代家長の住友吉左衛門友純が自ら行った  
といわれています。この建物が位置する丘陵一帯を日暮と言います。  
ひぐらし ちめい しさかじま せいれんしよせつけい けんせつ たずさ しおのものすけ  
日暮という地名は、四阪島の製錬所設計・建設に携わった塩野門の助  
が、この付近から島一帯を見渡しなが、日が暮れるまで新工場の構想  
を練っていたところから由来しています。

ひぐらしべっていき せつけい のぐちまごいち くに じゅうようぶんかさい おおさかふりつ  
日暮別邸の設計は野口孫市（国の重要文化財となっている大阪府立  
なかのしまとしょかん せつけいしや たてもの かいこうぞう  
中之島図書館の設計者）によるものです。建物は2階構造になっており、  
がいかん ようふう がいへき しやう  
外観は洋風のデザインで、外壁にカラミレンガが使用されています。

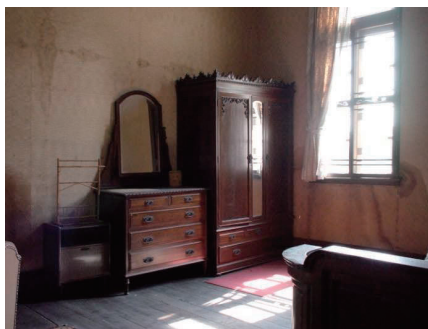


ひぐらしべっていき しさかじま にいはま いせつ  
日暮別邸は、四阪島から新居浜へと移設されたことで、  
じきくう こ わたし べっしどうざん はんえい つた  
時空を越えてよみがえり、私たちに別子銅山の繁栄を伝  
えつづけています。





▲ リビング (移築前)  
いちくまえ



▲ 2階寝室 (移築前)  
かいしんしつ いちくまえ

内部は、19世紀末に欧米で流行していたアール・ヌーボーなどのデザインが取り入れられ、室内に置かれた机や椅子などの家具類も同じ趣向を持ったデザインとなっています。リビングには暖炉も設置されています。吹き抜けの階段を上がると、洋風の寝室が2部屋あり、ここにも暖炉が設置されています。

平成30年(2018)10月には、新居浜市星越山に移設され、新たな出逢いがこの場所で始まりました。



▲ 展望台  
てんぼうだい

記念館から更に登った場所に展望台があります。ここには、四阪島にあった大煙突の大きさを形どったモニュメントがあります。

ここからは、四阪島や新居浜の工場群、別子銅山があった赤石山系を全て見渡すことができます。

### 日暮別邸記念館

住 〒792-0008 愛媛県新居浜市王子町1-11

☎ 0897-31-5017 料 入場無料 時 9:00~16:30

休 月曜日、祝日(日曜日と重なる場合は開館)、10月17日・18日、12月29日~1月3日

がくしゅう きろく  
学習の記録



べっしどうざん りやくねんびょう  
別子銅山の略年表

西暦	和暦	別子銅山の歩み
1690	元禄3年	田向重右衛門一行が別子銅山を見分
1691	元禄4年	別子銅山開坑
1694	元禄7年	別子大火災 死者132人
1698	元禄11年	別子銅山産銅量、明治以前の最高記録
1702	元禄15年	立川中宿・新居浜口屋（浜宿）を設置
1790	寛政2年	別子開坑100年記念祭
1865	慶応元年	広瀬幸平、別子銅山支配人になる
1874	明治7年	仏人鉱山技師ルイ・ラロックを雇用、近代化に着手
1875	明治8年	別子目出度町に私立足谷小学校開校 「別子鉱山目論見書」完成、ルイ・ラロック解雇
1876	明治9年	広瀬幸平、別子近代化企業方針を示す 東延斜坑の開削に着手
1877	明治10年	広瀬幸平、住友家総理代人（後の総理事）となる
1879	明治12年	伊庭貞剛、叔父広瀬幸平に勧められ住友に入る
1880	明治13年	目出度町～新居浜に牛車道完成 日本の鉱山で初めてダイナマイトを実地試験実施
1886	明治19年	第一通洞貫通（旧代々坑口～角石原）
1888	明治21年	窓開製錬所・山根製錬所操業開始
1890	明治23年	別子開坑200年記念式典挙行
1891	明治24年	別子、初めてさく岩機を使用する
1892	明治25年	広瀬幸平、民間人初の明治勲章を受勲
1893	明治26年	別子鉱山鉄道完成（上部：角石原～石ヶ山丈）（下部：新居浜～端出場） 煙害問題発生
1894	明治27年	住友家総理人、広瀬幸平辞職 伊庭貞剛、別子の大造林計画を立て、山林復旧の植林事業を開始
1895	明治28年	新製錬所候補地として四阪島購入
1897	明治30年	四阪島製錬所の建設着手
1899	明治32年	別子大水害 死者513人
1900	明治33年	伊庭貞剛住友家第2代総理事就任 別子開坑200年を記念し皇居前に楠木正成像献納（別子銅）
1902	明治35年	第三通洞貫通（東平坑口～東延斜坑底）
1905	明治38年	四阪島製錬所、本格操業開始 煙害問題発生
1907	明治40年	麓尾勘解任住友入社
1911	明治44年	日浦通洞開通（第三通洞と連結）、別子鉱山鉄道上部線廃止
1912	明治45年	端出場水力発電所完成（3,000kW）
1914	大正3年	広瀬幸平没（87歳） 四阪島製錬所の六本煙突完成
1921	大正10年	四阪島製錬所大改造に着手
1922	大正11年	新居浜～四阪島に海底ケーブル敷設（世界最長を誇る）
1924	大正13年	四阪島製錬所、大煙突完成
1926	大正15年	伊庭貞剛没（80歳）

1927	しょうわ ねん 昭和2年	わしお かげり さいこうせきにんしや まつさ けいせい ど 鷲尾勲解治、最高責任者となり末期の経営を説く
1928	しょうわ ねん 昭和3年	やまね かんせい 山根グラウンド完成
1935	しょうわ ねん 昭和10年	とらなる くらしし きどろ、とらなる は で ほ たんしやく 東平～黒石の索道を東平～端出場へ短縮
1938	しょうわ ねん 昭和13年	しきかにほせいけんしよ ちゅうわこうじょうだい ぎこうしきせい 四阪島製錬所の中和工場第1期工事完成 とらなる ひうら だんしやうてんかいらし 東平～日浦にかご電車運転開始
1939	しょうわ ねん 昭和14年	しきかにほせいけんしよ ちゅうわこうじょうだい ばい かんげんしより せいどう 四阪島製錬所の中和工場第2期工事完成、排ガス完全処理に成功 しきかにほせいけんしよ せんがんげんたい かんげんけつ 四阪島製錬所の煙害問題が完全解決
1960	しょうわ ねん 昭和35年	だいしやこう かい ちやくしや 大斜坑の開さく着手
1961	しょうわ ねん 昭和36年	べっしどうざんいんかだつ か かいほつぎきようかんせい 別子鉱山浅津下部開発起業完成
1968	しょうわ ねん 昭和43年	とらなるこうきやうし 東平坑休止
1969	しょうわ ねん 昭和44年	だいしやこうかんせい 大斜坑完成
1972	しょうわ ねん 昭和47年	かごだん車廃止 (東平～日浦)
1973	しょうわ ねん 昭和48年	べっしこうざんいんかだつこうじょうくつ べっしどうざんいんざん 別子鉱山浅津坑終掘 別子銅山閉山
1975	しょうわ ねん 昭和50年	べっしこうざんいんざんかんがいかん 別子銅山記念館開館
1976	しょうわ ねん 昭和51年	しきかにほせいけんしよ とうげんしやそうぎきょうじょうくつ 四阪島製錬所の銅製錬操業 終結
1981	しょうわ ねん 昭和56年	わしお かげり ぼつ さい 鷲尾勲解治没 (99歳)
1988	しょうわ ねん 昭和63年	べっししょうりつ ㈱マイントピア別子創立
1990	へいせい ねん 平成2年	べっしかいこう べんきねんしきてんきようこう 別子開坑300年記念式典挙行 すむとちかかくこうぎよう さひゆこうじょうれきしりょうかんがいかん きょうすむとちかかくこうじょうにい はましてん 住友化学工業(株)愛媛工場歴史資料館開館 (旧住友銀行新居浜支店)
1991	へいせい ねん 平成3年	べっしは で ほ ㈱マイントピア別子端出場ゾーンオープン
1994	へいせい ねん 平成6年	べっしは で ほ ㈱マイントピア別子東平ゾーンオープン
1997	へいせい ねん 平成9年	ひろせれきしきねんかんがいかん 広瀬歴史記念館開館
2001	へいせい ねん 平成13年	い ぼていこうぼつご せいねんきねん ひごんりゆう すむとち ちり 伊庭貞剛没後75周年記念碑建立 (住友の森エコシステム) きょうすむとちかかくこうぎようにい はましてん げん すむとちかかくれきしりょうかん とうろくけうけいぶんかさい とうろく 旧住友銀行新居浜支店 (現 住友化学歴史資料館) 登録有形文化財に登録 かんきこう かんとうこうげん 歓喜坑、歓東坑復元
2003	へいせい ねん 平成15年	ひろせせいいん げんさう ふくげん ひろせれきしきねんかん 広瀬幸平の銅像が復元 (広瀬歴史記念館) きょうひろせてい くに じゅうようぶんかさい してい 旧広瀬邸が国の重要文化財に指定
2005	へいせい ねん 平成17年	とら じしし くに とうろくけうけいぶんかさい とうろく 遠登志橋が国の登録有形文化財に登録
2009	へいせい ねん 平成21年	は で ほ だうきやう ぎやうやねんけんしよせんどうつ やまねきやうぎきょうかんらんせき 端出場鉄橋・端出場隧道・旧山根製錬所煙突・山根競技場観覧席・ きょうせんしよていどくべつしつ とうろくけうけいぶんかさい とうろく 旧泉寿亭特別室が登録有形文化財に登録
2011	へいせい ねん 平成23年	きょうは で ほせいりやくはつてんしよ とうろくけうけいぶんかさい とうろく 旧端出場水力発電所が登録有形文化財に登録
2013	へいせい ねん 平成25年	しきかにほせんこうつかいだい 四阪島煙突解体
2014	へいせい ねん 平成26年	ほしごさきしやしょうく 星越駅舎修復
2015	へいせい ねん 平成27年	じきょうしやあち わしお かげり けんしやうきんねんこうせん かんせい 自噴彙跡に鷲尾勲解治顕彰記念公園が完成 きょうは で ほせいりやくはつてんしよ ほんざんたいかく かいし 旧端出場水力発電所保存計画を開始
2017	へいせい ねん 平成29年	かんきこう かんとうこうがいしやう 歓喜坑・歓東坑改修
2018	へいせい ねん 平成30年	きょうひろせ せいねん かいしやう 旧広瀬氏庭園が国の名勝に指定 ひぐらしべつてい にい はま ちやく 日壽別邸が新居浜に移築
2019	へいせい ねん 平成31年	どうざんみね くに てんねんきねんぶつ とうろく 銅山峰のツガザクラが国の天然記念物に登録
2020	れいわ ねん 令和2年	すむとちやまだにやたく くに とうろくけうけいぶんかさい とうろく 住友山田社宅が国の登録有形文化財に登録
2023	れいわ ねん 令和5年	きょうは で ほせいりやくはつてんしよいっほんこうかい 旧端出場水力発電所一般公開



# べっしどうざん いじん 別子銅山の偉人

ひろせさいへい  
広瀬宰平

ぶんせい ねん たいしょう ねん  
文政11年～大正3年 (1828～1914)

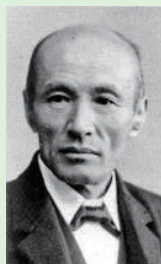


すみともしりょうかんしやう  
住友史料館所蔵

しがげん や すししゆつしん さい べっしどうざん つと おじ  
滋賀県野洲市出身。9歳のときに別子銅山に務めていた叔父につ  
れられて別子銅山に来た。11歳で別子銅山に勤務し、慶応元年  
(1865)38歳で別子銅山支配人となる。明治維新に際し、新政府に  
接収された別子銅山の鉱業権をねばり強い交渉により確保し  
た。別子銅山の近代化を図り、家法を制定するなど、住友の歴史上  
くっし こうろうしや べっしどうざん こうぎようけん つよ こうしやう かくほ  
屈指の功労者であった。また大阪商法会議所、大阪商船など  
いくた かいしゃ せつりつ かんよ おおさかざいかい ちゆうしんじんぶつ  
幾多の会社の設立に関与し、大阪財界の中心人物でもあった。そ  
のような活動の功績が認められ、明治25年(1892)に民間人で初め  
て明治勲章を受けた。

いばていこう  
伊庭貞剛

こうか ねん たいしょう ねん  
弘化4年～大正15年 (1847～1926)



すみともしりょうかんしやう  
住友史料館所蔵

しがげん おうみほちまんししゆつしん ひろせさいへい おい めいじ ねん おおさかじやう  
滋賀県近江八幡市出身。広瀬宰平の甥。明治12年(1879)大阪上  
とうさいばんしよ ほんじ おじ ひろせ すす すみとも はい ぎんこう  
等裁判所の判事から、叔父広瀬の勧めにより住友に入る。銀行、  
そうこ しんどうしよ ちゆうこうしよ せつりつ べっしどうざん えんがいくく  
倉庫、伸銅所、鑄鋼所などを設立する。別子銅山の煙害克服のた  
め、製錬所の移転や植林を実行した。人格高潔にして、明治37年  
「事業の進歩発達に最も害するものは、青年の過失ではなくて、  
ろうしん ぼつこ さい おおつししやま べつそう かつ ぎんなん いんげん  
老人の跋扈である」と、58歳で大津石山の別荘活機園に隠棲した。

すずき まさや  
鈴木馬左也

ぶんきやうがねん たいしょう ねん  
文久元年～大正11年 (1861～1922)



すみともしりょうかんしやう  
住友史料館所蔵

みやざきけん ぐくぐん かなべちやうしゆつしん めいじ ねん すみともほんてんふんくしはいんに  
宮崎県児湯郡高鍋町出身。明治29年(1896)住友本店副支配人と  
にゆうしや いばていこう べっしどうざん けいかく う つ さんりんじぎやう  
して入社した。伊庭貞剛の別子造林計画を受け継ぎ、山林事業を  
おこした。また、にい はま えんがいもんたい ごんほんてき かいけつさく しめ ものごと  
新居浜の煙害問題も根本的な解決策を示し、物事の  
ただ すじみち そ けいえい おこな めいじ ねん さい わか  
の正しい筋道に沿った経営を行った。明治37年に44歳の若さで、  
すみとも そうり し しゆうにん じぶん せいぎこうどう ふ みな こっかひやくねん  
住友の総理事に就任。「自分は正義公道を踏んで、皆と国家百年  
しごと かんが じぶん けいえいほうしん しめ  
の仕事をなす考えである」と、自分の経営方針をはっきりと示し  
すずき お こっかひやくねん じぎやう いま い つづ  
た。鈴木が起こした国家百年の事業は今もなお生き続けている。

わしおかげじ  
鷲尾勘解治

めいじ ねん しょうわ ねん  
明治14年～昭和56年 (1881～1981)



すまじりょうかんしやう  
住友史料館所蔵

ひょうごけんこうべししゅつしん めいじ ねん きょうとていこくだいがくほうがくぶ そつぎょうご  
兵庫県神戸市出身。明治40年(1907)京都帝国大学法学部を卒業後  
すみともけゆうしや ただ べっしこうぎょうしよきんむ たいしょうがんねん  
住友入社、直ちに別子鉱業所勤務となる。大正元年(1912)  
きゆうべっしさんちゆう しじゆく じきょうしや せつりつ わかてじゆうぎょういん しどう  
旧別子山中に私塾である「自彊舎」を設立。若手従業員の指導  
つと たいしやう ねん どうしよしはいにん しょうわ ねん すみともべっし  
に努めた。大正15年、同所支配人となる。昭和2年(1927)住友別子  
こうざんせつりつ あ じょうむとりしまりやく どう ねんすみともぎょうしがいしやじょうむり  
鉱山設立に当たり常務取締役、同6年住友合資会社常務理事に  
こうざんせつりつ いっかん ちいきしやかい きょうぞんきやうえいろせん どう ねん  
就任し、一貫して地域社会との共存共栄路線をとったが、同8年  
ゆえ たいしよく ご しょうわ ねん にいはましきじゆう しやかいきやうい  
故あって退職。その後、昭和28年に新居浜市に帰住し、社会教育  
じんりよく  
に尽力した。

しおのものすけ  
塩野門之助

かえい ねん しょうわ ねん  
嘉永6年～昭和8年 (1853～1933)



すまじりょうかんしやう  
住友史料館所蔵

しまねけんまつえししゅつしん めいじ ねん さい ほん がっこう  
島根県松江市出身。明治3年(1870)18歳のときに、藩の学校  
しゅうどうかん ごがくしじやう としまつえほん まね  
修道館において「語学修行」をおこない、その年松江藩が招いた  
じん ごがく まな ご がいむしやう つと めいじ  
フランス人から語学を学んだ。その後、外務省へ務めたが、明治7  
ねん べっしどうざん やと じんこうざん ぎし  
年に別子銅山に雇われたフランス人鉱山技師ルイ・ラロックの  
つうやく すみとも にゆうしや さい りゆうがく  
通訳として住友に入社した。その際にルイ・ラロックが作成した  
きんだいかけいかく べっしこうざんもくろみしよ ほんやく せいれん  
近代化計画である「別子銅山目論見書」を翻訳した。ところが、製錬  
ぎじゆつ ほんやく ひろ せさいへい もう で りゆうがく  
技術の翻訳ができず、広瀬幸平に申し出てフランスに留学した。  
きこくご そうびらきせいれんしよ せつけい うちゆう ひろせ たいりつ べっしどうざん  
帰国後、惣開製錬所の設計をした。途中、広瀬と対立し別子銅山  
をやめ、めいじ 20年 あしおどうざん きんむ わくにはつ てんろ かいほつ  
明治20年に足尾銅山へ勤務、我が国初の転炉を開発した。  
めいじ ねん い ぼていどう ふた すみとも まね し さかじませいれんしよ  
明治28年に伊庭貞剛により再び住友へ招かれ、四阪島製錬所の  
せつけい けんせつ じゆうじ  
設計・建設に従事した。

がくしゅう きらく  
学習の記録



べっしどうざん いじん  
**別子銅山の偉人**

ルイ・ラロック

てんほうねん めいじねん  
 天保7年～明治16年 (1836～1883)



すんどうしりょうかんしやう  
 住友史料館所蔵

フランス人**鉱山技師**。パリ**鉱山学校**を卒業後、大学で化学教授を務める。明治7年(1874)、**広瀬幸平**によって**住友**に招かれた。明治8年、**別子銅山**の近代化計画である「**別子銅山目論見書**」を作成した。そのときの、**ルイ・ラロック**の月給は、**広瀬幸平**の6倍にあたる**600円**という高い**給料**だった。

おがわとうご  
**小川東吾**

まんえんがんねん しょうわねん  
 万延元年～昭和8年 (1860～1933)



すんどうしりょうかんしやう  
 住友史料館所蔵

茨城県利根町出身。工部省**技師**。その後、**日本土木会社**・**讃岐鉄道**を経て、**別子銅山鉄道**の**技師**となり、**別子銅山鉄道**を設計した。**住友**を辞職後は、**鉄道局**・**草津軽便鉄道**・**小田原電気鉄道**などの**技師**を歴任している。

しらいしたかじろ  
**白石蒼二郎**

めいじねん しょうわねん  
 明治7年～昭和26年 (1874～1951)



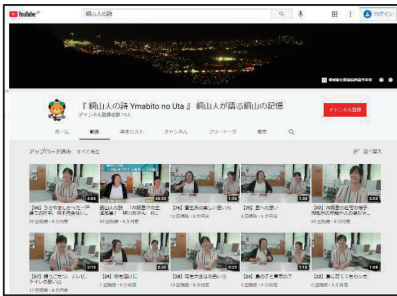
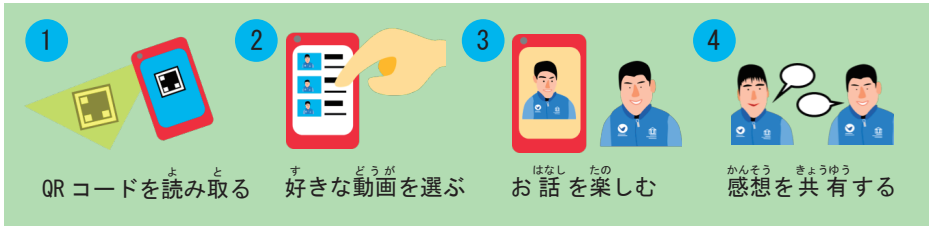
にいばししやう  
 新居浜市所蔵

愛媛県西条市出身。**新居浜村議**、**町議**、**町長**、**初代市長**として**連続45年間**、**自治行政**に尽くした。**住友**との**共存・共栄**を政治信念とし、**新居浜100年**の大きな計画を築き上げた。**鉱山**による**煙害問題**の円満解決、**市制施行**、**図書館設立**、**武徳殿**、**教育会館**建設など、**文化**の向上にも貢献し、**現在**の**新居浜**における**都市基盤**形成の**基礎**を作り上げた。





# やまびと うた 銅山人の詩



やまびと うたは、別子銅山に関わりのある方「銅山人」にお話をお聴きし、後世へつなげる活動です。インターネット上で視聴ができます。生活風景や坑内の仕事を知ることができ、タイムスリップすることができます。

別子銅山は閉山してしまいましたが、私たちが未来へ語り継ぐことによって、「地上の星」として輝き続けたいと思います。

「銅山人の詩」を見て、未来の語り部の一員になりませんか？

この活動を通して、記憶の大切さを感じました。小学生当時のエピソードを詳しく話してくださいました。もし私が思い出を話すようにと言われても上手に話せないと思います。将来、僕たちも次の世代に平成・令和の暮らしを語れるように今を大切にしましょう！



この活動で、別子銅山のことがさらに大好きになりました。近代化産業遺産の魅力にとっても惹かれていましたが、銅山人の詩で、別子銅山の生活の様子や坑内の仕事を知ることができました。

銅山人の詩を見て、別子銅山のさらなる魅力を発見してください！！

夏に海水浴場で遊んだお話が特に印象に残っていて、家のアルバムを見ていたら、なんとその海水浴場の写真が見つかったんです！昔の話を聴くと、何気ない写真にも意外な価値が見つかるかもしれませんよ。





# ほごかつどう ツガザクラ保護活動



- 1 **にはまみなみこうこう 新居浜南高校へ連絡する**
- 2 **どうざんみね とざん 銅山峰へ登山する**
- 3 **ほごかつどう さんか 保護活動に参加する**
- 4 **かんそう きょうゆう 感想を共有する**



「ツガザクラ保護活動」は銅山峰に自生している「ツガザクラ」を保護する活動です。

ツガザクラの生育を記録するため、生育地点周辺をカメラで撮影する定点観測やツガザクラの踏み荒らしを防ぐための、保護柵とロープの設置を行います。

2019年2月に「銅山峰のツガザクラ群落」として国の天然記念物に指定されました。現在は、新居浜南高校と懂山会が中心となって行っていますが、より多くの人に関わっていくことが求められています。一緒に別荘銅山の宝物を守りませんか？



## ていてんかんそく 定点観測

ツガザクラがどのように生えているのか？どのような植物と共存しているのか？を考えながら取り組んでいます。満開のツガザクラに囲まれ、作業をしていると「絶対守りたい！」という気持ちが湧いてきます。最高ですよ！

## さく てんけん ロープ柵の点検

ロープを担いで山歩き！市街地を眺望できる場所や他の山々を眺められる場所など様々なところを歩いてとても気持ちがいいですよ！もちろん、足元のツガザクラの眺めも最高ですよ！！



## さく 柵のくい打ち

力が要りますが、柵がはまった感触が気持ちよく、ツガザクラのかわいらしさが原動力になります。くいはいたくさんあるので、ぜひ一緒に参加してもらいたいです。

# あ と が き

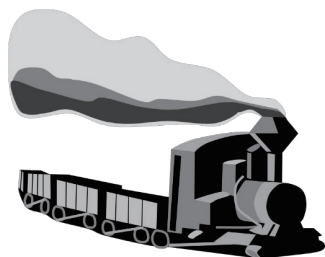


別子銅山 88カ所巡。てみてどうでしたか？  
銅山の暮らしが、銅山の仕事が想像できたのでは  
ないのでしょうか？  
その想像を胸に、暮らしてみてください。ちょっと毎日が楽し  
くなると思います。

そうだ、銅山へ行こう!!

3年次 秋山響

みんなで知ろう! みんなで学ぼう!  
興味があふれますよ!!!  
みなさんと別子銅山に良い  
“つながり”が、できまように  
3年次 高須 眞



1度手に取れば、その重さから歴史を  
感じる。そんなガイドブックです。  
楽しい「学び」の世界、ご賞味あれ!

2年次 村上 章太



令和2年度 ユネスコ部員  
(第4刷改定メンバー)



# あ と が き

別子銅山の魅力を詰まったガイドブック

一生懸命つくりました！ このガイドブックを手に

別子銅山の歴史をめぐって、ふれて、感じて  
もらえたら嬉しいです。そうだ、銅山(やま)へ行こう！！

3年次 田中 隆矢

私たちの高校3年間の集大成です。

たくさんの人にこのガイドブックを  
手に取ってもらえると嬉しいです。

新居浜市が

これからも発展し続けますように。

このガイドブックを読んで、 3年次 加藤 文音

別子銅山や新居浜に興味を持って、

ひとりでも多くの人にふるさとを

もっと好きになってほしいと願っています。

3年次 古川 若奈

いろいろな思いが詰まったガイドブック。

少しでも別子銅山に興味をもっていたら

幸いです。

3年次 松浦 理久

このガイドブックには、僕の高校三年間のすべてが詰まっています。一生懸命作ったので、大切に使ってください。

このガイドブックが少しでも多くの人目に留まるよう願っています。

3年次 堤優弥

このガイドブックをきっかけとして、別子銅山に興味を持ってもらえると嬉しいです。

新居浜に「シビックプライド(地域に対する愛着や誇り)」を持つ人が増えますように。

1年次 伊藤美紀

私は、ユネスコ部に入部して新たな一歩を踏み出すことができたように思います。

この別子銅山の魅力が詰まったガイドブックを手に実際に現地を訪れてもらい別子銅山の素晴らしさを感じ、伝えてもらえると幸いです。

1年次 田村美羽



平成 29 年度 ユネスコ部員 (第 1 刷作成メンバー)

## あとがき

1年次のときにつくったガイドブックが  
ついに第3刷になりました！ 3年間  
ガイドブックと共に成長することが  
できました。これを持って、  
そうだ、銅山<sup>やま</sup>へ行こう！！

3年次 伊藤美紀

別子銅山の素晴らしさが詰まった  
ガイドブックです。

私たちの住む新居浜が発展続けているのは  
先人のおかげであること忘れないください。

新居浜市が発展を続けますように！！

3年次 田村美羽

別子銅山はぼくの光です。

別子銅山は出逢いをくれ、

ぼくの人生を輝かせた。

別子銅山があなたの光になりますように。

2年次 秋山<sup>郷音</sup>



このガイドブックを読みおこなひる銅山と  
ガイドブックを読んでみる銅山には  
確かな違いがあると思います。  
せひ新居浜市を歩く際には  
ガイドブックをその手に!!

2年次 高須賀天真

僕たちの持つ『郷土愛』をおすすめ分け  
したいと思いお話ししました!せひこの  
ガイドブックを持ち歩き、新居浜の良さを  
探してみてください!

1年次 村上章太



令和元年度 ユネスコ部員 (第3刷改定メンバー)

# 参考文献

- 『住友別子鉱山史』住友金属鉱山株式会社  
『四阪島の大煙突』住友金属鉱山株式会社  
『四阪島物語～四阪島鉱場操業百周年記念誌～』住友金属鉱山株式会社  
『住友化学工業株式会社史』住友化学工業株式会社  
『住友化学 100 年の歩み』住友化学工業株式会社  
『住友林業社史』住友林業株式会社  
『住友共同電力のあゆみ』住友共同電力  
『住友の歴史から』住友商事株式会社  
『鈴木馬左也』鈴木馬左也翁伝記編纂会  
『あかがねの故郷』新居浜住友六社  
『住友倶楽部・泉寿亭 リーフレット』住友倶楽部  
『別子鉱山鉄道略史』別子銅山記念館  
『住友の四阪島製錬所-煙害克服の歴史』別子銅山記念館  
『別子銅山開発の偉業を成し遂げた採鉱技術』別子銅山記念館  
『別子銅山記念館 リーフレット』別子銅山記念館  
『日暮別邸記念館 リーフレット』日暮別邸記念館  
『半世物語』広瀬宰平  
『別子鉱山目論見書 1 部・2 部』ルイ・ラロック(末岡照啓・訳)  
『私の考えたにはまの将来』鷲尾勘解治  
『惣開讀本』住友惣開小学校  
『住友活機園 リーフレット』住友活機園  
『泉屋博古館』住友活機園  
『住友有芳園』住友活機園  
『伊庭貞剛小伝-環境対策の先駆者』末岡照啓  
『橋本峯山禪師と広瀬宰平・伊庭貞剛』末岡照啓  
『広瀬宰平と伊庭貞剛』末岡照啓  
『別子銅山と近代日本-その世界史的意義』末岡照啓  
『幽翁』西川正治郎  
『別子写真帖(光森利藻・撮影)』光森印刷株式会社  
『口屋-現在・過去・未来-』新居浜口屋記念公民館  
『別子山の句碑・歌碑』別子山村  
『歓喜の鉱山』新居浜市  
『未来の鉱脈』新居浜市  
『別子銅山-近代化産業遺産を活かしたまちづくり総合整備計画』新居浜市

『別子銅山端出場水力発電所-社内報から見た』新居浜市(住友共同電力)  
『別子銅山の近代化を見守った広瀬邸』新居浜市教育委員会  
『別子銅山の近代化を見守った広瀬邸-旧広瀬邸建造物調査報告書-』新居浜市教育委員会  
『別子銅山を読む講座・レジュメ集』新居浜市立別子銅山記念図書館  
『別子銅山と近代化産業遺産』広瀬歴史記念館  
『新居浜市広瀬歴史記念館・旧広瀬邸 リーフレット』広瀬歴史記念館  
『広瀬宰平』広瀬歴史記念館  
『広瀬宰平小伝』広瀬歴史記念館  
『広瀬宰平と伊庭貞剛の軌跡』広瀬歴史記念館  
『広瀬宰平と近代日本』広瀬歴史記念館  
『別子銅山近代化の息吹-明治14年写真帳の世界』広瀬歴史記念館  
『広瀬邸と庭園のなりたち』広瀬歴史記念館  
『旧広瀬氏庭園(広瀬公園)調査報告書』広瀬歴史記念館  
『愛媛県総合科学博物館研究報告書3号(端出場の状況)』橋本久美子 愛媛県総合科学博物館  
『鉱山絵葉書から見た産業史に関する考察』吉村久美子 愛媛県総合科学博物館  
『愛媛温故紀行』愛媛地域政策研究センター  
『特別展・よみがえる銅』大阪歴史博物館  
『九州大学工学部所蔵・鉱山製錬関係史料』九州大学  
『日本の鉱山文化』国立科学博物館  
『明治の別子』伊藤玉男  
『銅山』岩波写真文庫  
『すみとも風土記』佐々木幹郎  
『益友1巻～59巻の別子銅山関係事項』自彊舎記念会  
『別子銅山中国人俘虜慰霊報告書』四国別子銅山中国人俘虜殉難者慰霊実行委員会  
『社宅街 企業が育んだ住宅地』社宅研究会  
『白石誉二郎翁伝』白石誉次郎翁伝記刊行協賛会  
『住友西基地』御霊供養・基標調査 曾我・小田・入江・谷口  
『別子銅山』坪井利一郎  
『山の東平霧立ち込めて』同窓会  
『鷺尾勘解治翁』燧洋倶楽部  
『明治三十二年諸国災害図会』東陽堂  
『別子あこのころ 山浜島』日和佐初太郎  
『別子銅山のあゆみ』マイントピアを楽しく育てる会  
『山村文化 1号～35号』山村文化研究会



ちよさくけん

## 著作権について

わたし せいさく おお かがた きょうりょく  
私たちの制作したガイドブックは、多くの方々のご協力によ  
って完成させることができました。そして貴重な資料を数多くご  
提供いただくこともできました。

かんけいきかん かんけいしゃ みなさま ふか れいもう あ  
関係機関、関係者の皆様に深くお礼申し上げます。  
ありがとうございました。

しりょう すべ ちよさくけん  
ガイドブックのそれぞれの資料には全て著作権があります。

しりょう がくしゅうかつどう いっかん ちよさくけんしゃ きよ  
それぞれの資料は、学習活動の一環として著作権者により、許  
諾をいただき使用しております。写真や図など全ての内容につい  
て許可無く利用することはご遠慮ください。

けんがく

## 見学について

けんがく あんぜんだいいち しゅうへん ようす ちゅうい  
見学は、安全第一です。周辺の様子にもご注意ください。

かどう こうじょう た はい きんしばしょ こうつうりょう はげ ぼしょ  
稼働している工場や立ち入り禁止場所、交通量の激しい場所  
などもあります。

じゅうたくち ぼしょとう けんがく しゃしん どうが かつえい きろく  
また、住宅地や墓所等の見学、写真・動画の撮影や記録などに  
ついて格段のご配慮もお願いします。

---

べっしどうざん きんだいかさんぎょういさん はちじゅうはち しょ  
別子銅山 近代化産業遺産 八十八か所  
ふれあいめぐりあいガイドブック  
～メインからマインドへ～

だい さつ へいせい ねん がつはっこう  
第1刷 平成30年(2018) 3月発行

だい さつ へいせい ねん がつはっこう  
第2刷 平成30年(2018) 11月発行

だい さつ れいわ ねん がつはっこう  
第3刷 令和2年(2020) 3月発行

だい さつ れいわ ねん がつはっこう  
第4刷 令和3年(2021) 4月発行

(新居浜市教育委員会発行)

だい さつ れいわ ねん がつはっこう  
第5刷 令和6年(2024) 11月発行

へんしゅう えひめけんりつにいはまみなみこうとうがっこう ぶ  
編集／愛媛県立新居浜南高等学校 ユネスコ部

はっこう にいはま  
発行／新居浜ロータリークラブ

〒792-0836 えひめけん にいはま ししのぼちょう ばんごう  
愛媛県新居浜市篠場町1番32号

TEL (0897) 43-6191 FAX (0897) 44-7447

URL <https://niihaminami-h.esnet.ed.jp/>



もとにいはましべっしどうざんぶんかいさんかちょう つばいとしいちろう  
アドバイザー／元新居浜市別子銅山文化遺産課長 坪井利一郎

---





